

第2次丸亀城大手町地区 埋蔵文化財発掘調査報告書

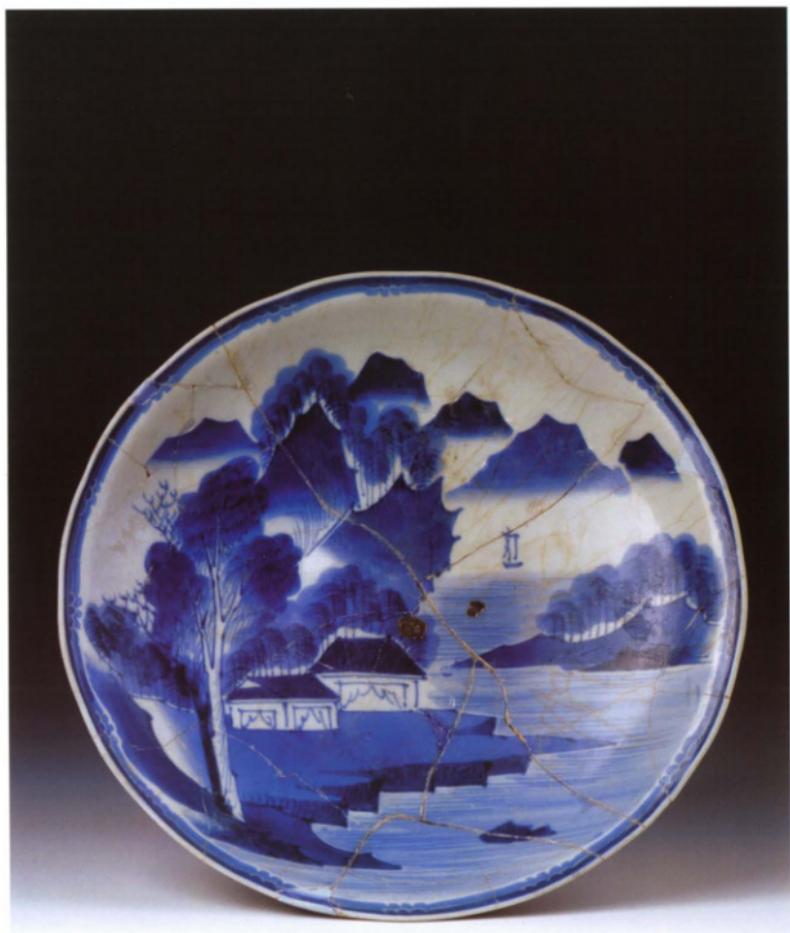
ロイヤルガーデン大手町建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

平成20年2月

株式会社和田コーポレーション
丸亀市教育委員会

訂正

写真図版の出土遺物図版 5、102 SE01 1380 の丸瓦凸面の写真と CD 掲載の写真は、
SD02 出土未報告丸瓦の写真でありましたので訂正します。



SK02出土遺物

卷頭写真 2



SK02出土遺物

卷頭写真 3



色絵陶器・磁器

例　　言

- ・本書は、株式会社和田コーポレーションのマンション「ロイヤルガーデン大手町」建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- ・調査地住所は丸亀市大手町三丁目1番23号で、敷地内の主要な遺跡は丸亀城跡の武家屋敷地遺構と近代の陸軍関係遺構である。
- ・株式会社和田コーポレーションと丸亀市が埋蔵文化財調査協定書を締結し、丸亀市教育委員会指導のもと丸亀市教育委員会文化課 東 信男と高畠 裕が埋蔵文化財発掘調査を担当した。
- ・埋蔵文化財調査協定書は（仮称）ロイヤルガーデン大手町建設に伴う埋蔵文化財調査管理業務とし、業務期間は平成18年5月8日から平成19年9月30日までとした。
- ・埋蔵文化財発掘調査は平成18年5月8日～平成18年7月31日まで実施した。
- ・整理作業は平成18年8月1日～平成19年7月31日まで実施し、上器の注記・実測作業、写真撮影、編集作業を実施した。
- ・報告書の執筆及び編集は東 信男がおこなった。
- ・報告書の作成に当っては、下記の方々のお世話になった。謝意をいたします。

株式会社和田コーポレーション 和田康博 内海祐一郎 三宅洋史

堀家守彦 遠藤 亮 片桐孝浩（香川県埋蔵文化財調査センター） 川畑 晃（高松市教育委員会）
大島和則（高松市教育委員会） 佐藤英聖（財団法人元興寺文化財研究所） 乗岡 実（岡山市教育委員会） 福原茂樹（広島市文化財団） 荒木幸治（赤穂市教育委員会） 大北知美（丸亀市立資料館） 吉久由紀子（丸亀市立資料館） 吉澤加代子（多度津町教育委員会）

- ・記録類や出土品は、丸亀市飯山中央公民館、丸亀市金倉現場事務所で整理を行い、図版類は丸亀市生涯学習センターで、遺物は丸亀市綾歌町栗熊倉庫で保管している。

- ・作業員の雇用は株式会社和田コーポレーションと満岡組で行い、重機掘削・埋め戻しは満岡組で行った。

満岡組　満岡昌二郎・松村和夫・林 正弘

作業員 高木繁夫・松内朝彦・松本春夫・伊藤福島・喜岡 茂・末光甲正・塙田静夫・合田 貢・田中澤次・西村康夫・大川義久・辻村敏一・畠尾邦彦・宮武洋子・杉峰ヨシ子

- ・遺構平面図・土層断面図は丸亀市教育委員会で行い、写真測量による遺構平面図・井戸の断面図・溝跡石列の立面図等の作成を株式会社イビソクが行った。図面のトレースは北山多佳子、半井佑典が行った。

- ・陶磁器・墨書き器・擂鉢・石製品等の実測は株式会社イビソクが行い、陶器・瓦等の実測は東信男、北山多佳子、谷口 恙が行った。

- ・出土遺物図版の遺構番号右側の4桁の数字は写真整理番号で、株式会社イビソク受託のもと寿福写真工房が撮影した。整理番号のないものは、東が行った。

凡　　例

方位・高さの表示方法

座標は世界測地系を用いている。座標北は磁北から $7^{\circ} 10' 4''$ 東へ傾いている。標高は東京湾海水面を利用している。

遺構・遺物実測図の縮尺等

遺構平面図、土層図はS=1/50とし、縮尺の異なるものは図中に示している。

遺物の縮尺は、土器S=1/4、瓦S=1/6、石製品S=1/6。土製品などの小さなものはS=1/2、銭と泥面子、小型の土鐘はS=1/1である。

本文中の土層及び遺物に関する表記『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に依拠した。

本　文　目　次

| | |
|-----------------------|----|
| 第1章 経過 | 1 |
| 第1節 調査の経過 | 1 |
| 第2節 整理作業の経過 | 4 |
| 第2章 遺跡の位置と環境 | 5 |
| 第1節 地理的環境 | 5 |
| 第2節 歴史的環境 | 5 |
| 第3節 丸亀城の歴史 | 7 |
| 第4節 城絵図について | 8 |
| 第3章 試掘調査の方法と成果 | 11 |
| 第4章 発掘調査 | 14 |
| 第1節 土層序 | 14 |
| 第2節 遺構 | 23 |
| 第3節 遺物 | 51 |
| 第5章 出土瓦の分類と変遷 | 89 |
| 第6章 出上遺物の集計について | 93 |
| 第7章 総括 | 95 |

挿図目次

巻頭写真1 SK02出土遺物

巻頭写真2 SK02出土遺物

巻頭写真3 色絵陶器・磁器

| | | |
|------|----------------------------|----|
| 第1図 | 遺跡位置図 | 5 |
| 第2図 | 遺跡分布図 | 6 |
| 第3図 | 丸亀城・武家屋敷・城下町 | 8 |
| 第4図 | 讃岐国丸亀城絵図「大洲の図」(14-23) | 9 |
| 第5図 | 寛文年間の絵図(14-11) | 9 |
| 第6図 | 元禄年間の絵図(14-45) | 9 |
| 第7図 | 丸亀城郭及び城下町古地図 享和二年(14-28) | 10 |
| 第8図 | 天保十五年甲辰 九月 原文文政十一亥子(14-40) | 10 |
| 第9図 | 嘉永七年 圓亀家中屋敷割(14-32) | 10 |
| 第10図 | 試掘トレンチ位置図 | 11 |
| 第11図 | 土層図(1) | 12 |
| 第12図 | 土層図(2) | 13 |
| 第13図 | 調査位置図 | 15 |
| 第14図 | 土層位置図・上層図(1) | 17 |
| 第15図 | 土層図(2) | 19 |
| 第16図 | 土層図(3) | 21 |
| 第17図 | 調査区設定図・東区上面遺構平面図 | 23 |
| 第18図 | 遺構平面図 | 25 |
| 第19図 | 第1期下層平面図・土層図 | 27 |
| 第20図 | SK82 平面図・土層図 | 27 |
| 第21図 | SK86・SK75 平面図・土層図 | 28 |
| 第22図 | SK67 平面図・土層図 | 28 |
| 第23図 | SK68 平面図・土層図 | 29 |
| 第24図 | SK91 平面図・土層図 | 29 |
| 第25図 | SK70 平面図・土層図 | 30 |
| 第26図 | SK26 平面図・土層図 | 30 |
| 第27図 | SK62 平面図・土層図 | 31 |
| 第28図 | SK65 平面図・土層図 | 31 |
| 第29図 | SK31 平面図・土層図 | 32 |
| 第30図 | SK18 平面図・土層図 | 32 |
| 第31図 | SK63 平面図・土層図 | 33 |
| 第32図 | SK69 平面図・土層図 | 33 |

| | | | |
|------|---------|-----------------|----|
| 第33図 | SE01 | 井戸・SK21 平面図・土層図 | 34 |
| 第34図 | SX10 | 平面図・断面図 | 34 |
| 第35図 | SE01 | 井戸 断ち割り図 | 35 |
| 第36図 | SK74 | 平面図・土層図 | 36 |
| 第37図 | SK32 | 平面図・土層図 | 36 |
| 第38図 | SK73 | 平面図・土層図 | 37 |
| 第39図 | 造成土 1・2 | 平面図 | 38 |
| 第40図 | SK28 | 平面図・土層図 | 38 |
| 第41図 | SX11 | 平面図・土層図 | 39 |
| 第42図 | SK88 | 平面図・土層図 | 39 |
| 第43図 | SK20 | 平面図・土層図 | 40 |
| 第44図 | SK90 | 平面図・断面図 | 40 |
| 第45図 | SK05 | 平面図・十層図 | 41 |
| 第46図 | SK56 | 平面図・十層図 | 41 |
| 第47図 | SD10 | 下層溝 平面図・土層図 | 42 |
| 第48図 | SD10 | 上層溝 平面図・土層図 | 43 |
| 第49図 | SB01 | 平面図・十層図 | 44 |
| 第50図 | SK49・50 | 平面図・土層図 | 45 |
| 第51図 | SK17 | 平面図・断面図 | 45 |
| 第52図 | SK52 | 平面図・十層図 | 46 |
| 第53図 | SK53・54 | 平面図・土層図 | 46 |
| 第54図 | SK03 | 平面図・十層図 | 47 |
| 第55図 | SK10 | 平面図・土層図 | 47 |
| 第56図 | SK04 | 平面図・土層図 | 47 |
| 第57図 | SK02・ | 平面図・土層図 | 48 |
| 第58図 | SX12 | 平面図 | 48 |
| 第59図 | SD02 | 平面図・土層図 | 50 |
| 第60図 | SK82 | 出土遺物実測図 | 51 |
| 第61図 | SK86 | 出土遺物実測図 | 51 |
| 第62図 | SK67 | 出土遺物実測図 | 51 |
| 第63図 | SK68 | 出土遺物実測図 | 51 |
| 第64図 | SK75 | 出土遺物実測図 | 51 |
| 第65図 | SK91 | 出土遺物・瓦実測図 | 52 |
| 第66図 | SK70 | 出土遺物・瓦実測図 | 52 |
| 第67図 | SK26 | 出土遺物実測図 | 52 |
| 第68図 | SK62 | 出土遺物実測図 | 53 |

| | | |
|-------|---------------------------------|----|
| 第69図 | SK65 出土遺物実測図 | 53 |
| 第70図 | SK65 出土瓦実測図 | 53 |
| 第71図 | SK31 出土遺物実測図 | 54 |
| 第72図 | SK31 出土瓦実測図 | 55 |
| 第73図 | SK18 出土遺物実測図 | 55 |
| 第74図 | SK18 出土瓦実測図 | 56 |
| 第75図 | SK63 出土遺物実測図 | 56 |
| 第76図 | SK69 出土遺物実測図（1） | 56 |
| 第77図 | SK69 出土遺物（2）・瓦実測図 | 57 |
| 第78図 | SE01 井戸掘り方・SE01井戸内・SX10 出土遺物実測図 | 57 |
| 第79図 | SE01 井戸内・SX10 出土石製品実測図（1） | 58 |
| 第80図 | SE01 井戸内・SX10 出土石製品実測図（2） | 59 |
| 第81図 | SE01 井戸内・SX10 出土瓦実測図（1） | 59 |
| 第82図 | SE01 井戸内・SX10 出土瓦実測図（2） | 60 |
| 第83図 | SE01 井戸内・SX10 出土瓦実測図（3） | 61 |
| 第84図 | SK21 出土遺物・瓦実測図 | 62 |
| 第85図 | SK74 出土遺物実測図 | 62 |
| 第86図 | SK32 出土遺物実測図 | 62 |
| 第87図 | SK73 出土遺物実測図 | 63 |
| 第88図 | SK73 出土瓦実測図 | 64 |
| 第89図 | 造成土1 出土遺物実測図（1） | 64 |
| 第90図 | 造成土1 出土遺物実測図（2） | 65 |
| 第91図 | 造成土1 出土瓦実測図 | 66 |
| 第92図 | 造成土2 出土遺物実測図 | 66 |
| 第93図 | SK28 出土遺物実測図（1） | 67 |
| 第94図 | SK28 出土遺物実測図（2） | 68 |
| 第95図 | SK28 出土瓦実測図 | 69 |
| 第96図 | SX11 出土遺物・石製品実測図 | 70 |
| 第97図 | SK88 出土遺物実測図 | 70 |
| 第98図 | SK20 出土遺物実測図 | 71 |
| 第99図 | SK90 出土遺物・瓦実測図 | 71 |
| 第100図 | SK05 出土遺物実測図 | 72 |
| 第101図 | SK05 出土瓦実測図 | 73 |
| 第102図 | SK56 出土遺物・瓦実測図 | 73 |
| 第103図 | SD10 出土遺物実測図（1） | 74 |
| 第104図 | SD10 出土遺物実測図（2） | 75 |

| | | |
|-------|---------------------|----|
| 第105図 | SB01 (SP48) 出土遺物実測図 | 75 |
| 第106図 | SK49 出土遺物実測図 | 75 |
| 第107図 | SK50 出土遺物・瓦実測図 | 75 |
| 第108図 | SK17 出土遺物実測図 | 76 |
| 第109図 | SK17 出土瓦実測図 | 76 |
| 第110図 | SK52 山土遺物実測図・拓本 | 77 |
| 第111図 | SK54 出土遺物実測図 | 77 |
| 第112図 | SK54 出土瓦実測図 | 77 |
| 第113図 | SK53 出土遺物・瓦実測図 | 78 |
| 第114図 | SK03 出土遺物・石製品実測図 | 79 |
| 第115図 | SK03 出土瓦実測図 | 80 |
| 第116図 | SK10 出土遺物実測図 | 80 |
| 第117図 | SK04 出土遺物・瓦実測図 | 81 |
| 第118図 | SK02 出土遺物実測図 (1) | 82 |
| 第119図 | SK02 出土遺物実測図 (2) | 83 |
| 第120図 | SK02 出土遺物実測図 (3) | 84 |
| 第121図 | SK02 出土遺物実測図 (4) | 85 |
| 第122図 | SK02 出土遺物実測図 (5) | 86 |
| 第123図 | SK02 出土遺物実測図 (6) | 87 |
| 第124図 | SK02 出土瓦実測図 | 88 |
| 第125図 | SD02 出土遺物実測図 | 88 |
| 第126図 | SX12 出土遺物実測図 | 88 |
| 第127図 | 軒丸瓦の文様の分類・変遷について | 91 |
| 第128図 | 出土遺構変遷図 | 97 |

表目次

| | | |
|---------|------------|-----|
| 第1表 | 出土遺物種類別集計表 | 94 |
| 第2表 | 出土遺物時期別集計表 | 94 |
| 出土遺物観察表 | | 100 |
| 出土瓦観察表 | | 112 |
| 層位表 | | 116 |

写真図版

遺構写真図版

遺物写真図版

第1章 経過

第1節 調査の経過

調査の原因

丸亀城跡大手町地区は土器川などの河川によって形成された丸亀平野の中央部やや北寄りに位置する丸亀城跡の北側旧一番丁から四番丁、現丸亀市大手町にあたる。香川県丸亀市大手町三丁目1番23号に所在する遺跡である。遺跡は丸亀城外濠内に隣接する武家屋敷地であり、標高は約5.7～5.8m前後を計る。

この遺跡に隣接する南側では、平成4年度に丸亀郵便局新築工事に伴い埋蔵文化財発掘調査が行われ、外濠跡や建物、道路跡、水路、土こうなどが確認された。

当該地は平成17年8月2・3日に試掘調査を実施し、丸亀城外濠跡をはじめ江戸時代の遺構が確認され、丸亀城跡大手町地区として周知の埋蔵文化財包蔵地となった。

株式会社和田コーポレーションが、当該地へ分譲マンションであるロイヤルガーデン大手町の建設を予定したことから取り扱い協議を進めた。

取り扱い協議

平成18年4月18日と27日に株式会社和田コーポレーションと丸亀市教育委員会は、丸亀城跡大手町地区の（仮称）ロイヤルガーデン大手町建設に伴う遺跡の保存について協議し、マンション建設現状地盤から深度2m程度を掘削するために協定書を締結し、発掘調査を実施した。

遺構の保存協議

調査対象地の敷地は約1770.57m²で、そのうちマンション建設工事部分は、最大幅約18m、最大長約32mあり、面積は約602m²ある。

平成18年4月7日付け文化財保護法第93条第1項の埋蔵文化財発掘調査の届出を香川県教育委員会へ提出し、18教分第692-4号で周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について発掘調査との回答があり、記録保存のための発掘調査を実施した。

埋蔵文化財発掘調査

丸亀市教育委員会は、平成18年5月8日から発掘調査を開始し、平成18年7月31日まで継続して調査を実施した。調査は、残土置き場確保のため調査区を東西2分割して西区・東区として実施した。

試掘調査の結果、最上層の遺構面は現況地盤より深度約80cm付近で確認される。遺構面は1～5面あり、調査面積は計約1,232m²を測る。

全体計画

体制　　主体者 株式会社和田コーポレーション

丸亀市教育委員会文化部文化課

担当者 課長 山田哲也

主幹 秋山 徹

副課長 宮浦敏子
担当長 葛西祥志
主査 東信男
主査 西風伸彦
主任 近藤武司
嘱託 大野宏和
調査補助 高畠 裕

作業の経過

主な発掘作業は以下のとおりである。

平成18年

- 5月 8日(月) 調査区を西区と東区に分け、西区から調査を開始する。西区の重機掘削。
5月 9日(火) 重機掘削。
5月10日(水) 重機掘削。
5月11日(木) 午前中、水抜き。午後、重機掘削。
5月12日(金) 重機掘削。
5月15日(月) 土層の清掃と精査、調査区略図作成、試掘トレンチ確認作業、SK05検出作業。
5月16日(火) 各遺構の精査、SD01掘り下げ。
5月17日(水) 基準点測量。水抜き。
5月18日(木) 壁面の上層写真撮影、上層実測(SK05・03・12、SD01・02・03)、人力による各遺構の検出作業。
5月19日(金) 西半分の精査。
5月21日(日) 水抜き。
5月22日(月) 北東部第5層・第6層造成土を重機による掘り下げ。SK05・16・17・18・19・20・10・8・9検出作業。SD01方向確認。SK22確認。SK04精査完了。SK03・07写真撮影、全体の写真撮影。
5月23日(火) 水抜き
5月24日(水) 中央部から東側の写真撮影。SK03完掘。SK02掘り下げ、土層実測、写真撮影。SK05掘り下げ。精査後遺構がないので重機掘削。
5月25日(木) 南側の重機掘削。SK05掘り下げ。SK25・26掘り下げ。SK24・16土層実測。SD04掘り下げ、上層実測。SK18掘り下げ、上層実測、写真撮影。SK33掘り下げ。SK20十層実測、掘り下げ。SK26掘り下げ、土層実測。SK02土層実測、掘り下げ。調査区南壁精査。
5月26日(金) SK05最下層掘り下げ。写真撮影、土層実測。SK02人力掘削、レベル実測、写真撮影。SK18・21・28掘り下げ。SK16・24・25・26・28・29土層実測、写真撮影。
5月27日(土) 水抜き
5月29日(月) SK02実測、写真撮影、完掘。SK17・18・19完掘。SK16・24・25・26・08・09・28・31・32掘り下げ。
5月30日(火) SK19土層実測。SK28・31・32・33・30掘り下げ。SK34・32・33・31・28・19・29完掘。東壁土層実測。SD04掘り下げ。SK31・33・32・29掘りきれていいないことを確認。
5月31日(水) SK32・33掘り下げ、清掃。写真測量(1回目)。土器洗い、遺物分類。

- 6月1日(木) 重機掘削。基盤層の精査。土器洗い、整理。
- 6月2日(金) 重機掘削、人力による灰色粘質土掘り下げ、精査。
- 6月5日(月) 精査、清掃。
- 6月6日(火) 写真測量(2回目)。西壁・東壁・北壁土層実測。
- 6月7日(水) SK21掘り下げ、土層実測。各壁面の土層写真撮影。重機による埋め戻し。
- 6月8日(木) 西区重機による埋め戻し。東区調査開始。重機掘削。
- 6月9日(金) 東区重機掘削。
- 6月12日(月) 重機掘削。土層精査。基準点測量。
- 6月13日(火) 基準点測量。第1面平面実測。精査。試掘トレントの土取り除き。北側2面直上まで重機掘削。
- 6月14日(水) 1面SK40掘り下げ。精査。平面図・土層図作成。
- 6月16日(金) 基準杭設置。試掘6トレンチより北側精査。南側かく乱層取り除き。試掘6トレンチの土層精査。SX10精査。
- 6月19日(月) 試掘6トレンチより北側精査完了、清掃、写真撮影。SX04検出、SX10の石列検出作業。かく乱層取り除き。
- 6月20日(火) SX04写真撮影、取り除き。SD10検出作業、土層実測。SX10石列、瓦の遺物廃棄状況の確認。SX20コンクリート取り除き後に検出作業。
- 6月21日(水) SD10西側肩出し。SX04下層の黄色土取り外し。SD10西側石列の検出作業。SX20、検出作業、清掃、写真撮影。SX10、清掃、写真撮影、石列取り除き。SX12・13清掃、写真撮影、平面実測。
- 6月22日(木) 水抜き
- 6月23日(金) 水抜き
- 6月26日(月) 水抜き。SX10断面実測。
- 6月27日(火) 水抜き。平面図作成。SP11・13、SK57土層図作成。SP10、SK48完掘。SD10精査。SX14検出作業。SX10検出作業。SX20清掃。SK49・50・56精査、写真撮影。北側写真撮影。
- 6月28日(水) 水抜き。SD10検出作業。SX10は井戸を発見した遺構であることを確認、SE01とする。SE01掘り下げ。井戸跡を確認。SP12、土層、写真、完掘。北側清掃。SX20清掃。
- 6月29日(木) 水抜き。SD10清掃、写真。SK53・54・52精査、清掃。SK56・49・50掘り下げ、土層実測、完掘、写真撮影。SE01掘り下げ写真。写真測量(第3回)。
- 6月30日(金) 東区東壁、北壁土層実測。
- 7月3日(月) 水抜き。SD10石列外し、下部レベル実測、掘り下げ、写真撮影。重機掘削。下層の精査。
- 7月4日(火) 試掘6トレンチ南土層書き足し、北土層実測。SP14土層実測、写真撮影。SK68・67・59土層実測、写真撮影。SK59・60・61・63・64・65・66・73・74・67・68・69・70・71・72・75・76・77・SP14の平面実測。
- 7月5日(水) SK59・62・63・79・71・72・70・67・68・69・SP14完掘、写真撮影。下層の灰白粘質シルトより須恵器片出土。SK60・65・75・SX15検出作業。
- 7月6日(木) SK65完掘。平面実測。
- 7月7日(金) SK83・76完掘。SK82・73掘り下げ。SK60・74・77・SE01土層実測、写真撮影。

- 7月9日(日) 水抜き
- 7月10日(月) SE01清掃、写真、掘り下げ、井戸内石組み天端より3mまで瓦・石・コンクリート出土。SK60・73・94・78掘り下げ。北側包含層掘り下げ。SK82・81・85・86完掘。SK77完掘、肩振り過ぎ。
- 7月11日(火) SE01清掃、写真、写真測量。SK73・60掘り下げ、土層実測、完掘。SX74写真撮影、完掘。SD11土層実測、完掘、写真撮影。清掃。写真測量（4回目）。
- 7月12日(水) 北壁、東壁土層実測。SK88・89掘り下げ、土層実測、写真撮影。遺物選別。
- 7月13日(木) SX11検出作業。宝鏡印塔の塔身部出土。SK87・88写真撮影、完掘。重機掘削。精査。
- 7月14日(金) 下層精査。SX11・SK89検出作業。
- 7月18日(火) SX11検出作業、写真撮影、掘り下げ。市営住宅跡地より土こう検出。北側精査。
- 7月21日(金) SK90検出作業。SX11掘り下げ、土層実測、写真撮影。SK90・SX11平面実測、レベル実測。中央と西部の灰白粘質シルト取り除き。南側精査。
- 7月22日(土) SK90清掃、写真撮影。SX11完掘、写真撮影。SE01検出作業。北側清掃。
- 7月23日(日) SE01掘り下げ、井戸底の確認、完掘、清掃、写真撮影。北側清掃。
- 7月24日(月) 清掃、SE01清掃。
- 7月25日(火) 清掃、写真測量（5回目）。SE01写真測量。遺物運搬、道具片付け。
- 7月26日(水) 土層書き足し。SE01掘り方の確認。埋め戻し。
- 7月27日(木) 南壁土層実測。埋め戻し。道具運搬。
- 7月28日(金) 埋め戻し。
- 7月31日(月) 埋め戻し完了。写真撮影。調査完了。

第2節 整理作業の経過

体制 主体者 株式会社和田コーポレーション

丸亀市教育委員会文化課

担当者 東 信男

高畠 裕

谷口 梢

北山多佳子

株式会社イビソク

寿福写真工房

作業の経過

遺物の洗浄は、東信男、高畠裕の指導のもと発掘作業員が行った。

遺物の注記は株式会社イビソクが、陶磁器や擂鉢等の測量は株式会社イビソクと陶磁器、陶器、瓦の実測は谷口梢、北山多佳子が、瓦の拓本は谷口、北山が行った。

遺物の写真撮影は、株式会社イビソク受託のもと寿福写真工房で実施し、追加分は東が行った。

本文の執筆は東信男が行い、編集は東、高畠、谷口、北山が実施した。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境



第1図 遺跡位置図

よって形成された沖積平野である。

地形はほとんど起伏がなく、河川上流地帯の地質に由来する砂砾あるいは泥によって形成されている。丸亀城のある亀山は、山上部の基盤岩は新第三紀讃岐層群の風化凝灰岩、南側は中生代白亜紀領家花崗岩類強風化花崗岩となっている。城内西側にある丸亀市立資料館と亀山の間にある「かぶと岩」はマグマが吹き出た沿道部が風化してきた岩頭と呼ばれるものである。

亀山北側の大手町の調査では、丸亀平野で見られる黄色粘質シルト層が検出される。

城跡北側の高い箇所は、古代以降には陸地になっていたものと考えられる。

角川書店 昭和60年『香川県地名大辞典37香川県』

丸亀市 平成7年『新編丸亀市史1 自然・原始・古代・中世編』

丸亀市・青葉工業株式会社 平成6年「平成6年度史跡丸亀城跡曲輪南石垣修理に伴う地質調査」

丸亀市・青葉工業株式会社 平成7年「平成6年度史跡丸亀城跡曲輪石垣修理に伴う地質調査」

第2節 歴史的環境

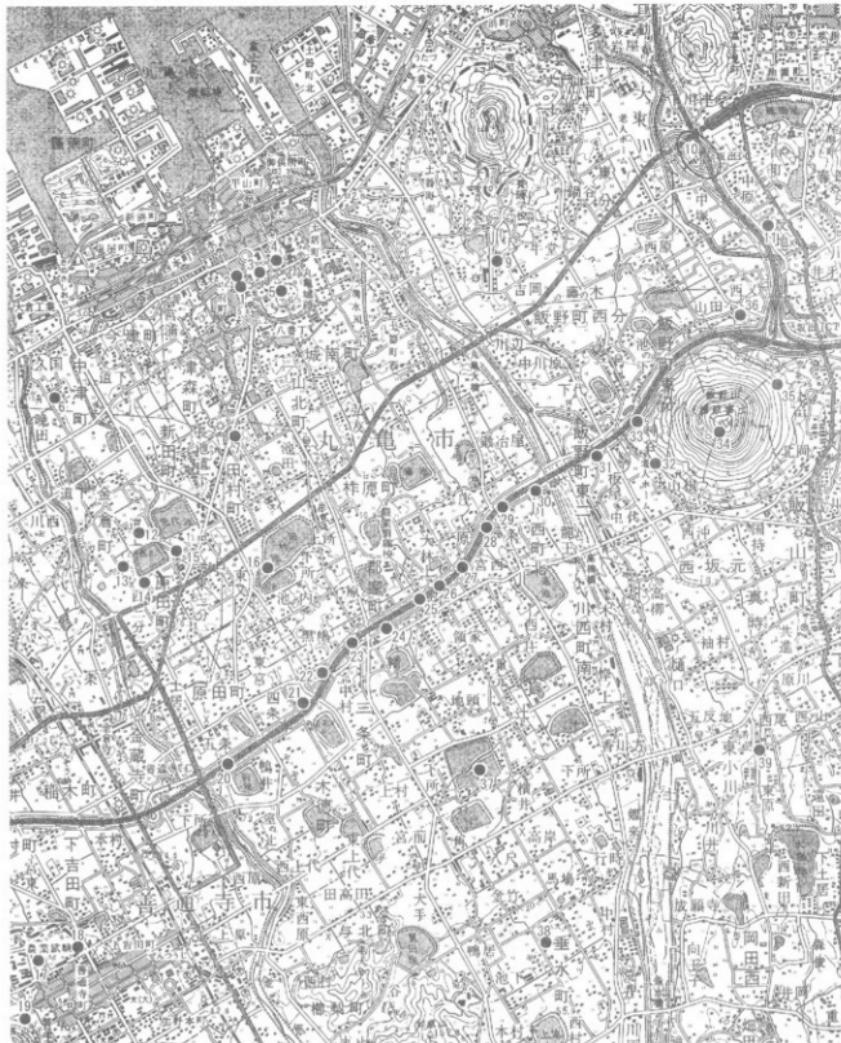
丸亀市内には旧石器時代から近世まで様々な遺跡が分布する。旧石器時代の主要な遺跡としては市のほぼ中央部を横断する四国自動車道の建設に伴い確認された丸亀市三条町の「三条黒島遺跡」がある。

縄文時代の遺跡としては、市の南西部の丸亀市総合運動公園周辺にある「平池西遺跡」や「平池南遺跡」で滋賀里期の土器を包含する河川跡などが見つかっている。

弥生時代の著名な遺跡としては、「平池西遺跡」などに隣接する弥生時代前期中ごろから中期初頭の多重環濠集落である「中の池遺跡」がある。飯野山山頂には弥生時代中期の祭祀遺構である「飯野山山頂遺跡」や飯野山西麓には後期の高地性集落である「飯ノ山西麓遺跡」がある。

古墳時代の遺構としては、前期古墳は、青ノ山南麓の市指定史跡である古岡神社前方後円墳、飯野山東裾にある三ノ池前方後円墳、国道33号線沿いにある国指定史跡の快天山古墳や県指定史跡の陣の丸古墳がある。後期の横穴式石室をもつ古墳は青ノ山や飯野山に点在している。

古代の遺跡としては古代寺院である田村町に田村磨寺、郡家町に宝幢寺、飯山町に法勲寺、綾歌町に



| | | | | |
|---------------|-------------|------------|-------------|--------------|
| 1 第1次丸亀城大手町地区 | 9 吉岡神社前方後円墳 | 17 旧練兵場遺跡 | 25 郡家大林上遺跡 | 33 飯野東分山崎南遺跡 |
| 2 第2次丸亀城大手町地区 | 10 下津川遺跡 | 18 中村廢寺跡 | 26 郡家田代遺跡 | 34 飯野山山頂遺跡 |
| 3 第3次丸亀城大手町地区 | 11 川津下種遺跡 | 19 善通寺旧境内 | 27 川西北原遺跡 | 35 三ノ池前方後円墳 |
| 4 第4次丸亀城大手町地区 | 12 中の池遺跡 | 20 竜川五条遺跡 | 28 川西北七条Ⅰ遺跡 | 36 川津東山田遺跡 |
| 5 丸龜城跡 | 13 平塚西遺跡 | 21 三條番ノ原遺跡 | 29 川西北七条Ⅱ遺跡 | 37 宝雲寺跡 |
| 6 中津城 | 14 平塚南遺跡 | 22 三条黒島遺跡 | 30 川西北殿治屋遺跡 | 38 垂水妙見遺跡 |
| 7 田村遺跡（田村庵寺） | 15 平塚東遺跡 | 23 郡家東遺跡 | 31 飯野東二瓦礫遺跡 | 39 法點寺跡 |
| 8 青ノ山古墳群 | 16 田村池遺跡 | 24 郡家一里屋遺跡 | 32 飯野山西麓遺跡 | |

第2図 遺跡分布図

横山庵寺などがある。

中世は市内南部の綾歌町の山なみには、市指定史跡の奥熊城跡や西長尾城跡がある。この西長尾城は長宗我部氏の家臣国吉甚左衛門が入城し国吉城とも呼ばれている。

近世は市の中心市街地に所在する国指定史跡である丸亀城跡があり、亀山を中心とした高石垣の城郭と武家屋敷、城下町が築かれた。生駒氏・山崎氏・京極氏が入城し、江戸後期以降、丸亀湊は金毘羅参詣の入港地として栄えた。

第3節 丸亀城の歴史

天正15年(1587)、生駒親正候が讃岐の領主として入封する。東讃に引田城を築城し、天正16年に香東郡野原庄に高松城を築城する。

慶長2年(1597)に西讃岐地方の押さえとして親正候と一正候が亀山に丸亀城築城を開始する。それに先立ち生駒氏は、慶長元年に宇多津の三浦より漁夫を移住させている。生駒氏の城郭は尊敬閣文庫や国会図書館所蔵の絵図によると山上の一ノ段～四ノ段、山下の五ノ段まであり、一ノ段中央部には高さ二間の天守台石垣が描かれている。現存する天守と場所は異なっており、縄張りも現在残っている形とはやや違っている。生駒氏の丸亀城は元和の一国一城令により、一旦廃城となり、生駒氏も寛永20年(1640)、お家騒動により改易となる。生駒氏のときの絵図には武家屋敷地や城下町の詳細な記載はなく不明である。

寛永21年、肥前国富岡から山崎家治候が西讃岐の領主として入封し、幕府の許可を得て正保元年(1643)に生駒氏の城跡地に築城を着手する。山崎氏は城地選定に時間を要したが、築城にあたっては幕府から参勤交代の免除と銀300貫が下賜されている。山崎氏の築城を知る手がかりとして、築城開始直後に作成された正保二年(1645)に幕府に提出した城絵図「正保城絵図」や改易時に作成されたと推測される「大洲の図」(市指定文化財)などの絵図から山崎氏の築城をうかがい知ることができる。現在の山上の縄張りは、ほぼ山崎氏の絵図と類似しており、現縄張りが山崎氏の手になるものであることを伺い知ることができる。また、「正保城絵図」には武家屋敷地や城下町の記載もあり、特に古町と書かれた箇所は生駒氏時代からあった町であると考えられる。山崎氏も嫡主なく絶家となり、万治元年(1658)、播磨国姫路から京極氏が入封する。京極氏は山崎氏の城整備を継続し、万治3年(1660)に丸亀城天守の完成、寛文10年(1670)に大手門を現在地へ建造する。

また、江戸後期になると丸亀城下町は金毘羅参詣の入港地として栄え、福島湛甫、新堀湛甫など港を整備し、多くの参詣客が丸亀を訪れた。

明治以後は陸軍省の管轄となり、明治7年には丸亀城北側と東側の一番丁から四番丁の武家屋敷地は立ち退きとなった。武家屋敷地跡には陸軍第十二連隊の営舎が築かれた。城内にも軍の仮司令室等の施設があり、城内や武家屋敷地は陸軍の施設として戦後まで使用された。

戦後、軍の営舎の跡は大手町となり、官庁や学校等の教育施設が造られた。調査地は、昭和28年～29年にかけて耐火4階建て2棟48戸の市営「翠山荘アパート」が建設され近年まで使用された。

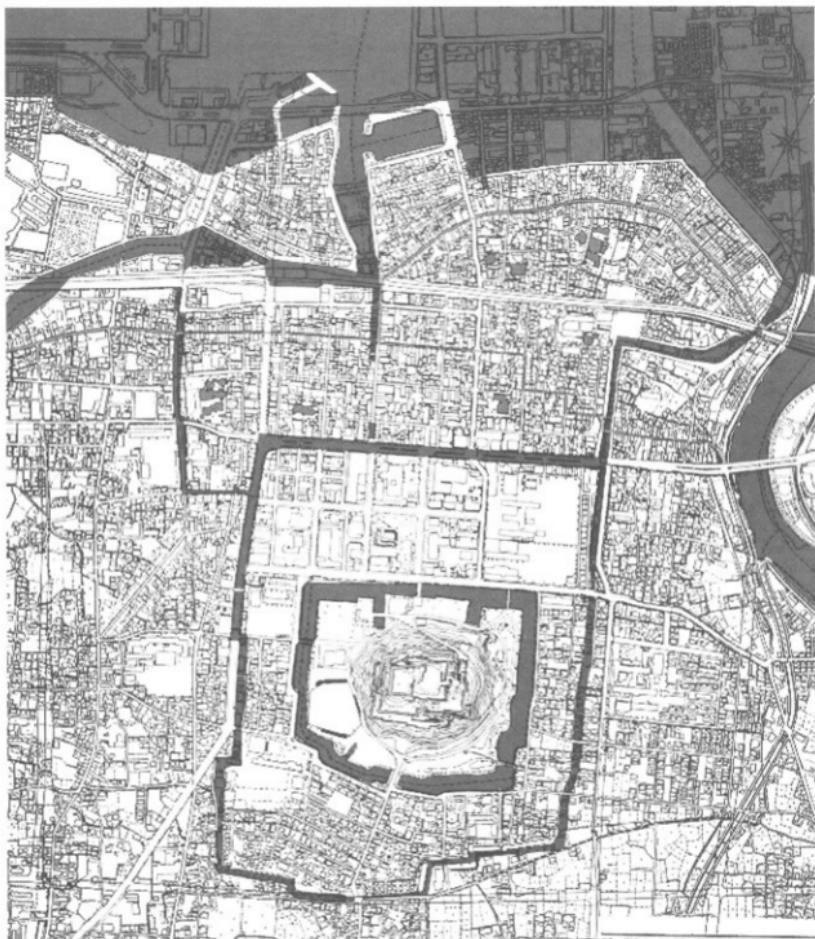
参考文献

丸亀市教育委員会 昭和63年『讃岐丸亀城研究調査報告書』

丸亀市 平成6年『新編丸亀市史2 近世編』

丸亀市 平成8年『新編丸亀市史3 近代・現代編』

丸亀市 平成8年『新編丸亀市史5 年表編』



第3図 丸亀城・武家屋敷・城下町

第4節 城絵図について

丸亀市立資料館には、丸亀城の城郭絵図が残されており、これらの絵図をもとに調査箇所の変遷を見てみたい。

生駒氏時代の城郭絵図は内濠や外濠は描いているが、武家屋敷地を詳細に描いた図面は保管されていない。外濠の形も現状とは違っており詳細は不明である。

山崎氏時代の城郭絵図は、丸亀市指定の文化財で讃岐国丸亀城(14-23)、通称「大洲の図」と呼ばれる図面がある。これは、大洲市にあったもので、大洲藩主の加藤氏は生駒、山崎両氏の改易とともに丸亀城の引き取りをした大名である。城の詳細な内容や縄張りから山崎氏の改易時の城受け取り状況を描いた図面であると思われる。この「大洲の図」は、山上部分の建物や石垣を詳細に記載するためややデフォルメされている。山下部分から武家屋敷地についての記載もあるが、屋敷地の地割りは詳細な記入はなく不明である。当該箇所の状況を見ると屋敷地と道路、上界であると思われる。武家屋敷地や城下町の町割りやその間数、家臣の配置など詳細を描いた図面は京極氏入封以降のものとなる。

京極氏時代の当該地は丸亀城武家屋敷地、四番丁の一角にあり、外濠西面に接する。丸亀市立資料館所蔵の絵図で武家屋敷地を詳細に描いている絵図を外濠から郭内へ施設配置状況を見る。

① 寛文年間の絵図 (14-11) 1661~1672

外濠の土塁があり、鍵型に屈曲した道路と屋敷地が描かれる。当該地は外濠土塁内側の空白地となっている。



第4図 讃岐国丸亀城絵図「大洲の図」(14-23)

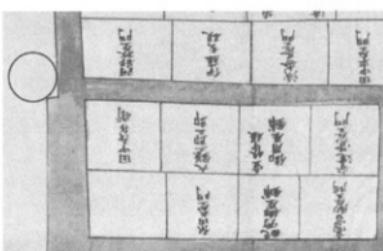
② 元禄年間の絵図 (14-45) 1688~1703

寛文年間の絵図同様、外濠土塁、空白地、鍵型に屈曲した道路、屋敷地となっている。

外濠土塁内側にはまだ屋敷の記載がない。



第5図 寛文年間の絵図 (14-11)



第6図 元禄年間の絵図 (14-45)

③ 丸亀城郭及び城下町古地図 享和二年（14-28）1802

外濠、土塁、屋敷地、道路、屋敷地となる。上記の絵図との違いは濠端に屋敷地が築かれている。南北道路から外濠上堤の間は「御竹林」と記載があり、竹林があった。東西道路と南北道路が鍵型に交差する外濠方向に延長した先に竹林へ入場するための門であろうか建物が描かれている。また、この竹林の東側は南北道路に沿う水路も描かれている。竹林すぐ北の濠端には屋敷地の記載があり、勝田周蔵の名が見える。勝田周蔵は「多度津藩分限帳」によると寛政十二年（1800）多度津藩大目付の記載がある。

この辺りの武家屋敷地は、宍崎様御用所や林求馬等の多度津藩の家臣名が伺える。



第7図 丸亀城郭及び城下町古地図
享和二年(14-28)

④ 天保十五年甲辰（1845）九月 原書文政十一戊子（1828）（14-40）

外濠、土塁、屋敷地、道路、屋敷地となる。濠端にあった竹林には長屋が築かれ多くの家臣が居住している。また、鍵形に曲がる道路の北側の邸宅は勝田氏から宮武岡南と記載されている。「丸亀藩分限帳一」に「御側医師 扶持持拾人」宮武岡南と記録が見える。多度津陣屋は文政十年（1827）に完成し、同十二年に多度津へ移っているため、御用所は空白となり、郭内の家臣名も変更が見られる。

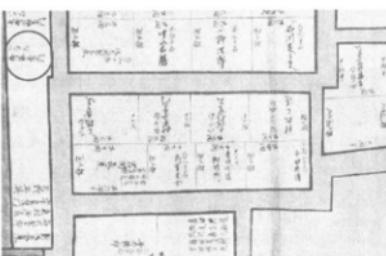


第8図 天保十五年甲辰 九月
原文文政十一戊子(14-40)

⑤ 嘉永七年（1854）季春 圓亀家中屋敷割（14-32）

幕末の頃を示す絵図である。

外濠、土塁、屋敷地、道路、屋敷地となる。道路は鍵型となっている。長屋は「新御長屋」とあり、家臣名の記載が減少している。この北側の濠端の屋敷地は宮武氏に代わり二石持の齊藤正左エ門と記載されている。「丸亀藩分限帳二」にある二百俵網干郡代齊藤勝左衛門（正左エ門）のことであろう。



第9図 嘉永七年 圓亀家中屋敷割(14-32)

これらの絵図を見ると京極氏時代の道路や屋敷割りはあまり変化がない。京極氏初期頃の外濠端の当該地の記載資料はなく不明であり、今後、資料を収集し検討する必要はあるが、19世紀初頭から幕末までの頃は絵図による変遷は可能である。19世紀初頭は勝田氏の屋敷地と竹林、19世紀中頃は宮武氏の屋敷地と長屋、幕末は齊藤氏の屋敷地と長屋として使用されていることが確認できる。

資料協力 丸亀市立資料館

讃岐國丸亀城 「大洲の図」 整理番号(14-23) 市指定文化財

寛文年間の絵図 整理番号(14-11)

元禄年間の絵図 整理番号(14-45)

丸亀城郭及び城下町占地図 享和2年 整理番号(14-28) 市指定文化財

天保十五年甲辰(1845)九月 原著文政十一戊子 整理番号(14-40)

嘉永七年(1854)季春 圓亀家中屋敷割(14-32)

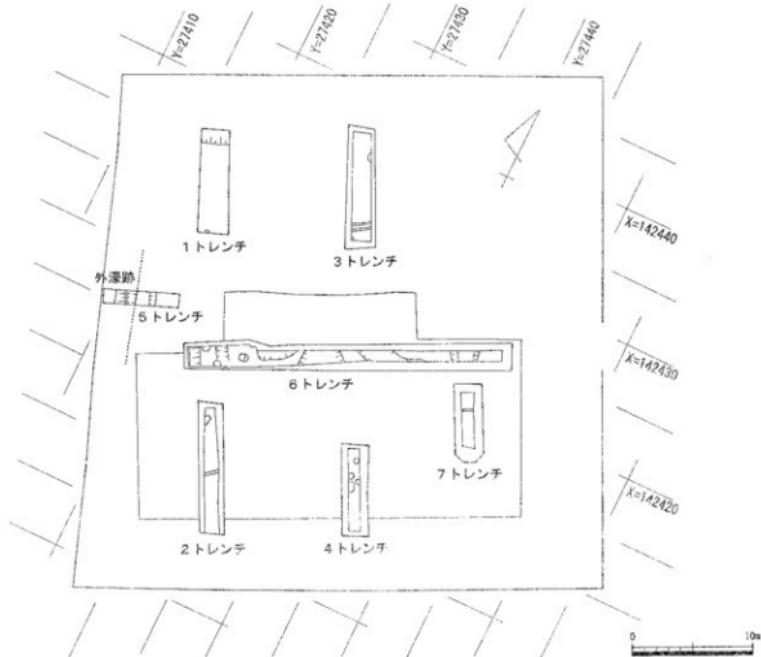
参考文献 丸亀市 平成6年『新編丸亀市史4 資料編』

丸亀市 平成8年『新編丸亀市史5 年表編』

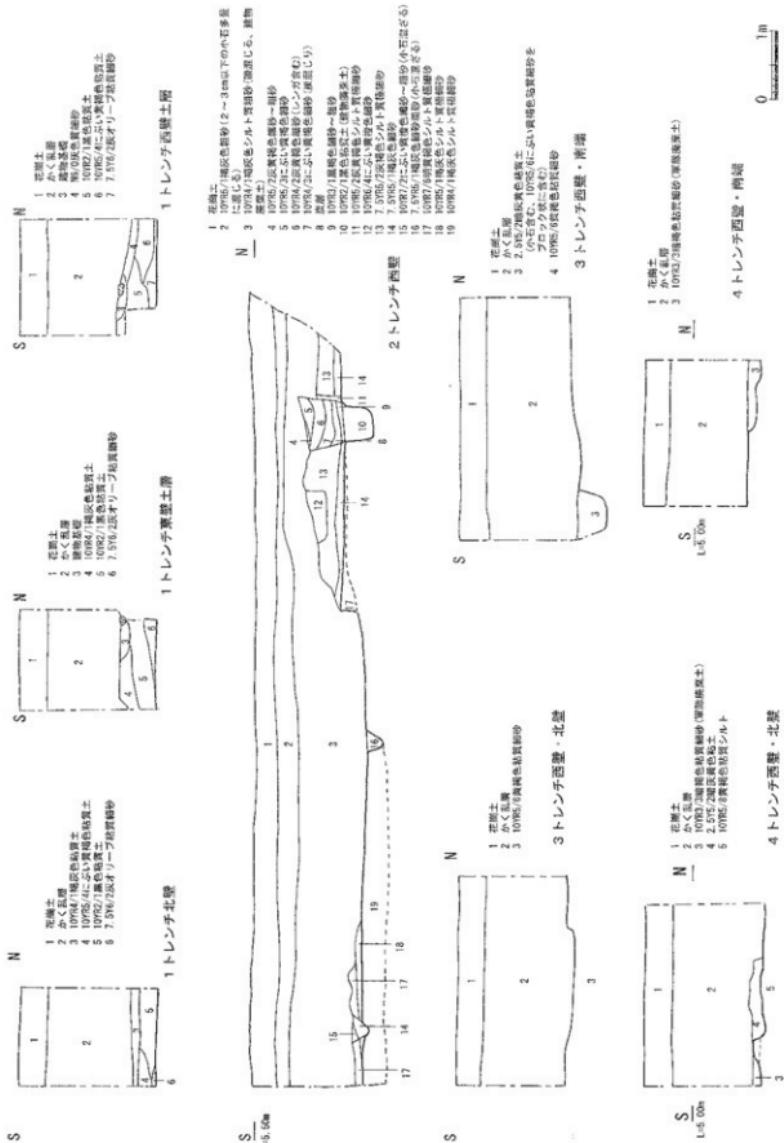
第3章 試掘調査の方法と成果

試掘調査の成果

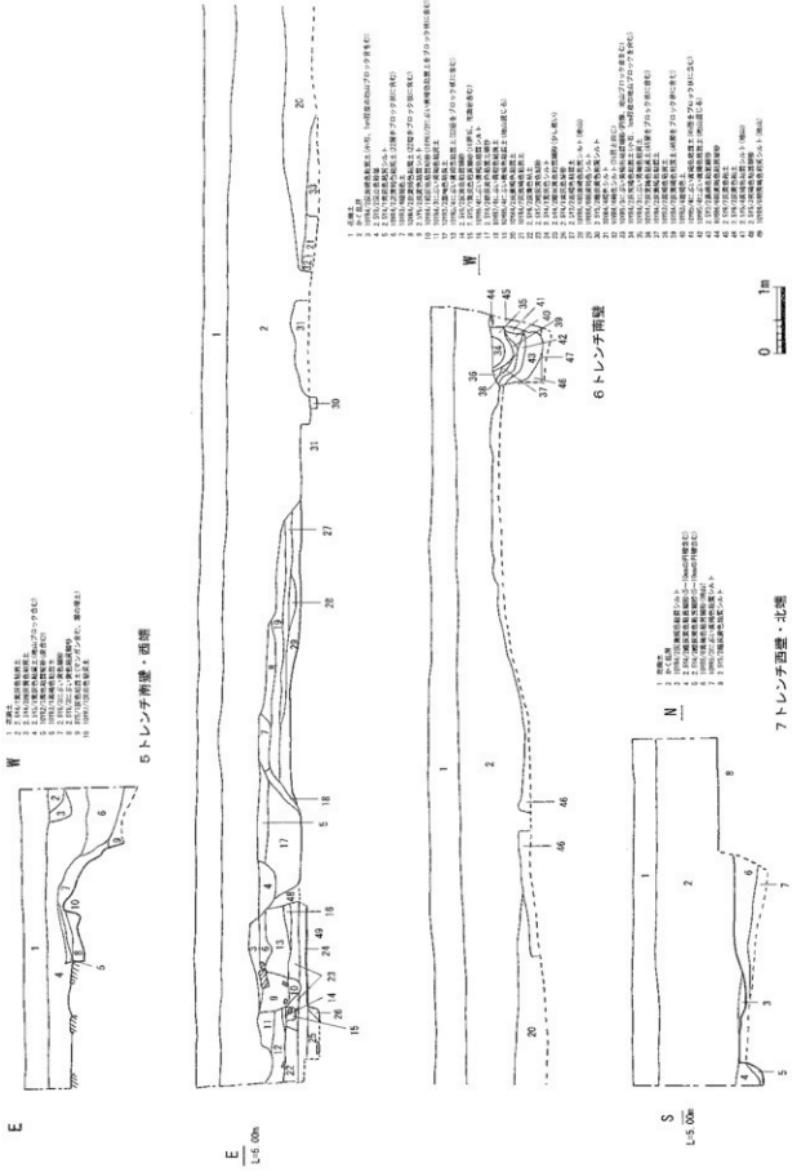
試掘調査は敷地内に所在する外濠の確認と遺跡の確認を実施した。外濠は調査地西端の第5トレンチで確認された。第1~4、7トレンチでは、市営「翠山荘アパート」に伴うかく乱を確認した。既ねどのトレンチも近代以降の軍隊施設等の建設による開発によりかく乱を受け、残りは悪いものの第6トレンチ東側や西側など遺構面が数面確認できた箇所もあり、外濠や武家屋敷地の変遷を知ることができる。



第10図 試掘トレンチ位置図



第11図 土層図 (1)



第12図 土層図(2)

当該調査の実施に当たって設定された目的や課題

試掘調査西端で検出された丸亀城外濠跡は掘削が及ばないことから現況保存とし、ロイヤルガーデン大手町建設に係る箇所の記録のための発掘調査を実施した。

調査地は第13図調査位置図のとおりである。

調査地は、近代以降に軍施設として使用され、その後、市営翠山荘アパートとして、最近まで利用されていた場所である。近現代のかく乱が著しいなかで、造成に伴う生活面の形成をどれだけ検出できるか、また、調査事例も少ないとからどのような遺構が残っているか把握することに努めた。

第4章 発掘調査

第1節 土層序

現況地面は標高5.7～5.8mである。市営翠山荘アパートを解体した後に造成した花崗土が約0.4m程度あり、その下はかく乱層が全体に広がる。

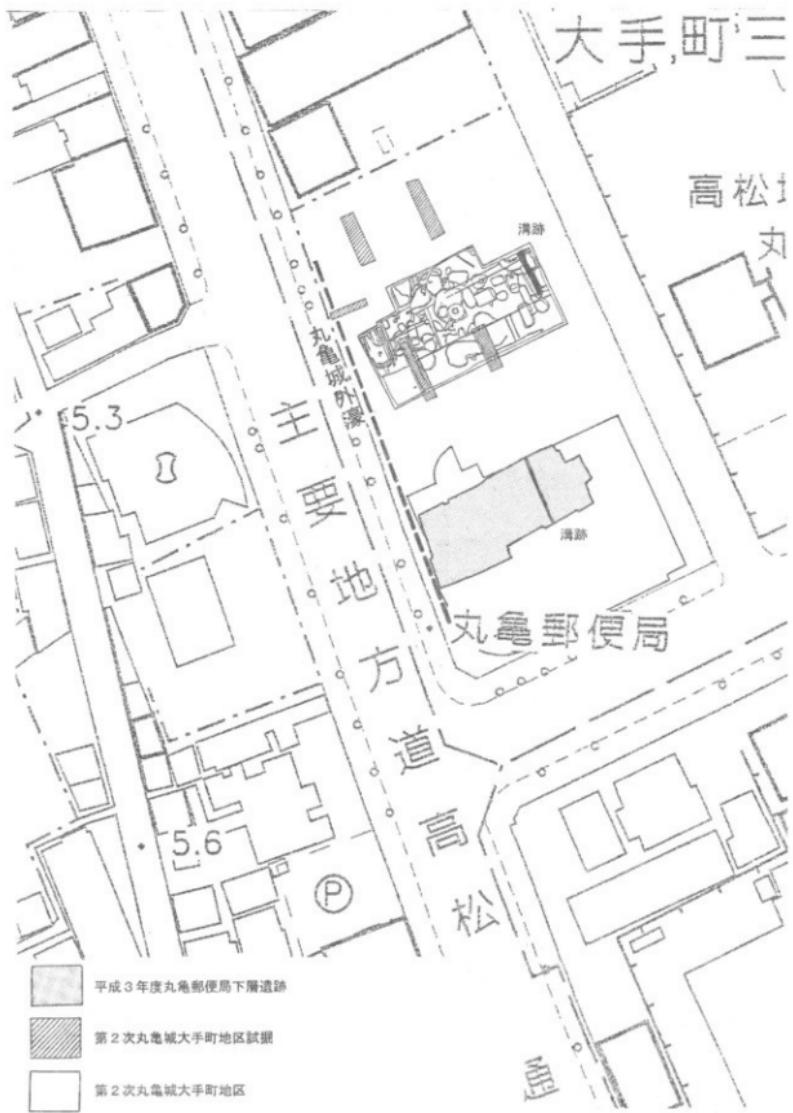
調査地で遺構面が残っているところは西面で標高5.2m、北面で4.8m、東面4.5～4.6m、南面で4.3m、中央南北断面で4.6mである。

遺構面は5面検出しているが、第5面は近現代で標高5.0～5.2m以上でかく乱を受けているため残りが悪い。第4面は標高4.8～4.9mである。第3面は標高4.7mである。第2面は標高4.6mである。第1面4.2mである。標高4.2m～4.3mは黄色粘質シルト層の基盤層であり、この層より下層での遺構は検出されなかつた。

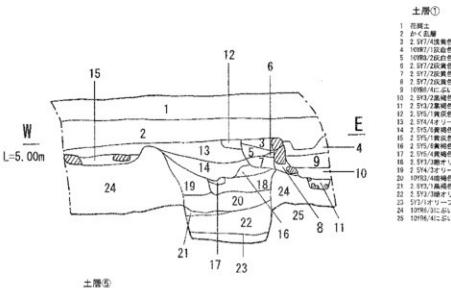
調査区南側の市営翠山荘アパート建設及び解体に伴う掘削は基盤層より下まで掘削が及び遺構の残りが悪く、調査区全体にも近代以降のかく乱が多く全体的に残りは悪かった。

ただ、東北側の残りは良く遺構も良好に残っていた。

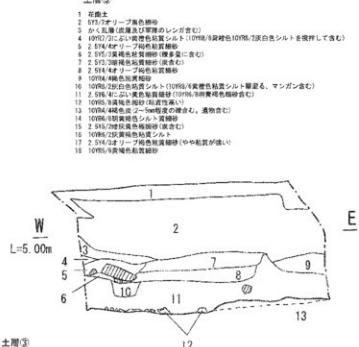
調査地の堆積状況から丸亀城北西側の当地は、須恵器や石器片が出土していることから古墳～古代頃にはすでに海ではなく安定した陸地となっていたことが分かる。



第13図 調査位置図 (S=1/800)

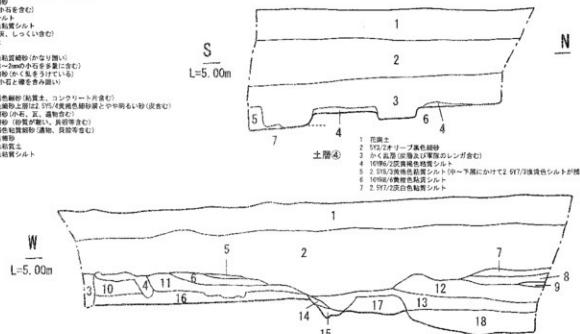
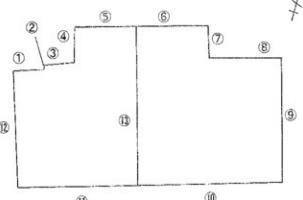


十一

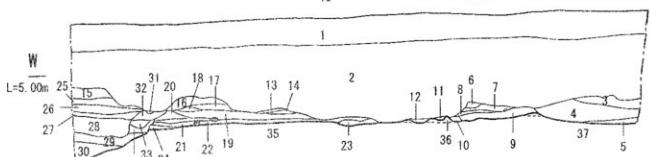


土壤③

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 花崗岩 | 8 101YR7/3 暗褐色皮 |
| 5YT3/2オリーブ黒色柄糸 | 9 かく乱糸(被服及び軍隊のレンガ) |
| 9YR7/1 黄白色底白筋砂(小石と塵を多量に含む) | 10 2.5Y4/4オリーブ色底白筋縞糸 |
| 10YR6/6に近い黄褐色系質糸 | 11 2.5Y5/3 暗褐色斜向糸(中一) |
| 10W6/4暗褐色(2~5ds経糸の塵含む、塵端青色) | 12 2.5Y7/1 暗褐色シルト |
| 2. 5Y4/2暗灰黃色質糸シルト(小石含む) | 13 2.5Y7/1 暗褐色シルト |
| (ノイズ) 10YR6/6に近い黄褐色系質糸 | 14 2.5Y7/1 暗褐色シルト |

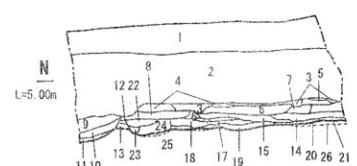


-



- 土崩(6)

 - 1 花崩土
 - 2 かくね土
 - 3 2.57t/1 黄褐色地質崩移砂
 - 4 2.57t/1 黄褐色地質崩移砂
 - 5 10794.7t/1 黄褐色シルト(黄色シルト含む)
 - 6 2.57t/1 黄褐色シルト(黄色粘土含む)
 - 7 2.57t/1 黄褐色地質崩移砂
 - 8 2.57t/4.9t/1 黄褐色地質崩移砂



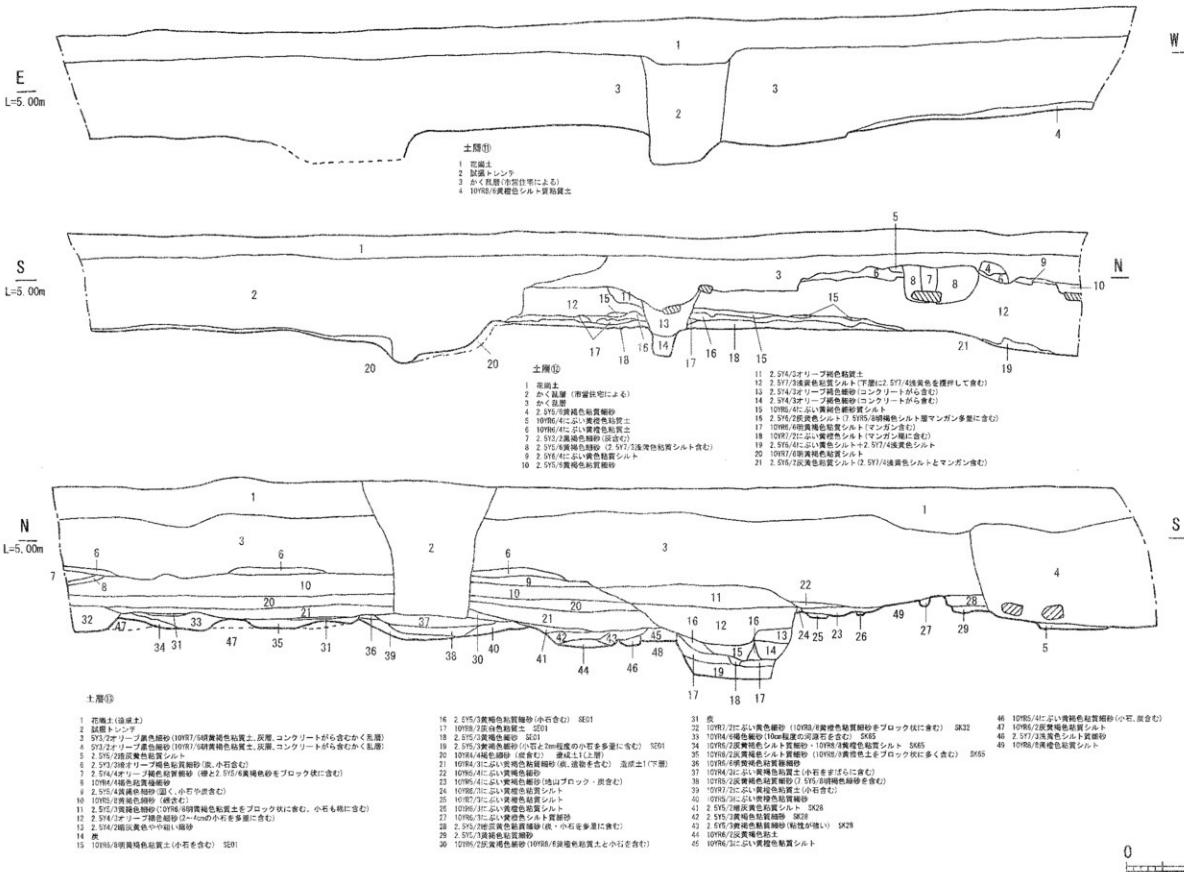
- | |
|--------------------------------|
| 褐色色斑白鶲脣(小石、砂利含む) |
| にぶい茶色地斑白鶲脣(含む) |
| 黒褐色地斑白鶲脣(1~2cmの小石多量に混じり、固くしまる) |
| にぶい黒褐色地斑白鶲脣 |
| オリーブ地斑白鶲脣(灰含む) |
| 黄褐色シート(灰含む) |
| 或オリーブ地斑白鶲脣(灰含む) |
| 褐色色斑白鶲脣(小石が多量に混じり、固くしまる) |
| 褐色地斑白鶲脣(小石、砂利含む) |

28 15175/1

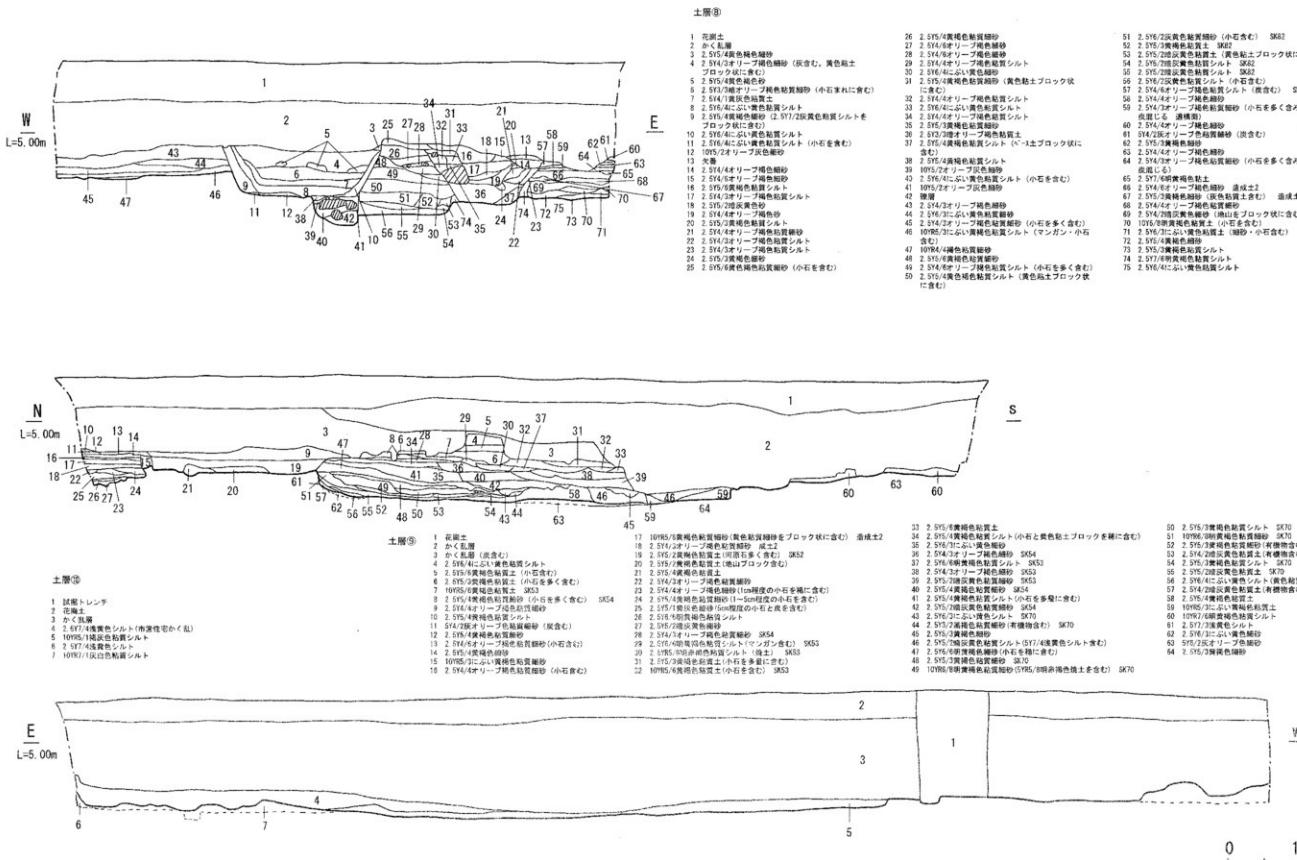
29. 10/19(火) 朝食は黒豆粉砂糖 (上層に泡がたり) + 50ml 程度の豆乳を混ぜて食す (豆乳も黒豆も含む) 進成士
30. 10/20(水) 黒豆粉砂糖 (2倍程度の水を含む) SK2
31. 2/16(木) 黒豆粉砂糖 (2倍程度の水を含む)
32. 2/18(土) にんじん 黒豆粉砂糖 (小石、泥含む)
33. 2/25(土) 黒豆粉砂糖 (3~5cmの玄米石を含み、固くしまる)
34. 2/25(土) 黒豆粉砂糖 (小石含む)
35. 2/26(日) 黒豆粉砂糖シルト
36. 2/27(月) 黒豆粉砂糖シルト
37. 2/28(火) 黒豆粉砂糖シルト
38. 3/1(水) 黒豆粉砂糖シルト

1m

第14図 土層位置図・主層図(1)



第15図 土層図 (2)



第16図 土層図(3)

第2節 遺構

時期

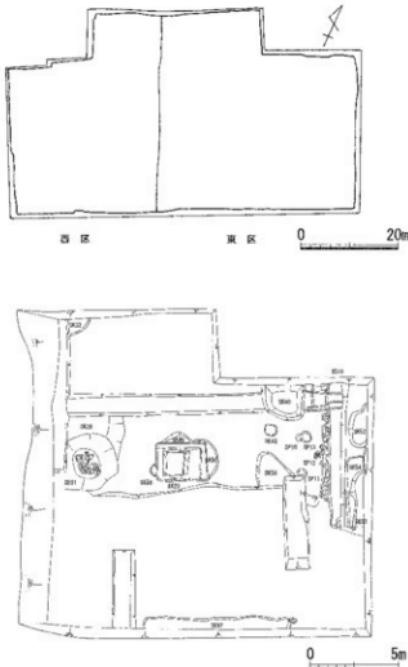
須恵器の破片等が出土しており、古代の遺構があると思われるが遺物を包含する遺構はなく不明である。主要な遺構は江戸時代や近代の遺構で、現在の建物跡の基礎もある。

検出面

第1面は、標高4.0cm~4.2m、下層が4.0m、上層が4.2m。第2面は4.6m。第3面は4.7m。第4面は標高4.9mに遺構面がある。西端で最も残りのよいところは5.2mで東端の最も残りのよいところは4.9mである。最上層で検出される近現代の遺構である。

全体の概要

調査地全体に近代～現代のかく乱による遺構破壊は著しいものの、その中にありながら調査地東側は最も保存状態が良い。



第17図 調査区設定図・東区上面遺構平面図

丸亀城は生駒、山崎、京極氏三代が入城した。生駒氏は慶長2年（1597）～寛永17年（1640）まで、山崎氏は寛永18年（1641）～明暦3年（1657）まで、京極氏は万治元年（1658）～幕末まで入封している。また、明治7年に郭内の民家取り払いが行われ、それ以降に軍隊の營舎が築かれる。丸亀城及び武家屋敷地の大きな画期があるとするとこれらの時期と当該地辺りの戸敷地割りには多度津藩の家住名が見られる。多度津藩関係者は文政12年（1829）に多度津陣屋へ移住することからこれら少なくとも5期の画期があると思われる。

調査地の遺構面の残りは悪く、虫食い状態でかく乱が深く及ぶところもあり、それぞれの遺構を面で捕らえることは困難である。報告は土層の上下関係や出土遺物や画期となる事象等を考慮し、第1～5期に分類した。

第1期下層は、屈曲する落ち込みがあり、生駒氏時代のものかそれ以前のものであるが、遺物の出土がなく時期不明である。第1期上層は、調査地東側で検出されたSK82やSK86などの土こうがあたり、遺物や検出面の状況から江戸初期の遺構、生駒氏時代のものと考えられる。

第2期は、西側に少し屈曲する落ち込みがあり、外濠土壁の境界線である。調査地東側のSK75、SK67、SK68、SK70、SK91などの上こうがこれにあたる。山崎氏か京極氏初期頃の遺構である。

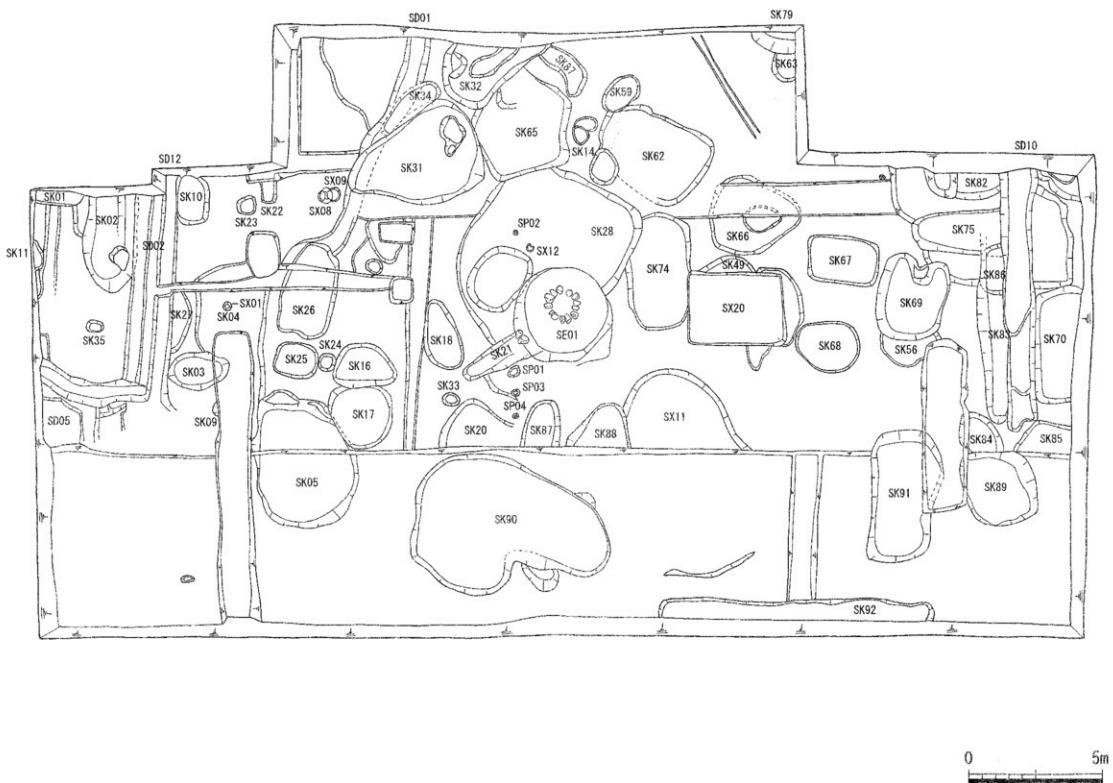
第3期は、土壁内側にはSK63、SK31、SK18、SK32、SK65、SK21、SK26、SK69、SK73、SK74、SK56、SK62などの廃棄された遺物を多く包含する土こうも見られる。また、井戸（SE01）もこの時期には石組み井戸が造られる。SD10西側の掘り込みも遺物の出土はないが先行する溝跡と考えられる。17世紀後半から18世紀中頃の遺構である。

第4期は、土壁内側は造成土1による造成がなされる。また、その南側の竹林となっている場所にはSK90、SK88、SK48、SK28、SK05、SK20などの土こうが見られる。屋敷地内は礎敷き遺構であるSX11などがある。SX11からは宝鏡印塔の相輪が出土しており、庭園などあった可能性もある。SD10は調査地東側で検出された素掘り溝である。第4期は19世紀初頭までの遺構である。

第5期は溝跡SD10の西側に石列が配される。この溝は明治7年の軍隊関連施設建設による武家屋敷立ち退き時に埋められたと考えられる。また、この時期には溝のすぐ西側にSB01も確認されている。

SK02、SK03、SK04、SK10、SK17、SK53、SK54、SK52などの土こうがあるが、これらの土こうからは主に19世紀初～中頃の遺物が出土している。主に幕末から明治初頭頃までの遺構である。特に遺物が多く廃棄されている土こうは、明治7年の武家屋敷地の立ち退きにあたる廃棄土こうと思われ、これらの遺物は幕末に当該地に居住していた網干郡代齊藤氏の生活雑器の可能性がある。

近現代は軍隊の遺構があり外濠へ排水する溝跡SD02・03・05が確認された。建物跡では調査地の西側の外濠端で建物礎石やコンクリート基礎、地下貯蔵庫のある木枠のある建物SX20や水溜施設と考えられる施設SK40、SX08・09は廻の受け壇と考えられる遺構が検出された。調査地の南側は市営翠山荘アパート建設及び取り壊しによるかく乱を受けていた。

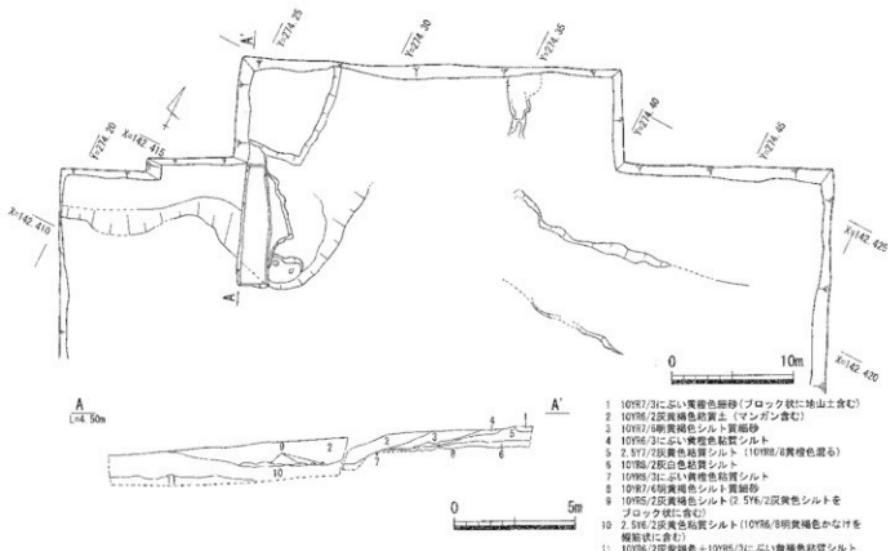


第18図 遺構平面図

遺構

第1期下層

調査地の西側（西区）で屈曲する落ち込みを検出している。江戸時代初期頃より古い遺構であるが出土遺物がなく時期の特定はできていない。

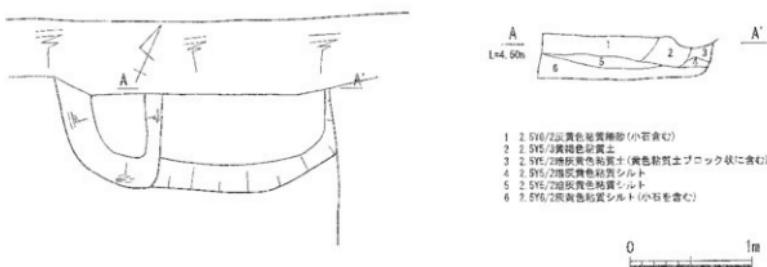


第19図 第1期下層平面図・土層図

第1期上層

SK82

長径240cm以上、短径80cm以上、深さ35cmの土こうである。17世紀前葉の唐津産の皿が出土している。



第20図 SK82 平面図・土層図

SK86

長径150cm、短径67cm、深さ52cmの土こうである。17世紀前半の唐津産の灰釉碗が出土している。

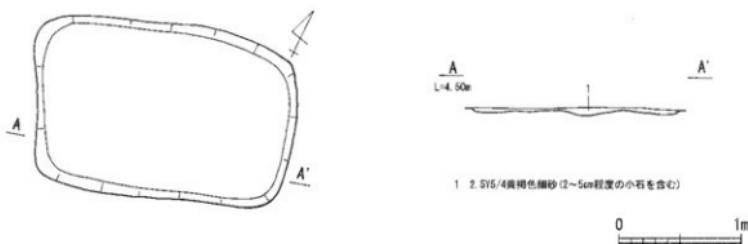


第21図 SK86・SK75 平面図・土層図

第2期

SK67

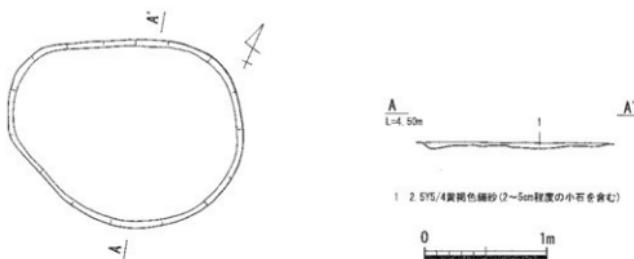
長辺217cm、短辺143cm(土層位置170cm)、深さ5cmの土こうである。土師質皿が2点出土している。



第22図 SK67 平面図・土層図

SK68

長径198cm、短径151cm(土層位置)、深さ5cmの土こうである。白磁の小杯が出土している。



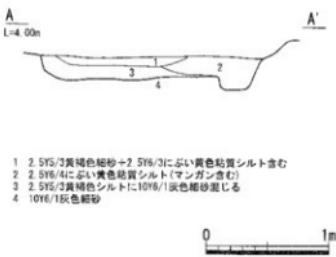
第23図 SK68 平面図・土層図

SK75 (第21図参照)

長径215cm以上(土層位置)、短径130cm以上(上層位置)、深さ30cmの土こうである。青磁の製品が出土している。

SK91

長径395cm、短径200cm、(土層位置183cm) 深さ26cmの土こうである。直上まで市営翠山荘アパートの建設や解体に伴うかく乱を受けていた。出土遺物は17世紀中葉までの磁器の染付皿や青磁鉢、陶器皿等が出土している。

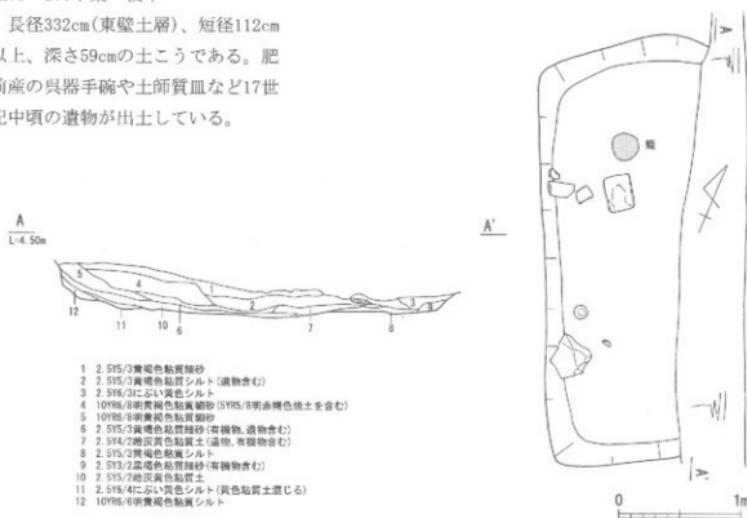


第24図 SK91 平面図・土層図

SK70 17c中葉～後半

長径332cm(東壁土層)、短径112cm

以上、深さ59cmの土こうである。肥前産の呉器手碗や土師質皿など17世紀中頃の遺物が出土している。

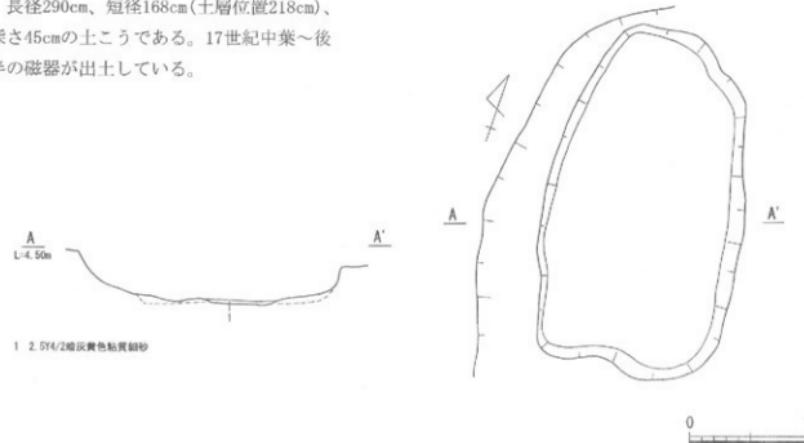


第25図 SK70 平面図・土層図

第3期

SK26

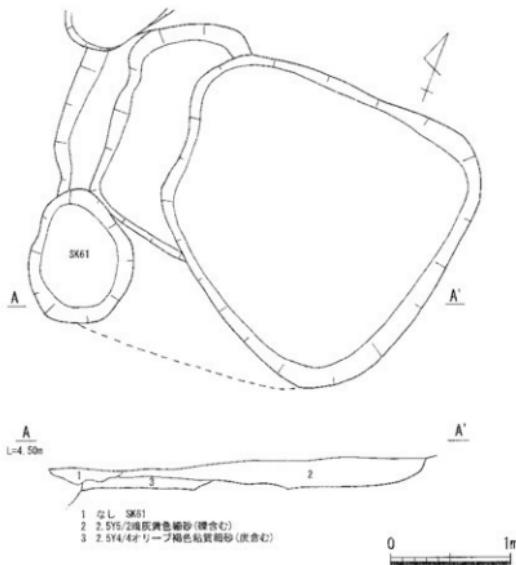
長径290cm、短径168cm(土層位置218cm)、深さ45cmの土こうである。17世紀中葉～後半の磁器が出土している。



第26図 SK26 平面図・土層図

SK62

長径276cm、短径257cm(土層位置288cm) 深さ25cmの土こうである。18世紀中葉の遺物含む。第4期直前頃の遺構である。



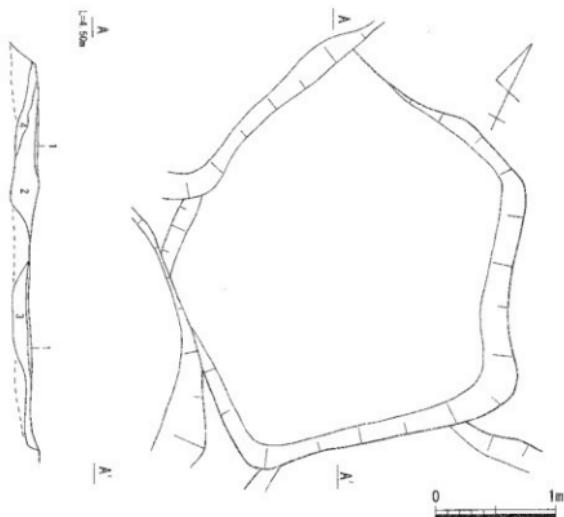
第27図 SK62 平面図・土層図

SK65

長径313cm(西区東壁上層より)、短径294cm、深さ22cmの土こうである。

18世紀前半の遺物を含む。

- 1 磚
- 2 18世紀後半褐色縮砂 (10cm程度の河原石を含む) (10cm程度の黒褐色粘土と3cmを含む)
- 3 18世紀後半褐色縮砂 (10cm程度の黒褐色粘土と3cmを含む)
- 4 18世紀後半褐色シルト 黒褐色粘土 (10cm程度の黒褐色シルト中に多く含む)
- 5 18世紀後半褐色粘質シルト

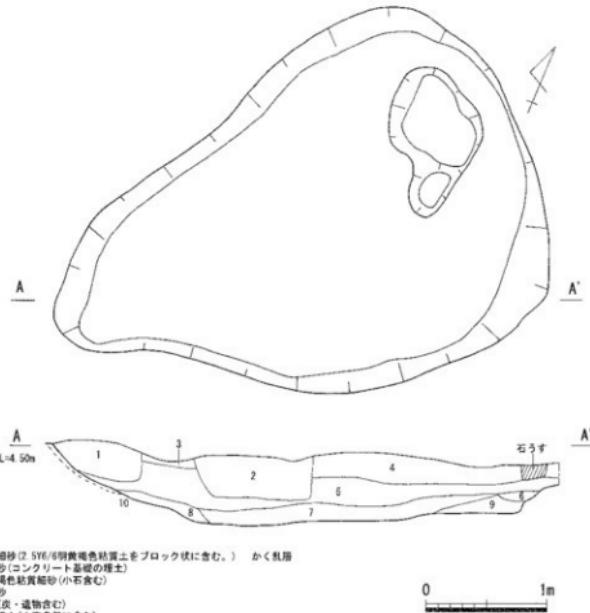


第28図 SK65 平面図・土層図

SK31

長径417cm、短径
257cm深さ14cm以上
の土こうである。
18世紀前半頃まで
の遺物を含む。

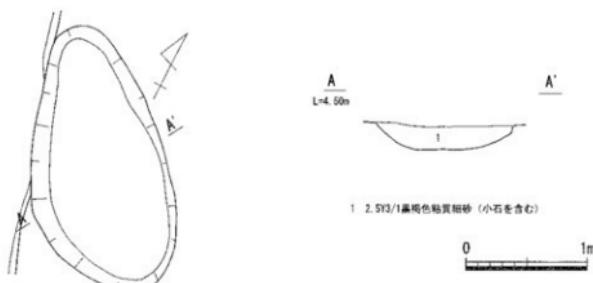
下層(土層図7層)
や最下層(土層図8
・9層)から瓦が多
く出土している。



第29図 SK31 平面図・土層図

SK18

長径193cm、短径116cm(土層位置)、深さ22cmの土こうである。磁器皿や刷毛目碗など18世紀前半頃ま
での遺物を含む。



第30図 SK18 平面図・土層図

SK63

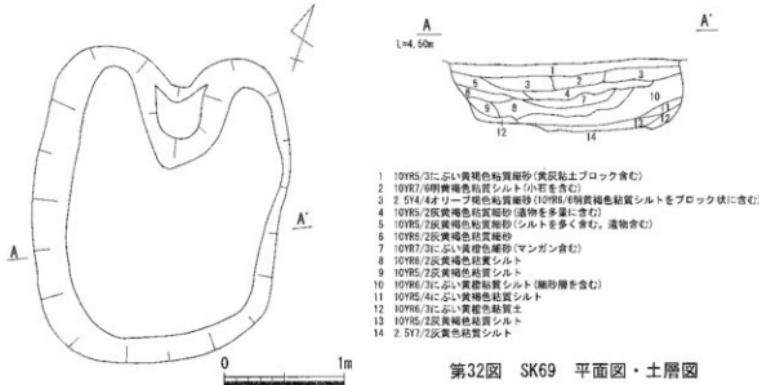
長径98cm以上、短径74cm以上(土層位置68cm)、深さ23cmの土こうである。17世紀前半の瀬戸美濃産の天目茶碗が出土している。



第31図 SK63 平面図・土層図

SK69

長径252cm、短径193cm(土層位置)、深さ57cmの土こうである。18世紀初頭までの遺物が出土している。



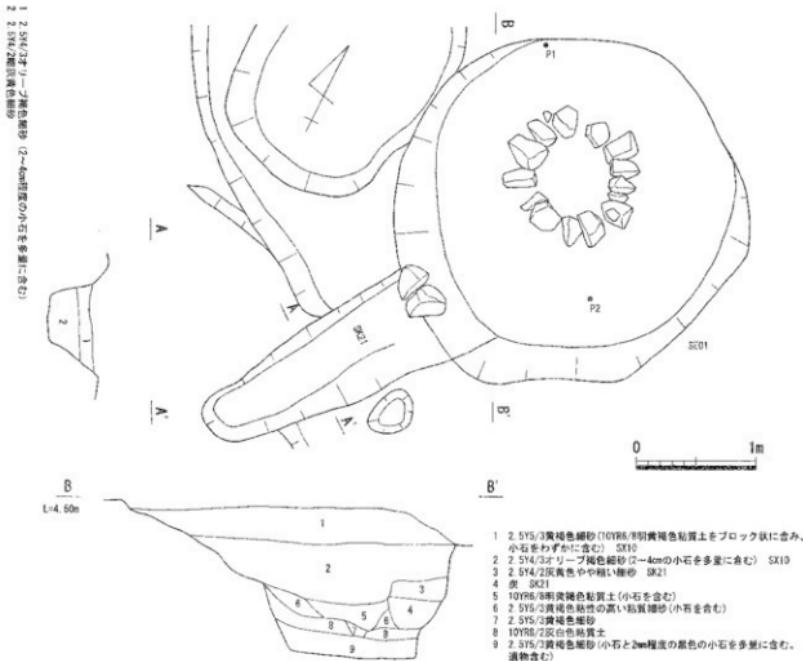
第32図 SK69 平面図・土層図

SE01

石組みの井戸である。井戸の掘り方から出土した遺物によると17世紀後半から18世紀初頭の開削が推測される。内径90cm、深さ5mで海水面より深くなる井戸である。上部掘り方は3m、底部の掘り方1.5mある。上部から2m地点で掘り方が2.5mと絞られて周囲に襖を配し土留めを行っている。その下部の掘り方は2.5mとやや膨らむ上下二段に掘り分けられている。この井戸の掘り方上段の西側で、階段状になるSK21が接続し、井戸建設のための資材搬入路となっていた可能性もある。底は木枠等の設置もなく、砂層に直接石を設置している。底からは真水が湧き出ている。

SK21

長径210cm以上、短径74cm(土層位置45cm)、深さ40cmある。井戸に関連す遺構と思われる。

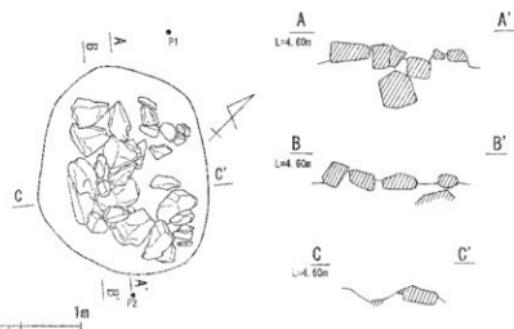


第33図 SX01 井戸・SK21 平面図・土層図

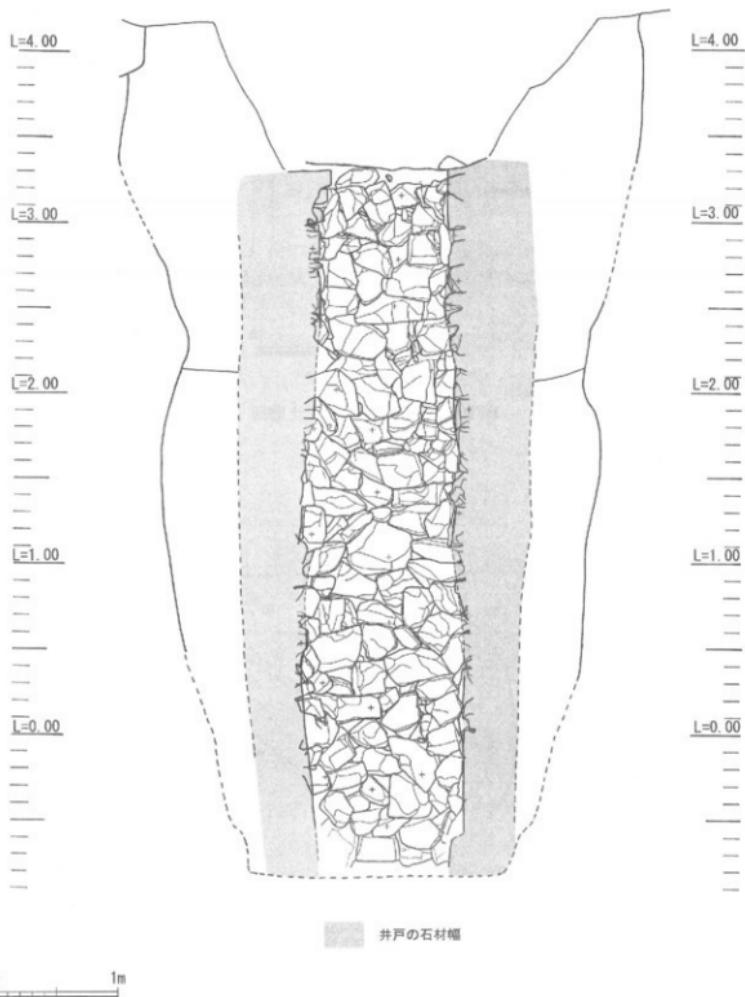
井戸の開削時に伴うもので、石材等の搬入路等の可能性があると思われる。

SX10 (近代)

井戸の廃棄状況は、約80cmまで掘削し、井戸枠の石材を取り外している。埋めた後に井戸枠の石材を配置していた。井戸石組み天端より3mまで瓦や凝灰岩の流しや建物基礎と思われる石製品、石、コンクリートが出土している。軍隊時も使用された可能性がある。



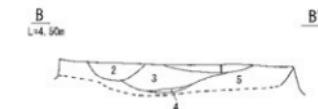
第34図 SX10 平面図・断面図



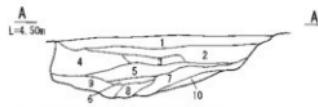
第35図 SE01 井戸 断ち割り図

SK74

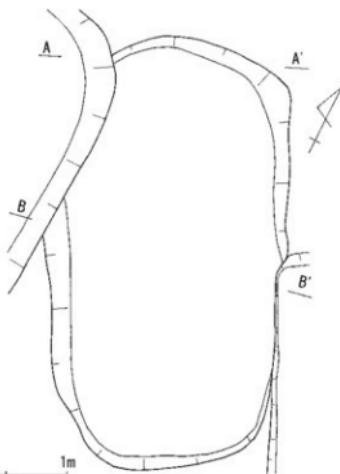
長径355cm、短径198cm、(土層位置136cm)、深さ22cmの土こうである。小石を多く含む層や炭を含む層があった。



- 1 2.5YR/6黄褐色細砂
- 2 10YR5/2灰斑黄色砂(粘質土が混じる)
- 3 10YR7/4に近い黄褐色細砂
- 4 2.5Y2/1黒色度
- 5 10YR5/4に近い黄褐色粘質土(小石と細砂含む)



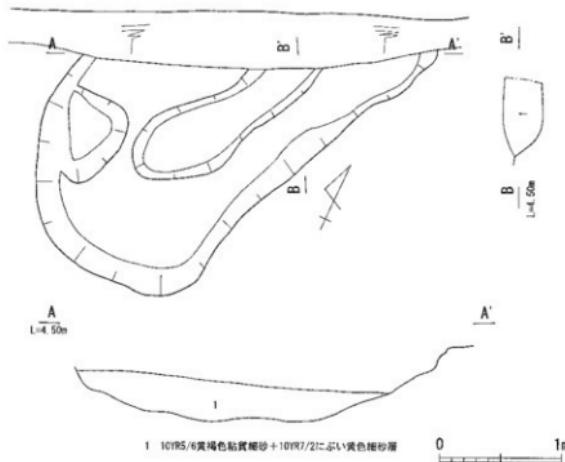
- 1 2.5YR/3に近い黄色粘質細砂(小石含む)
- 2 10YR5/3に近い黄色粘質細砂
- 3 10YR7/4灰斑黄色粘質シルト
- 4 10YR5/4に近い黄褐色粘質土(小石を多量に含み、堅くしまる)
- 5 2.5YR/4に近い黄色細砂(炭を多量に含む)
- 6 2.5Y5/4に近い黄色粘質シルト(マンガン含む、遺物含む)
- 7 10YR5/3灰斑黄色粘質シルト
- 8 10YR5/3に近い黄色粘質シルト(粒子が細かい)
- 9 10YR5/3に近い黄色粘質シルト
- 10 2.5Y8/4に近い黄色粘質細砂(小石含む)



第36図 SK74 平面図・土層図

SK32

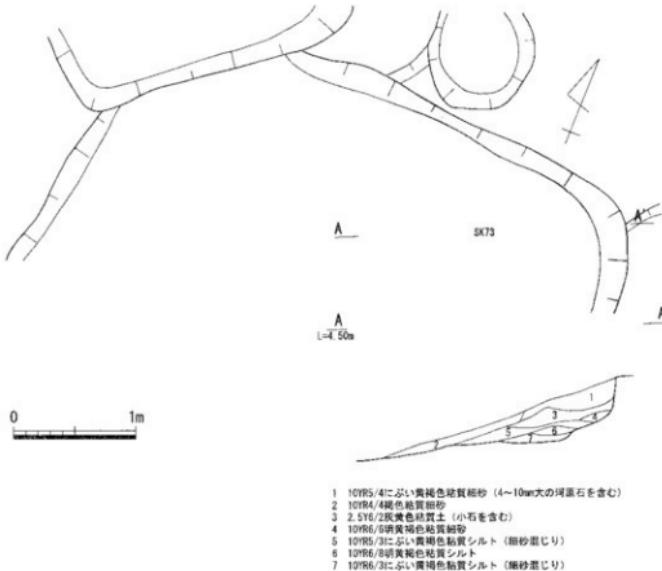
長径206cm、短径190cm、深さ32cm~70cmの土こうである。上部はかく乱にあっているが出土遺物は磁器皿や片口鉢、備前産擂鉢など17世紀後半~18世紀前半の遺物を含む。



第37図 SK32 平面図・土層図

SK73

深さ50cm以上の土こうであるが上層の造成土1の掘り込みのため底部の残りのみで遺構の全体の形は不明である。遺物も造成土1のものを混ぜて取り上げている可能性が高い。



第38図 SK73 平面図・土層図

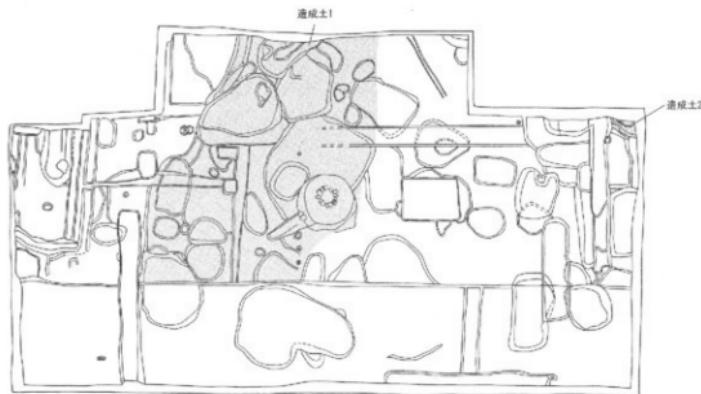
第4期

造成土1 (第15図 土層⑬ 20・21層)

主に18世紀中葉頃の遺物が多いが18世紀後半の遺物も含む造成土である。当初21層を土こうとして遺物のとりあげを行ったが、広範囲に広がることから造成土1の下層とした。上層からの掘り返しを受けしており、取り上げ時に新しい遺物が混入した可能性もある。

造成土2（第16図 土層⑧ 66～68層）

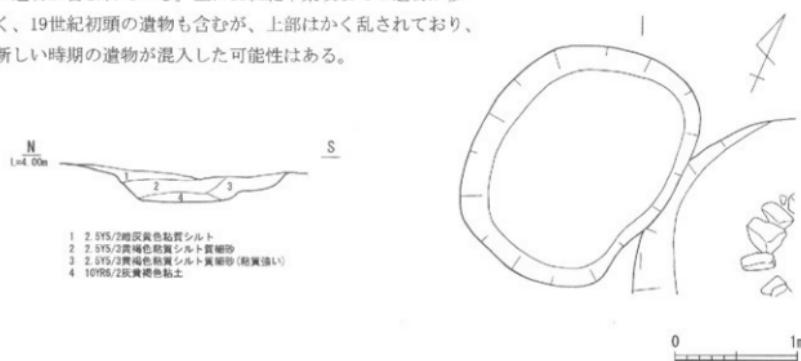
調査区東端の北東部で、SD10の東側で検出した造成土である。規模等の詳細は不明であるが、上層には小石が混ざり固められた層であり、道路遺構の可能性が高い。



第39図 造成土1・2 平面図

SK28

長径204cm、短径163cm（東壁土層位置134cm）、深さ19cmの土こうである。上部はかく乱にあっており、新しい時期の遺物が含まれている。主に18世紀中葉頃までの遺物が多く、19世紀初頭の遺物も含むが、上部はかく乱されており、新しい時期の遺物が混入した可能性はある。

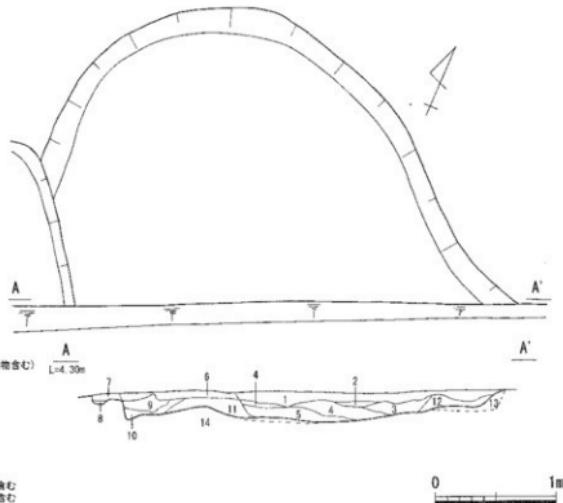


第40図 SK28 平面図・土層図

SX11

幅236cm、深さ12cmある土こうであるが、土こう内には礫を配している。南側は市営翠山荘アパートの建設や解体時にかく乱を受け

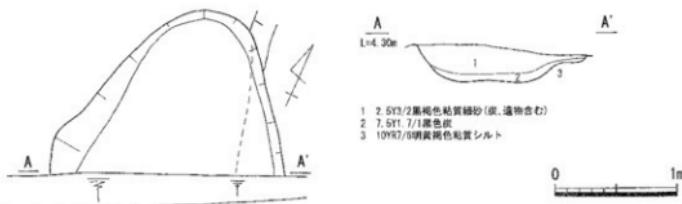
全体の形は不明であるが、この層中から宝鏡印塔の相輪が出土しており、庭園施設の可能性もある。礫の配されたのは18世紀末～19世紀初頭頃の遺物が出土しており、それ以後の遺構であると思われる。



第41図 SX11 平面図・土層図

SK88

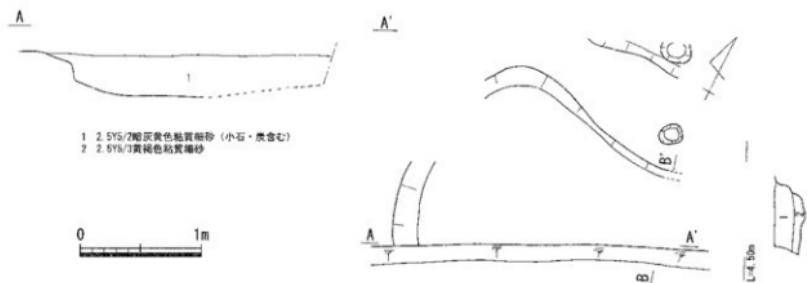
径142cm、深さ30cmの土こうである。南側は市営翠山荘アパートの建設・撤去により全体の形は不明である。



第42図 SK88 平面図・土層図

SK20

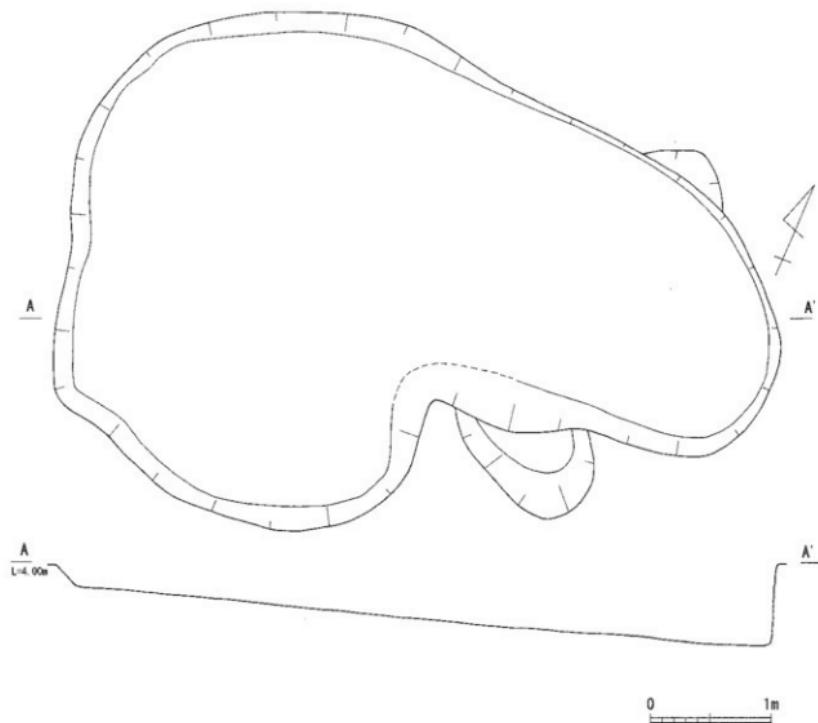
長径246cm以上、短径143cm、深さ24cmの土こうである。18世紀後半までの遺物を含む。南側は市営翠山荘アパートの建設及び解体のときにかく乱を受け全体の形は不明である。



第43図 SK20 平面図・土層図

SK90

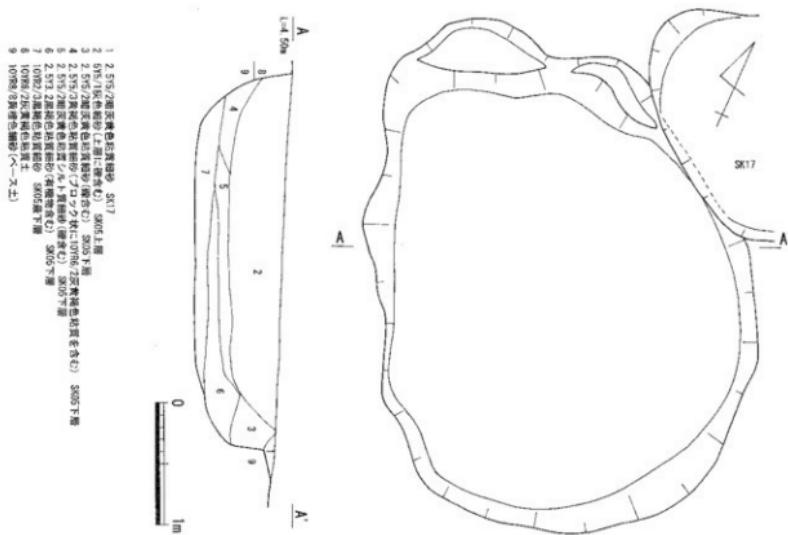
長径600cm、短径374cm、深さ55cmの土こうである。直上まで市営翠山荘アパートの建設や解体時のかく乱にあっていいる。



第44図 SK90 平面図・断面図

SK05

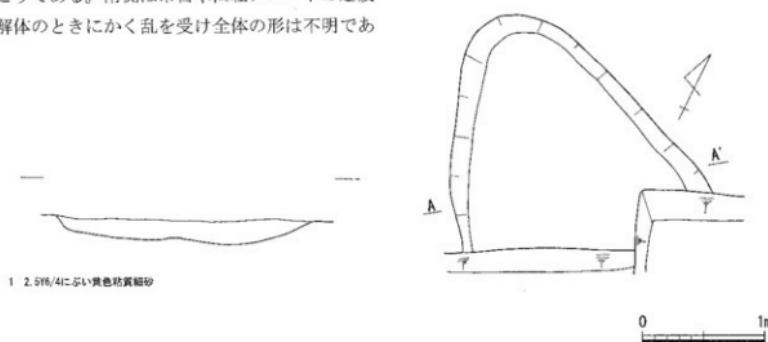
長径430cm、短径294cm(土層位置310cm)、深さ80cmある。遺物の廃棄土こうである。



第45図 SK05 平面図・土層図

SK56

長径173cm以上、短径210cm(土層位置)、深さ20cmの上こうである。南側は市営翠山荘アパートの建設及び解体のときにかく乱を受け全体の形は不明である。



第46図 SK56 平面図・土層図

SD10

下層は素掘り溝で、上層は片側に石列を配する溝となる。

素掘り溝は幅約1.3m、深さ約70cmある。その西側の掘り込み①も溝跡と考えられる。17世紀中頃の山崎氏時代まで遡る可能性がある。

下層溝土層図



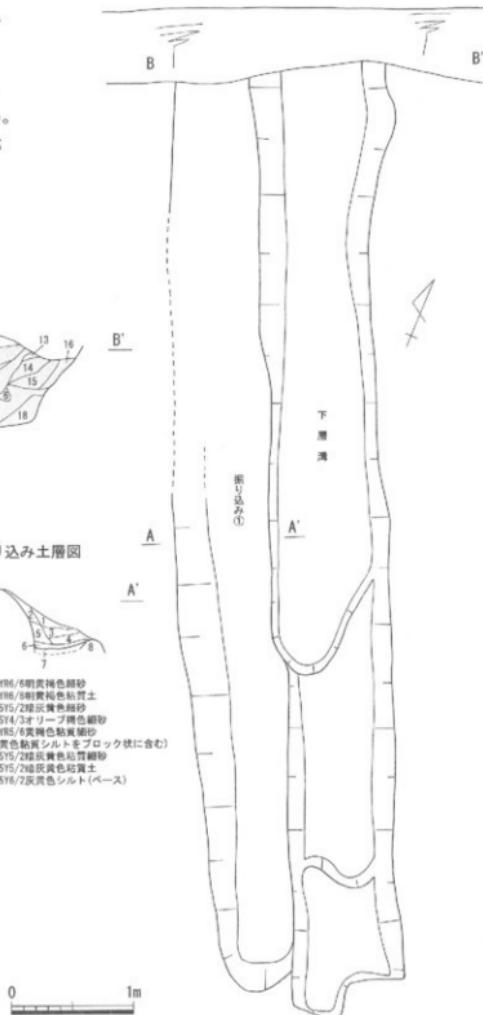
第5期

SD10

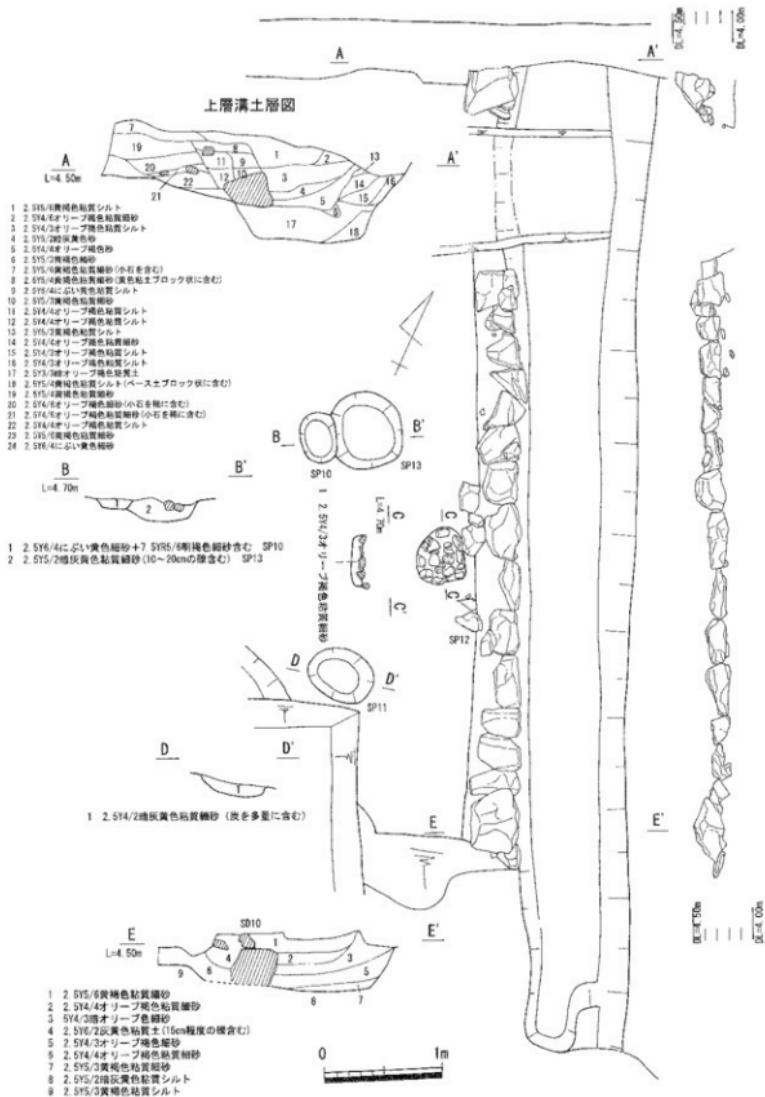
下層の素掘り溝は埋められ、上層は第5期で西側へ石列が配されるようになる。長さ500cm以上、幅86cm。深さ50cmある。

また、SP10、12、13はこの溝に伴う柱穴である。特にSP12の底には礫が敷かれている。

溝は軍隊施設の建設時に埋められている。



第47図 SD10 下層溝 平面図・土層図

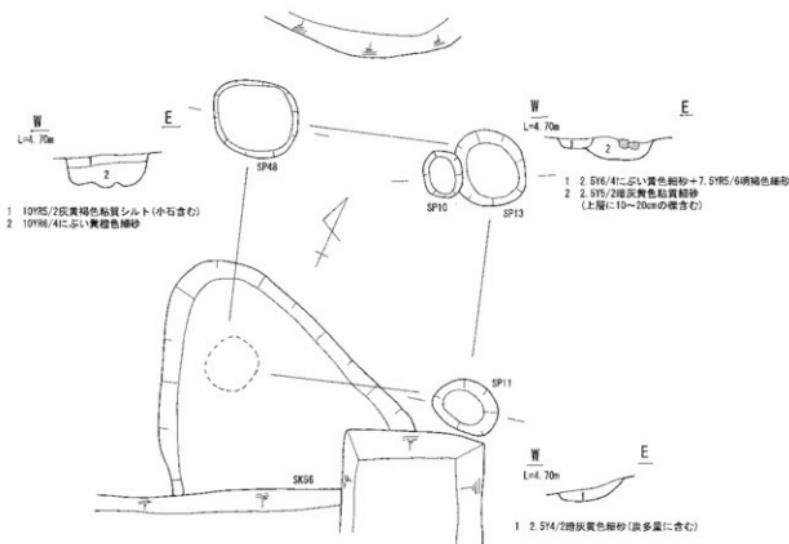


第48図 SD10 上層溝 平面図・土層図

SB01

1間×1間の建物で、柱間2mある。

SP10は径29cm、深さ9cmである。SP13は径29cm、深さ9cmである。SP12は長径42cm、短径40cm、深さ12cmで、底に石を敷き詰めている。SP11は径55cm深さ18cmである。SP48は長径68cm、短径63cm、深さ27cmである。上部はかく乱により削平を受けているので、深さは検出高よりも実際は深いものと思われる。



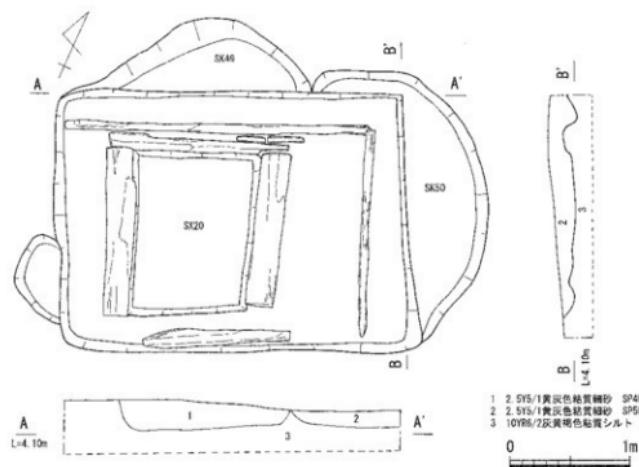
第49図 SB01 平面図・土層図

SK49

長径213cm(土層では144cm)以上、短径56cm以上、深さ28cmの土こうである。SK50とともに軍隊時の建物SX20によりかく乱を受けている。肥前産呂器手碗が出土しているが埋土を見ると時期は新しい。

SK50

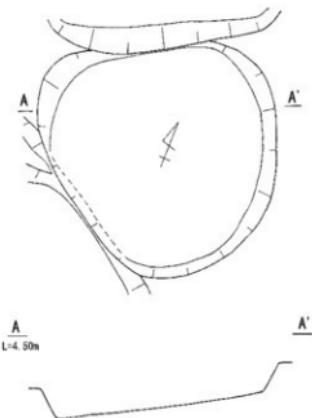
長径240cm、短径66cm以上(土層185×90)、深さ14cmの土こうである。磁器碗、土師質皿、瓦等が出土しているが埋土を見るとSK49と同様に時期は新しい。



第50図 SK49・50 平面図・土層図

SK17

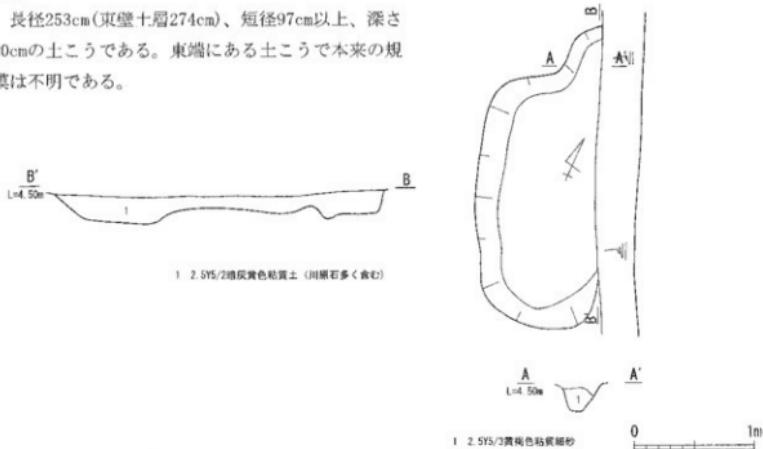
長径213cm、短径183cm、深さ30cmの土こうである。
瓦が多く出土している。



第51図 SK17 平面図・断面図

SK52

長径253cm(東壁土層274cm)、短径97cm以上、深さ20cmの土こうである。東端にある土こうで本来の規模は不明である。



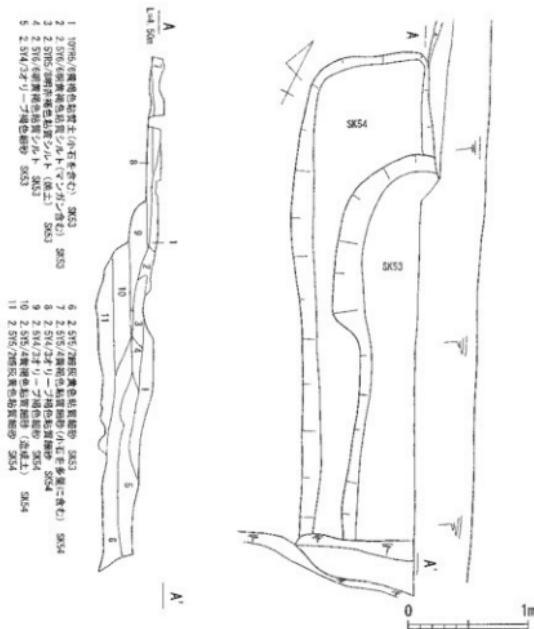
第52図 SK52 平面図・土層図

SK54

長径393cm(土層位置164cm)以上、短径100cm以上、深さ15cmの土こうである。焼土層が混ざる。

SK53

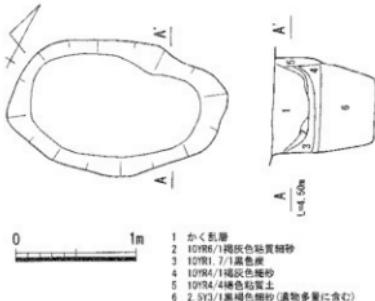
長径313cm(東壁土層294cm)以上、短径46cm以上、深さ12cmの土こうである。SK54より上層遺構である。上部までくらが及ぶ。東端にある土こうで本来の規模は不明である。



第53図 SK53・54 平面図・土層図

SK03

長径187cm、短径108cm、(土層位置74cm)、深さ88cmの土こうである。SK02と同時期遺物廃棄土こうと思われ、幕末頃の遺物を多量に包含する。近現代に掘り返されかく乱を受けている。

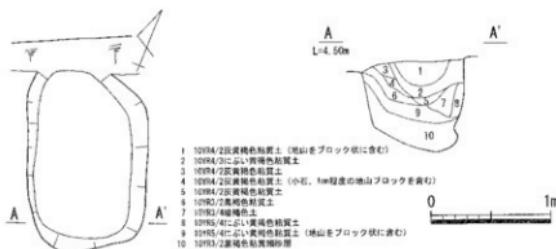


第54図 SK03 平面図・土層図

SK10

長径150cm、短径100cm、深さ約80cmの土こうである。

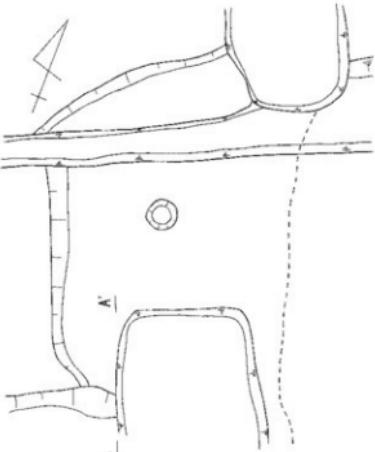
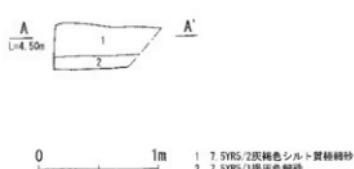
幕末の廃棄土こうであるが、一度掘り返されている。また、明治期以降のSD02の掘り方により削平を受けている。



第55図 SK10 平面図・土層図

SK04

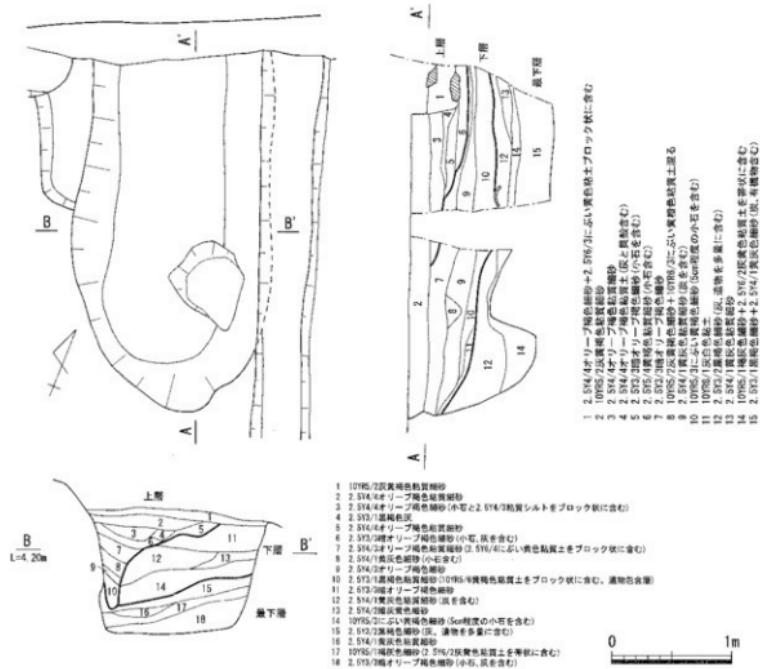
長径307cm以上、短径218cm以上、深さ22cmの土こうである。上部までかく乱が及んでいる。



第56図 SK04 平面図・土層図

SK02

長径293cm以上(南北土層)、短径157cm(東西土層)、深さ137cmの上こうである。最下層からは幕末頃の遺物が多量に出土している。明治7年に完成する～四番丁一帯への陸軍の丸亀營舎建設に伴う立ち退き時の遺物廃棄土こうと思われるが、近代現代に掘り返されかく乱を受けている。

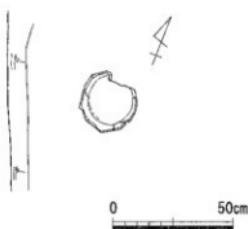


第57図 SK02 平面図・土層図

時期不明遺構

SX12

土師質甕が埋められた状態で出土しているが、上部掘削にあい底部しか残っていない。時期不明である。



第58図 SX12 平面図

第5期（近代）

近代の遺構は礎石をもつ建物跡やSX20の木枠を組んだ建物遺構、SK40のように粘質土を貼り付けた土こう、コンクリート基礎、SX08・09の埋め甕は軍隊時のトイレ甕、溝跡を検出した。特に西側では外濠へ排水する溝跡を検出した。石組井戸も引き続き使用されていたようである。

溝跡を報告する。

SD02

この場所は外濠内側に沿う溝であり、SD02は南北方向の長さ560m以上、幅72cm、深さ43cm、西壁での深さ約80cmある。ほぼ直角に屈曲して外濠へ排水するようになっている。屈曲部付近でSD05と接続する。

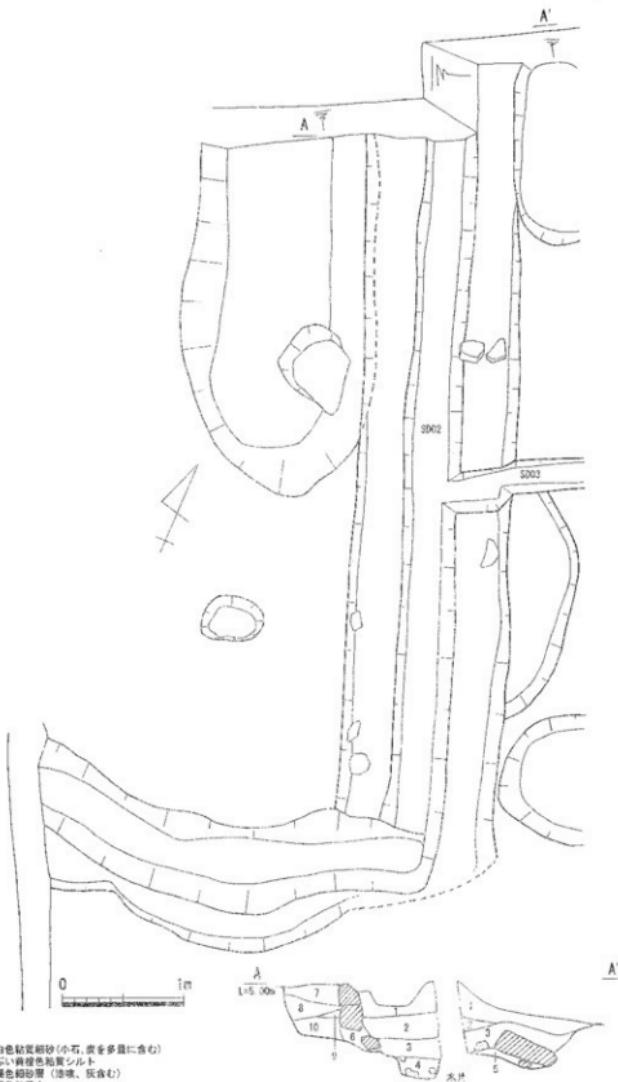
北壁土層断面を見ると本来は20～50cm程度の石材を2段積みした石組溝であったようであるが、石材は取り除かれ残っていない。溝に伴う掘り方は長さ560cm以上、幅135cm。SD02の施工に伴う掘削である。本来この場所には元から溝があり、軍隊時に造りかえられた溝である可能性もある。

SD03

東西方向で長さ700cm、幅24cm、深さ34cm、軍隊施設に伴う溝である。

SD05（第18図遺構平面図参照）

南北方向で長さ100cm以上、幅48cm、深さ40cmある。SD02と接続する溝であり、南側へ延長するものと思われるが、以前の市営翠山荘アパート建設による掘削で消失している。



- 1 10m/1段白色粘土細砂(小石、炭を多量に含む)
- 2 10m/2段灰褐色細砂(小石を含む)
- 3 2.5m/2段灰褐色細砂(泥塊、炭含む)
- 4 2.5m/2段純色粘土質土
- 5 2.5m/2段灰褐色粘質シルト(小石含む)
- 6 2.5m/2段灰褐色粘質シルト
- 7 2.5m/4段灰褐色細砂(小石を多量に含む。石の裏込め)
- 8 10m/2段白色シルト(10m/3段灰褐色粘質シルトを含む)
- 9 2.5m/2段灰褐色粘質シルト
- 10 2.5m/2段灰褐色細砂(小石を含む)

第59図 SD02 平面図・土層図

第3節 遺物

遺物について報告する。詳細は遺構観察表を参照していただきたい。

第1期

SK82

1は陶器皿。唐津産の皿で内面と外面口縁に釉薬が掛かる。底部は低く削りだした高台をもつ。



SK86

2は陶器碗。唐津産の灰釉碗の底部である。

第60図 SK82 出土遺物実測図 (S=1/4)



第61図 SK86 出土遺物実測図 (S=1/4)

第2期

SK67

3、4は土師質皿。どちらも底部静止糸切りされている。



第62図 SK67 出土遺物実測図 (S=1/4)

SK68

5は白磁の小杯である。



SK75

6は青磁の碗か鉢である。

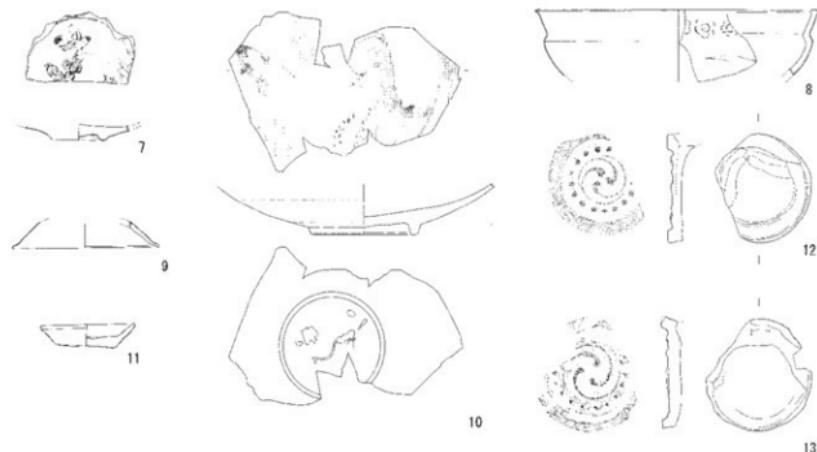
第63図 SK68 出土遺物実測図 (S=1/4)



第64図 SK75 出土遺物実測図 (S=1/4)

SK91

7は磁器の染付皿。高台内兜巾を残す。8は青磁の鉢。9は軟質陶器の蓋で皿の可能性もある。10は白色釉を塗った陶器皿。11は土師質皿。12・13は巴文軒丸瓦。12の巴文の尾は長く、連珠文も密にあり、影りは深い。13の巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文の珠文は間隔が開き、尾も長く開いていく。連珠文は小さい。



第65図 SK91 出土遺物 (S=1/4)・瓦 (S=1/6) 実測図

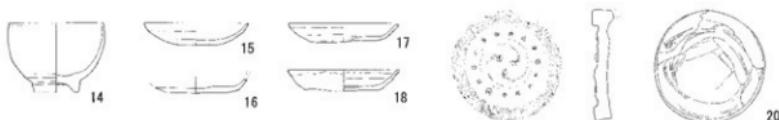
SK70

磁器碗、陶器碗、土師質皿、瓦、籠などが出土した。

14は陶器碗。肥前産の呉器手碗である。高台内は露胎する。15～18は土師質皿。15は黒色であり、17と18は灯明皿として使用された。19（写真のみ）は網目文の染付碗である。

20は巴文軒丸瓦である。巴文の瓦当に縮める割合は広い。尾は細くて長く、一箇所で接合する。連珠文は小ぶりで14個ある。

編まれた籠（遺構写真図版18）が出土しているが、もろく取り上げ直後に破損したので写真による報告とする。



第66図 SK70 出土遺物 (S=1/4)・瓦 (S=1/6) 実測図

第3期

SK26

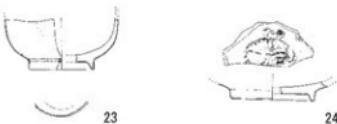
21は磁器の蝶と草花文の染付碗である。22は土師質皿で墨書がある。



第67図 SK26 出土遺物実測図 (S=1/4)

SK62

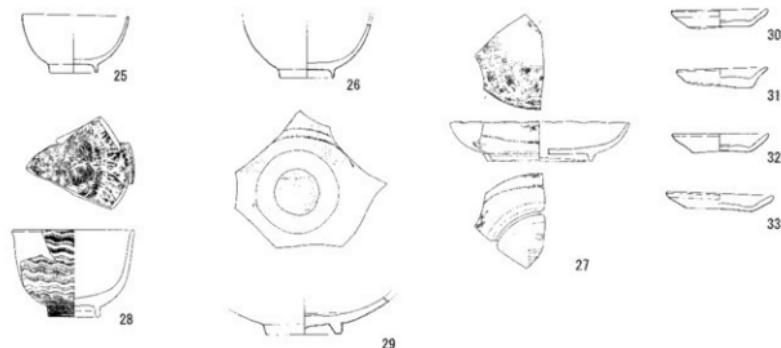
23は磁器の染付碗。24は磁器の皿である。



第68図 SK62 出土遺物実測図 (S=1/4)

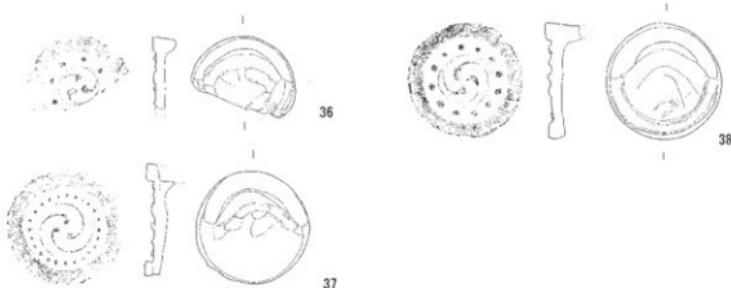
SK65

25・26は白磁碗。27は磁器の染付皿。見込みに五弁花、内側面・外側面に唐草文を施し、高台内溝「福」、口縁には口紅がつく。28は肥前系刷毛目碗。29は蛇の目釉剥ぎの陶器皿。30～33は土師質皿。34（写真のみ）は磁器の色絵。35（写真のみ）は備前産の擂鉢である。



第69図 SK65 出土遺物実測図 (S=1/4)

36～38は巴文軒丸瓦。36の巴文は短く、尾は接合する。連珠文の間隔は開いている。37は彫りが深い。巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文は細くて長く、尾は開く。連珠文は24個あり、小さく密にある。38の巴文の珠文は繋がっており、尾は長い。連珠文は12個あり間隔が開く。1箇所で范傷が見られる。

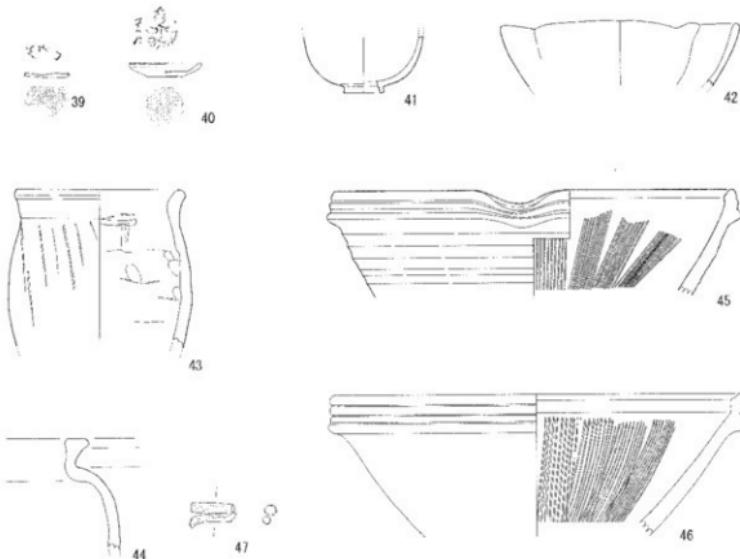


第70図 SK65 出土瓦実測図 (S=1/6)

SK31

39と40は土師質皿でともに墨書きがある。41は肥前系の碗である。42は青磁の鉢で口縁は波状となっている。43は土師質壺である。44は備前産の壺である。45と46は備前産の插鉢である。47は青銅製の煙管。

48～51（写真のみ）は磁器の染付碗である。



第71図 SK31 出土遺物実測図 (S=1/4)

52～62は瓦である。下層（土層図7）から出土した瓦は52～55で、52～54は巴文軒丸瓦。55は軒平瓦である。52の巴文は細く、尾は接続する。連珠文はやや大きく密にある。影りは良好である。53の巴文は細く、珠文も間隔が開く。連珠文は密にあり。1箇所に範傷が見られる。SK28出土の201の軒丸瓦と同範瓦である。54の瓦當に占める巴文の割合は広く、尾も接続する。連珠文は小ぶりで15個ある。55は三つ葉文軒平瓦である。

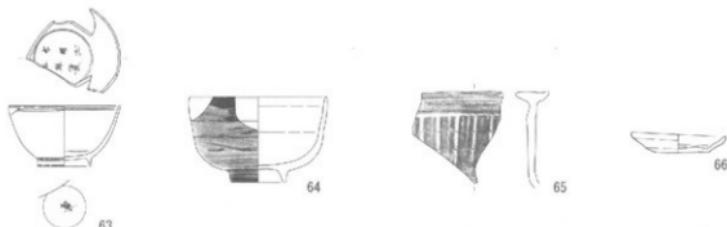
56～62は最下層（土層図8・9）出土の巴文軒丸瓦。56の巴文の尾は長く、連珠文は密にある。丸瓦部分の表側は縦方向のヘラ削り、裏側はコピキBに布目痕がある。57の文様の影りは深く、連珠文は間隔が開く。58の巴文は太く瓦當に占める割合も広い。尾も太く接続する。連珠文は密にある。59は巴文の瓦當に占める割合は広い。連珠文は小ぶりで密である。丸瓦部分の表側は縦方向にヘラ削り、裏側はコピキBに布目痕が残る。60の巴文の瓦當に占める割合は広い。巴文の珠文も大きく尾も長い。連珠文は12個ある。61の巴文は細い。連珠文は小ぶりである。62の連珠文は小ぶりで密にある。丸瓦の取り付け位置は瓦当よりやや下がる。表側は縦方向のヘラ削りがあり、裏側は布目痕が残る。



第72図 SK31 出土瓦実測図 (S=1/6)

SK18

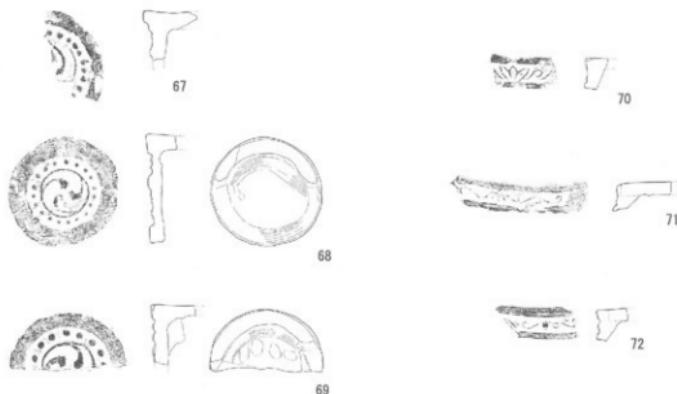
63は磁器の染付碗。見込み二重圓線に「大明成化年製」、高台裏に「製」の銘がある。64は肥前産の刷毛目碗。65は陶器壺の口縁。66は土師質皿である。



第73図 SK18 出土遺物実測図 (S=1/4)

67～69は巴文軒丸瓦。70～72は軒平瓦である。67の巴文の瓦当に占める割合は広く長い。連珠文は密である。68の巴文の珠文部は大きく尾は長い。連珠文は密にある。69の巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文は広くて長く、尾が接合する。連珠文は19個あり、小さく密にある。

70は三つ葉唐草文軒平瓦である。71は下り三つ葉唐草文軒平瓦である。唐草の蔓は中心から外側へ上下を向く。72は打ち出の小槌と唐草文の軒平瓦である。頭を貼り付けている。



第74図 SK18 出土瓦実測図 (S=1/6)

SK63

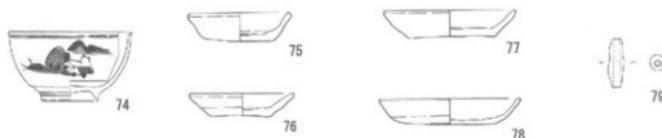
73は瀬戸美濃の天目茶碗の底部である。



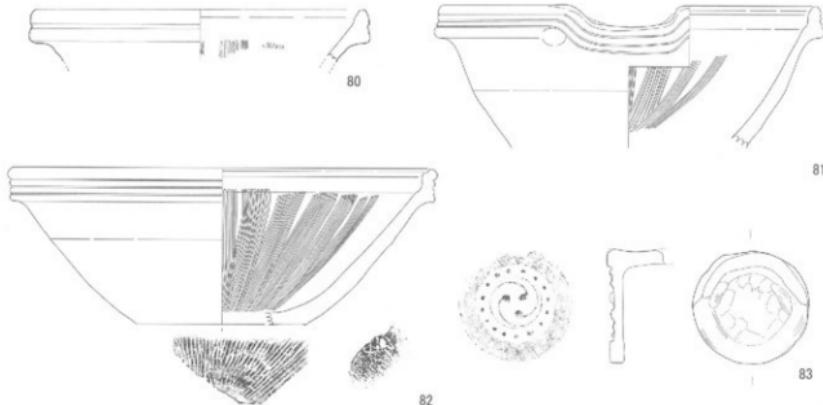
第75図 SK63 出土遺物実測図 (S=1/4)

SK69

74は磁器で波佐見産の染付碗。75～78は土師質皿。79は土錘。80～82は備前産の擂鉢。82は底部に刻印がある。83は巴文軒丸瓦で巴文の尾は接合する。連珠文は16個あり小さく密である。



第76図 SK69 出土遺物実測図 (1) (S=1/4)

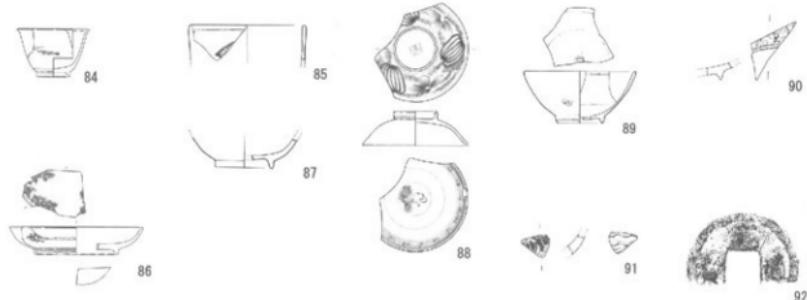


第77図 SK69 出土遺物（2）（S=1/4）・瓦（S=1/6）実測図

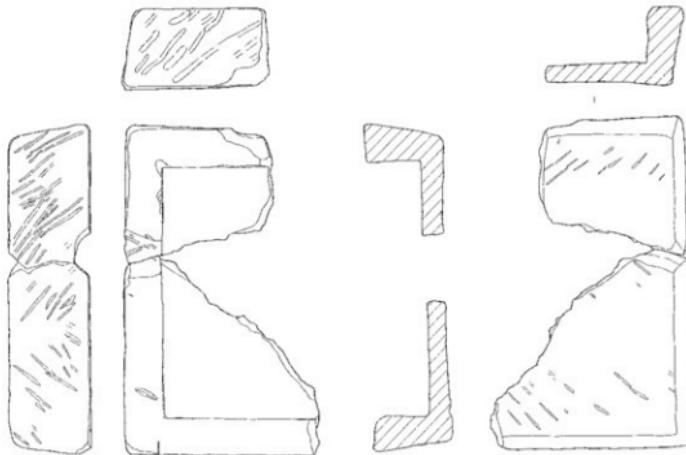
SE01掘り方 SE01井戸内・SX10（第5期）

84～87は井戸の掘り方から出土した遺物であり、88～108は井戸内及びSX10（第5期）より出土した遺物である。

84は磁器の染付の小壺である。85は磁器の染付蓋物である。86は磁器のコンニャク印判のある染付皿である。87は肥前系の鉄軸のかかった陶器碗である。88は磁器の染付の蓋で幕末頃のもである。89は磁器の蝶文の染付碗である。90は磁器の染付皿である。91は肥前産の刷毛目碗の破片である。92は銅鏡の寛永通宝である。93・94は凝灰岩製流しか排水路の破片で、上縁部に管を設置すると考えられる割り貫き痕がある。98は緑泥片岩の板石であるが用途不明である。99は色絵の磁器碗、100は雨降し文の猪口である。101は備前産の擂鉢である。



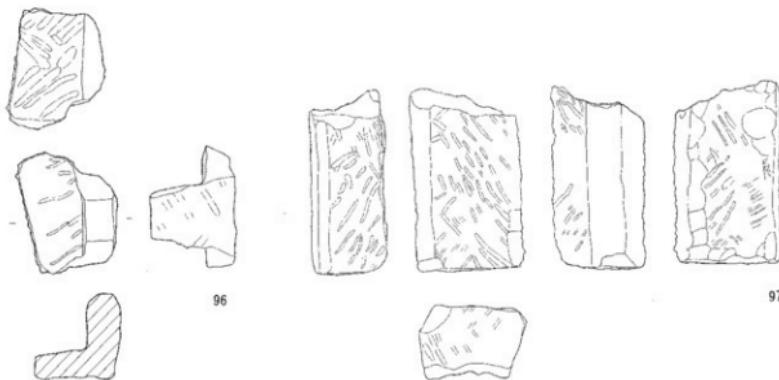
第78図 SE01 井戸堀り方・SE01井戸内・SX10 出土遺物実測図（S=1/4・92 S=1/1）



93・94



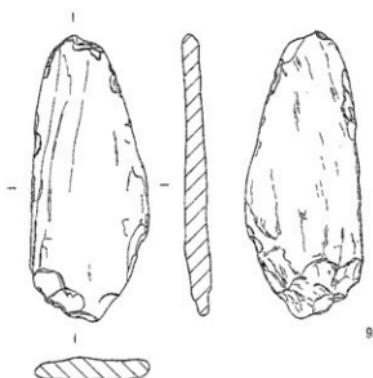
95



96

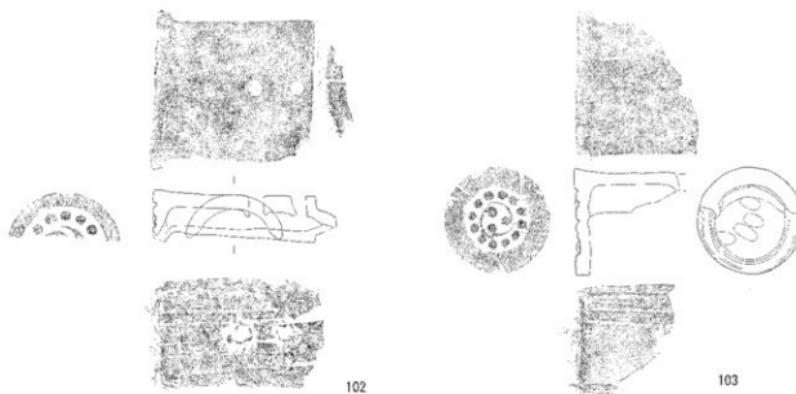
97

第79図 SE01 井戸内・SX10 出土石製品実測図 (1) (S=1/6)

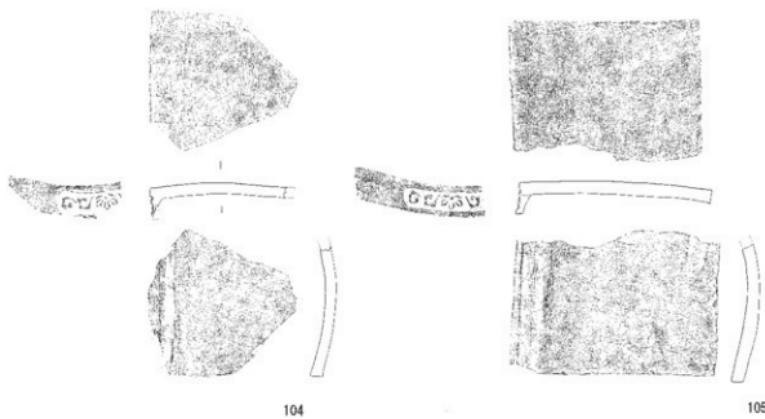


第80図 SE01 井戸内・SX10 出土石製品実測図(2) (S=1/6)

102~111は井戸内出土瓦である。102・103は巴文軒丸瓦である。102の巴文は太く、尾は短い。連珠文も大きく密にある。丸瓦部分の表側は縦方向に密なヘラ削り痕がある。縦方向に約7mmのヘラ削り痕がある。径1.8~2.0の釘穴が2箇所ある。103の連珠文は大きく密なるが尾は短い。連珠文は12個あり、大きく密である。丸瓦部分の表側は縦方向のヘラ削りの後に、縦横斜め方向に指なでをしている。縦方向へ1.1cm幅のヘラ削りがあり、径1.7cmの釘穴がある。104~106は軒平瓦である。104・105は桐文唐草文軒平瓦である。瓦当頸部貼り付け。唐草文の蔓は中心から外へ上・下向き。104と105は同文様である。106は菊文唐草文軒平瓦である。107~110は丸瓦である。製作痕を見ると107は表側に縦・横方向にナデ、裏側に3箇所で7mmのヘラ削り痕がある。108は表側に縦方向のヘラ削り後にナデ。裏側はコビキB痕に幅5mmのヘラ削り痕がある。110の表側は縦方向にヘラ削り、裏側はゴザ状痕あり。111は道具瓦で軒上瓦である。



第81図 SE01 井戸内・SX10 出土瓦実測図(1) (S=1/6)



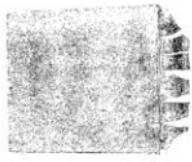
104

105

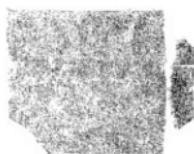


106

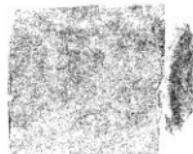
第82図 SE01 井戸内・SX10 出土瓦実測図 (2) (S=1/6)



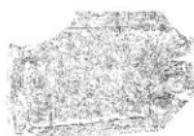
107



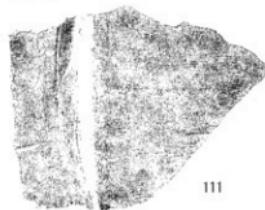
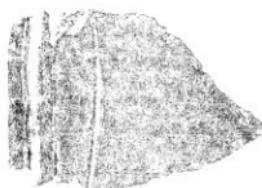
108



109



110



111

第83図 SE01 井戸内・SX10 出土瓦実測図 (3) (S=1/6)

SK21

112は土師質の灯明皿である。
113・114(写真のみ)は
肥前産の白磁碗である。

115は巴文軒丸瓦である。
巴文は長く、連珠文は12個あ
る。



第84図 SK21 出土遺物 (S=1/4) ・瓦 (S=1/6) 実測図

SK74

116は備前産の擂鉢である。

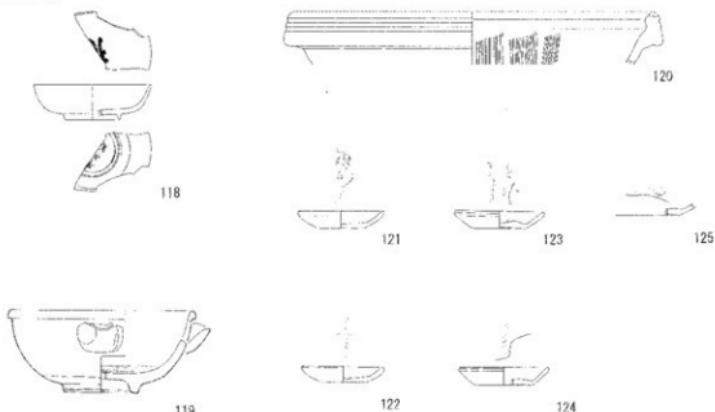
117は土師質の壺である。



第85図 SK74 出土遺物実測図 (S=1/4)

SK32

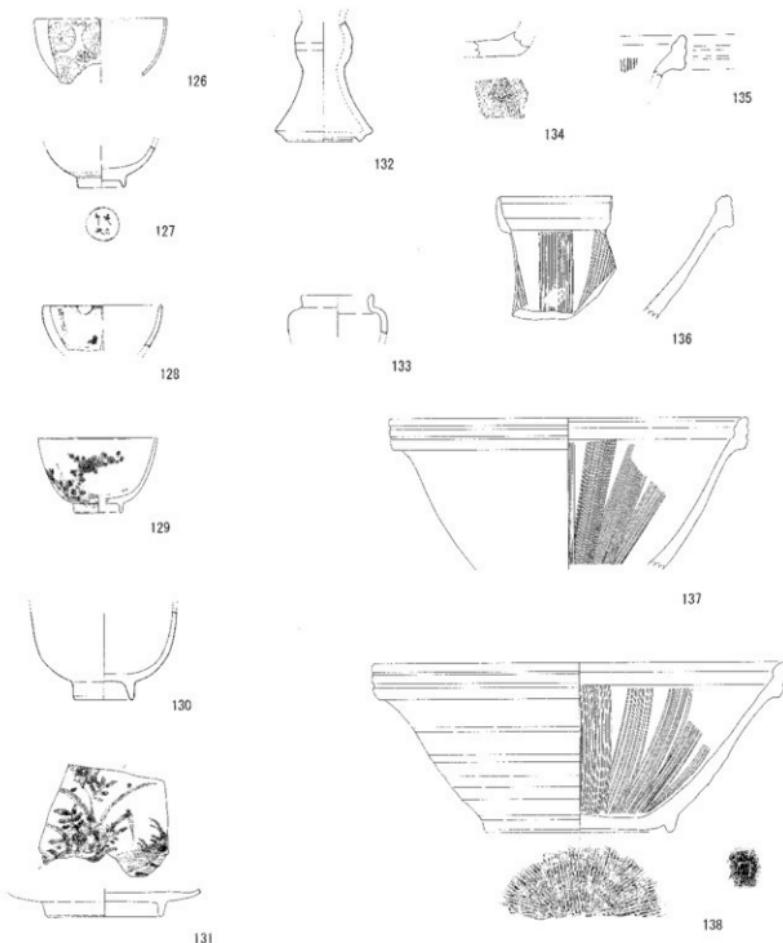
118は18世紀初頭の磁器の染付皿である。高台内に「...靖年製」の銘がある。119は片口鉢。120は
備前産擂鉢。121~124は墨書きの土師質皿である。121の墨書きは「おかげ」、122は「うす」、123~125は
不明である。



第86図 SK32 出土遺物実測図 (S=1/4)

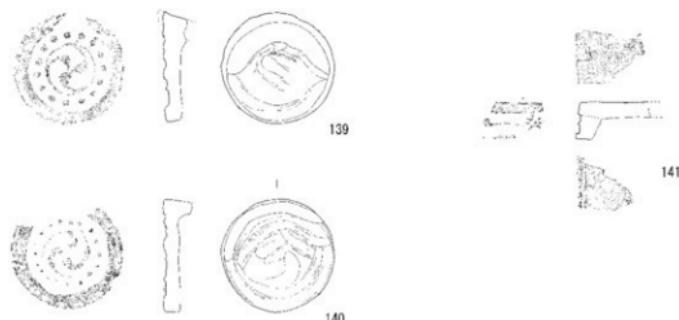
SK73

126～128は磁器の染付碗である。126は菊文である。127は高台内「成化年製」の銘がある。128は雨降し文である。129は草花文である。130は肥前産の高台の高い異器手碗である。131は磁器皿で見込み内草花文が描かれる。132は青磁の花飾台である。133は備前産壺の口縁部である。134は備前産陶器の底部で「井」の刻印がある。135～138は備前産の擂鉢である。138は底部に高台をもち刻印がある。



第87図 SK73 出土遺物実測図 (S=1/4)

139～141は瓦で、139・140は巴文軒丸瓦である。139の巴文の珠文は大きく、尾は接合する。連珠文は15点あり密にある。140の巴文は太く、尾は開いている。連珠文は18個あり小ぶりで密にある。141は軒平瓦である。日輪唐草文軒平瓦で、頸は後で貼り付けている。



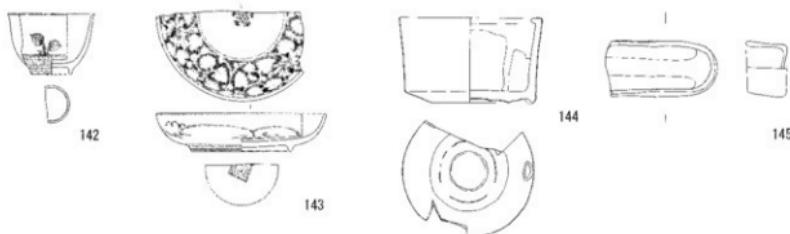
第88図 SK73 出土瓦実測図 (S=1/6)

第4期

造成土 1

142～152は上層出土遺物である。142は肥前産磁器の草文の染付碗である。143は磁器の染付皿、見込み五弁花、内側面に草花文、外側面に唐草文様と底部に二重方形内に満「福」の銘がある。144は青磁の火入れである。145は磁器の蟹水入れ。146・147は土師皿で墨書が有る。146は「おかげ」と書かれている。148～150は備前産の擂鉢である。151・152（写真のみ）は肥前産の刷毛目碗である。152は外面に刷毛目、内側と底部には釉薬はかかっていない。

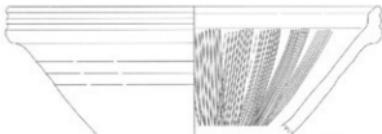
153～162は下層出土遺物である。153～155は磁器の染付碗。153は草文で高台内に崩した「大明年製」。154は菊文である。155は花文のこんにゃく印判である。156は京・信楽系陶器碗である。157は瀬戸美濃産の腰サビ碗である。159は陶器の刷毛目皿。160は土錘。161は備前産擂鉢。162は備前産徳利である。



第89図 造成土 1 出土遺物実測図 (1) (S=1/4)



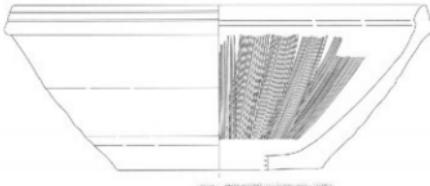
146



149



147



150



148



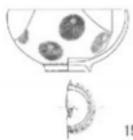
153



157



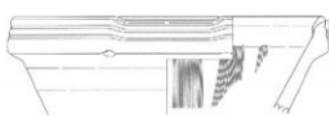
159



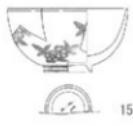
154



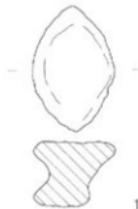
158



161



155



160



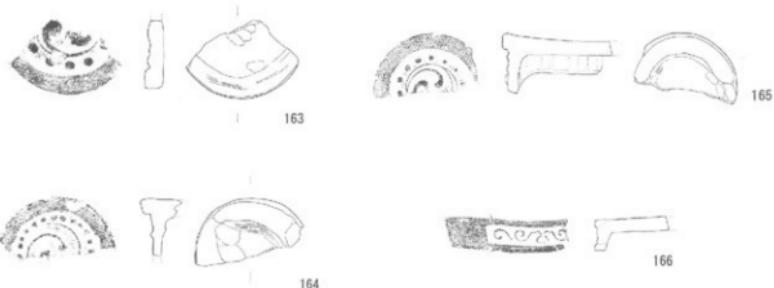
156



162

第90図 造成土 1 出土遺物実測図 (2) (S=1/4)

163～166は瓦である。163～165は巴文軒丸瓦である。163は巴文の珠文はかなり大きく連珠文も大きい。164は巴文の瓦当に占める割合は広い。巴文は細く長く、尾は開く。連珠文も小さく密である。165の文様はシャープで彫りが深い。巴文の尾は細く接合する。丸瓦部分の表面は縦方向に密なヘラ削り痕があり、裏側はコビキB痕がある。166は唐草文軒平瓦で額貼り付けである。



第91図 造成土1 出土瓦実測図 (S=1/6)

造成土2

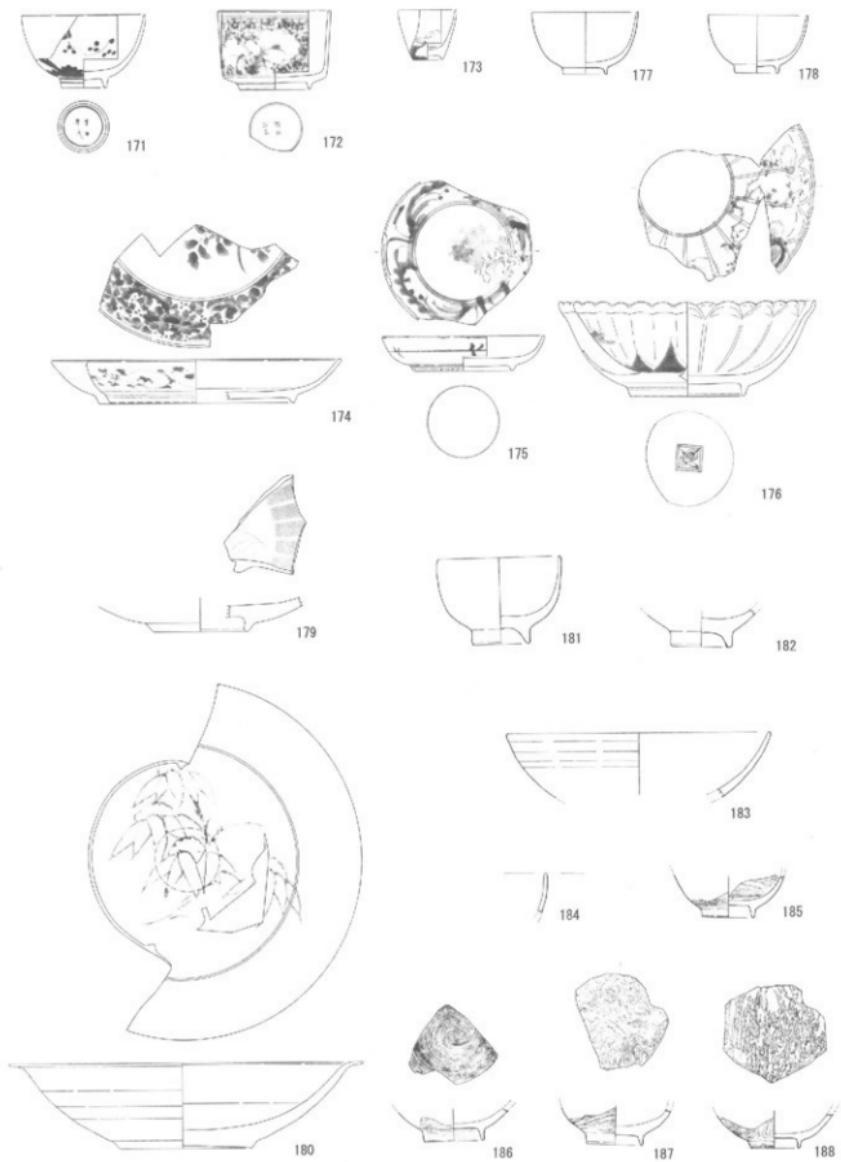
167は磁器の染付碗。168は磁器の染付小坏。169は蛇の目軸つぎの皿である。170は土師質皿である。



第92図 造成土2 出土遺物実測図 (S=1/4)

SK28

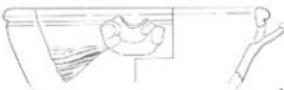
171・172は磁器の染付碗で、171は外側面草花文、高台内は崩された「大明年製」の銘がある。172は筒型碗で草花文である。高台内に「宣徳年製」の銘がある。173は猪口である。174～176は磁器の染付皿である。174は内側に草花文、外側に唐草文を描く。SK73出土片と接合した。175は見込みに五弁花の文様がある。176は輪花型の深皿である。内側面は描写の細かい梅文で、高台内は渦「福」の銘がある。177と178は肥前産の白磁碗である。179・180は青磁の皿である。180は蛇の目高台鉄釉塗りで、SK73出土の破片と接合した。181・182は呉器手碗である。183は肥前系の皿である。184は天目茶碗である。185～188は肥前系の刷毛目碗である。189は肥前産陶器皿である。190は刷毛目の片口鉢である。191三島手の鉄釉の刷毛目皿である。192・193は陶器壺である。194は釉掛け分けの鉢、195は刷毛目の鉢である。196は備前産の高台をもつ擂鉢である。197は觀音を模した泥人形である。



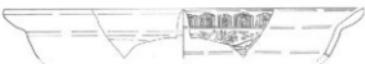
第93図 SK28 出土遺物実測図 (1) (S=1/4)



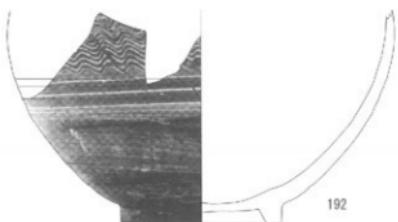
189



190



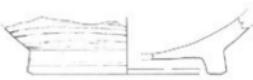
191



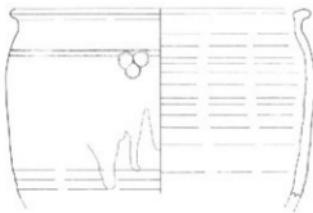
192



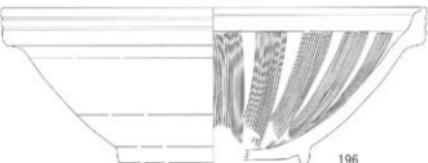
193



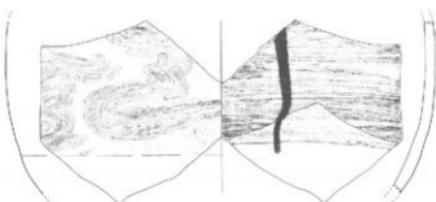
194



195



196



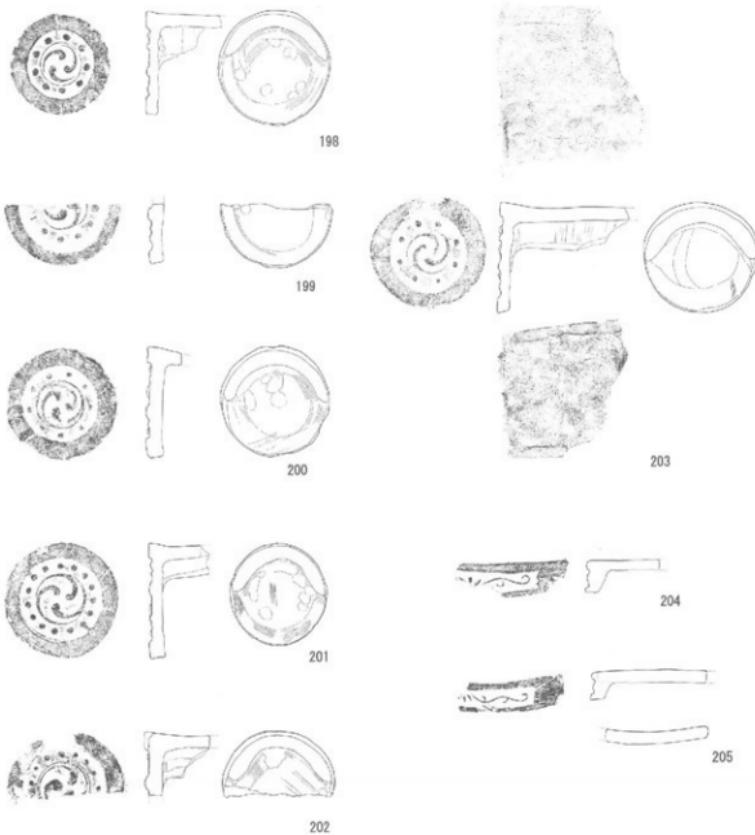
197

第94図 SK28 出土遺物実測図(2) (S=1/4・197 S=1/2)

198～205は瓦である。198～203は巴文軒丸瓦である。198の巴文の尾は長い。連珠文は9個ある。丸瓦部の表側は縦方向にヘラ削り痕があり、裏側はゴザ状痕がある。199の巴文の尾は接続する。巴文や連珠

文は明瞭である。径は約14cm程度である。200の瓦当面に占める巴文の面積は広く、尾も長く接続する。連珠文は9個あり、間隔は開く。201の瓦当面に占める巴文の面積は広く、尾も長い。連珠文は15個で密にあり、連珠文の3箇所で範傷が見られる。丸瓦の表面は縦方向にヘラ削り痕があり、裏側にはコビキBと布目痕が残る。SK31出土の53と同范である。202の瓦当面の巴文の占める割合は広く、巴文の珠文は大きい。連珠文は小ぶりで密にある。丸瓦の表側は縦方向にヘラ削り痕があり、裏側は布目痕が残る。203の巴文は細く短い。連珠文は8個あり、間隔が開いている。丸瓦の表側は縦方向にヘラ削り痕があり、裏側はコビキBの痕跡が残る。

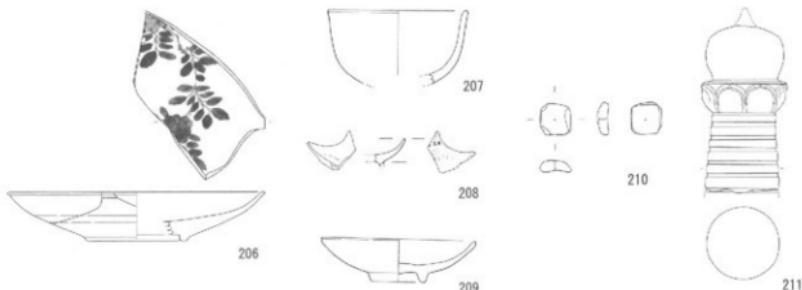
204・205は軒平瓦である。204は三つ葉唐草文である。唐草の蔓は中心から外側へ下・上へ向く。205も三つ葉唐草文軒平瓦で頸貼り付けである。



第95図 SK28 出土瓦実測図 (S=1/6)

SX11

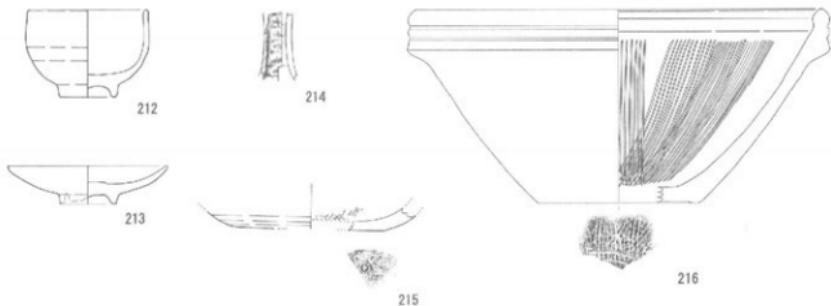
206は磁器の草花文の染付皿である。207は肥前産の呉器手碗。208は磁器の染付碗の底部。209は波佐見産の青磁釉の皿で見込み部分蛇の目釉剥ぎしている。210は土製品であるが、四辺とも擦り削られている。砥石として使用したのであろうか。中央部には穴をあけようとした跡もある。211は宝蓋印塔の相輪部分である。



第96図 SX11 出土遺物 (S=1/4)・石製品211 (S=1/6) 実測図

SK88

212は肥前産の呉器手碗。213は磁器の波佐見産の銅綠釉の皿である。214は磁器の染付瓶の頸部の破片である。215・216は備前産の擂鉢である。215は底部に刻印がある。



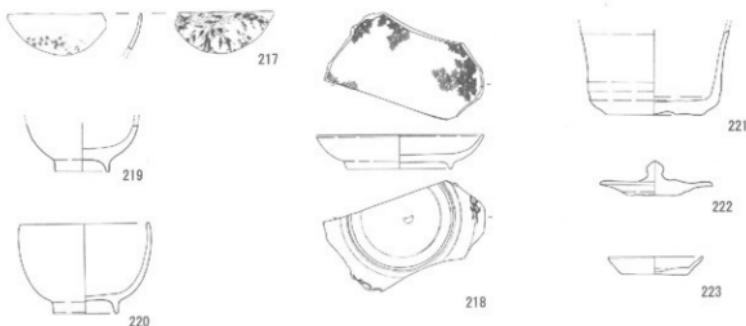
第97図 SK88 出土遺物実測図 (S=1/4)

SK20

217は磁器の草花文の染付半球碗。218は磁器の染付皿、コンニャク印判、外側面唐草文、底部一条の園線がある。

219は肥前産の呉器手碗である。220は肥前系の鉄釉碗。221は青磁の火入れ、底部蛇の目高台である。222は胸器の蓋。223は土師質の皿である。

224～229は写真のみ。224～226は磁器の染付碗である。224・225は半球碗で、225は217と接合した。226は外側面に鳥文である。227～229は磁器の皿。228は口縁内側面に七宝文、229は草花文のコンニャク印判、内側面墨弾き。

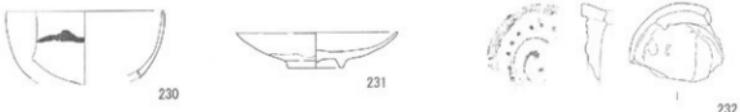


第98図 SK20 出土遺物実測図 (S=1/4)

SK90

230は磁器の染付碗、231は波佐見産の銅緑釉の皿である。

232は巴文軒丸瓦。巴文の珠文は開いている。連珠文も小ぶりで密にある。



第99図 SK90 出土遺物 (S=1/4) ・瓦 (S=1/6) 実測図

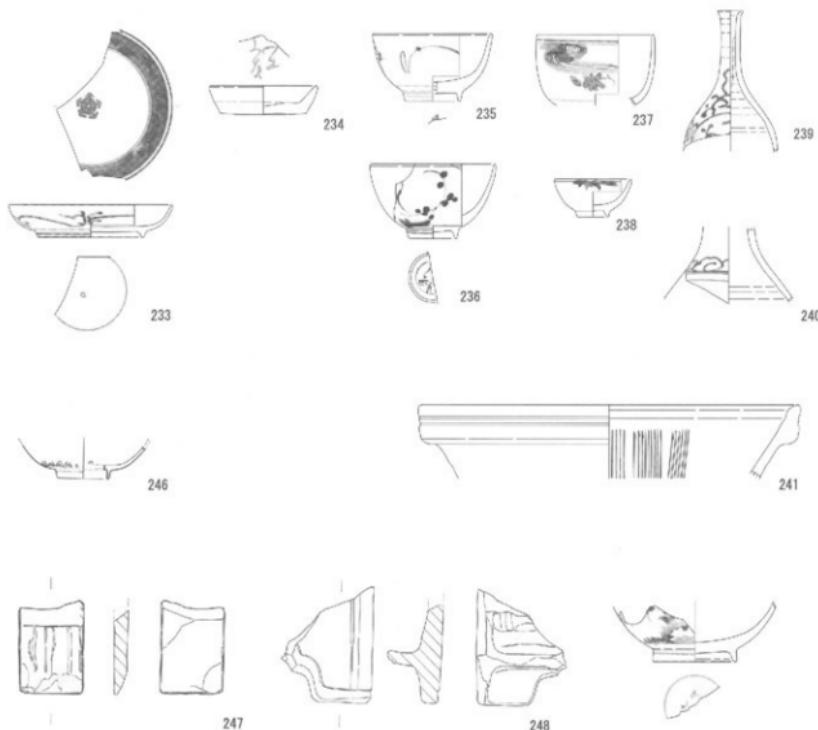
SK05

233は上層（第45図土層2）出土の肥前産磁器の染付皿である。見込みにコンニャク印判の五弁花、内側面口縁部墨弾き文様がある。234は墨書のある土師質皿である。

235は下層（第45図土層3～6）出土の磁器で波佐見産の染付碗である。236・237は肥前産磁器の染付碗である。238は肥前産の小壺である。239・240は磁器の染付瓶で蜻唐草文がある。241は備前産の擂鉢である。242～245（写真のみ）。242は肥前産磁器の染付蓋。243は肥前産磁器の染付の碗である。244は肥前産の花文の磁器の染付皿で口縁に口紅が付く。245は肥前産の花文の磁器の染付皿で、SK28からも同文の皿が出土している。246は色絵の磁器碗である。247は砥石。248は土師質焜炉の脚部である。249（写真のみ）は肥前産の刷毛目碗である。250～254は磁器碗の破片（写真のみ）である。250は網目文。251は丸に菊文。252は幾何学文である。254は松文様で高台は低い。255（写真のみ）青磁の製品である。

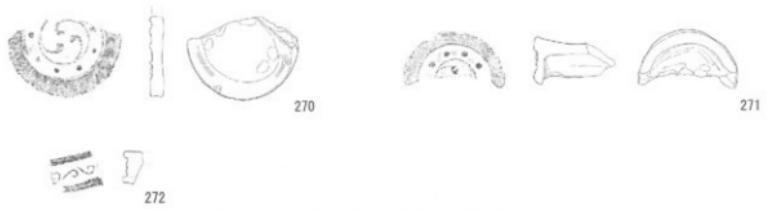
256は最下層（第45図土層7）出土の肥前産の磁器の染付碗である。高台内には略した「年製」の銘がある。

257～269は写真のみの報告である。257・258、260～265は磁器の染付碗、259は磁器の染付小壺である。263・264は網目文。266菊花形の型打ち成形された白磁である。267磁器の皿。268・269は京信楽系の碗である。



第100図 SK05 出土遺物実測図 ($S=1/4$)

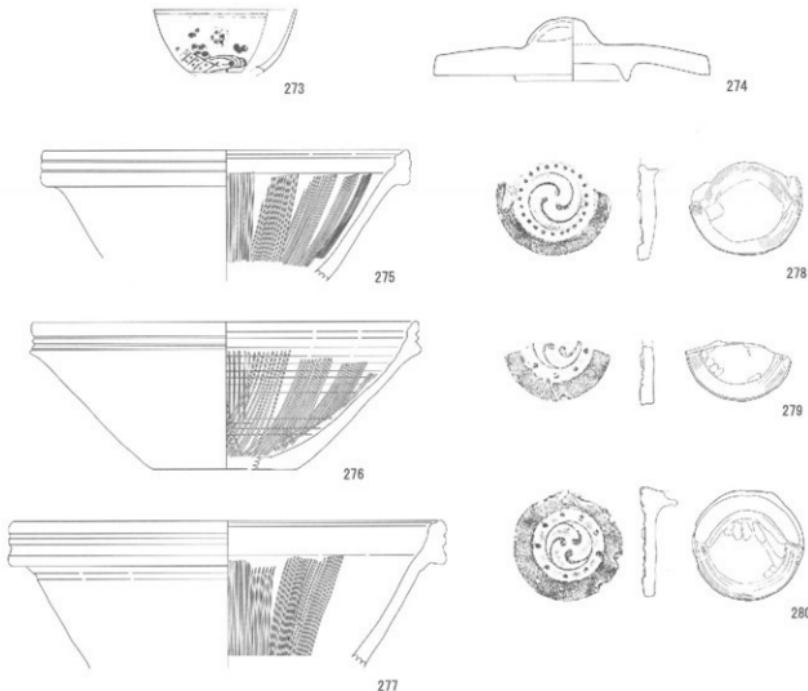
270～272は瓦である。270・271は巴文軒丸瓦である。270の巴文は細くて長く、尾が接続する。連珠文は小さく間隔が開く。271の巴文は細くて長く、尾が接続する。連珠文は270よりやや大きく間隔が開く。丸瓦部分の表面は縦方向に密なヘラ削り痕がある。272は唐草文軒平瓦で、頸を貼り付けしている。



第101図 SK05 出土瓦実測図 (S=1/6)

SK56

273は磁器の流水と花文の染付碗である。274は瓦質の蓋である。275～277は備前産の播鉢である。278～280は巴文軒丸瓦である。278（土層@出土）の巴文は瓦當に占める割合は広く、細くて長い。連珠文も24個あり小さく密にある。279と280は同範である。巴文は細く長く、尾は接合する。巴文の瓦當に占める割合は広い。連珠文は9個あり小ぶりで間隔は開く。3箇所で范傷が見られる。

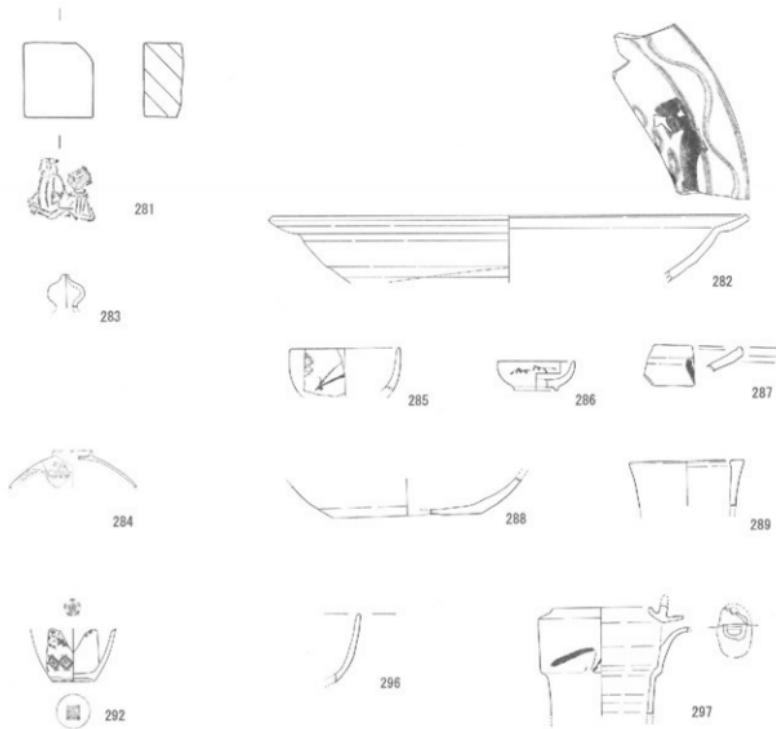


第102図 SK56 出土遺物 (S=1/4) ・ 瓦 (S=1/6) 実測図

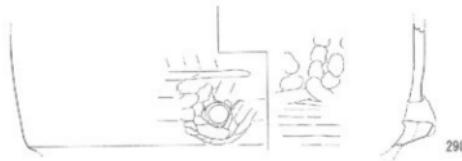
SD10

281～291は上層溝に伴う遺物で、292～299は下層溝に伴う遺物である。

281は石に彫った印判で、人物を描いている。溝の埋土に伴うもので、明治以降の遺物であると思われる。282は陶器皿である。284は行平鍋の蓋である。285は磁器の染付碗。286は筆文のある磁器の紅皿。288は唐津産の皿である。289は肥前産の青磁の火入れである。290（写真のみ）肥前産の碗。291（写真のみ）肥前産の鉢である。292肥前産磁器の猪口である。見込み五弁花、高台内渦「福」の銘がある。293～295は写真のみ。293は磁器の染付の碗である。294は肥前産磁器の染付皿で外側面に唐草文をもつ。295は波佐見産の青磁皿である。296は肥前系の呂器手腕。297は京・信楽系のチロリ。298は土師質の切立瓶である。299・300は写真のみ。299は肥前産磁器の段重の口縁部である。300は磁器の染付碗である。下層も部分的に溝の浸漬による掘り返しを受けているところがあり。297は上層からの出土であると思われるが、取り上げ時に下層遺物と混入した可能性が高い。



第103図 SD10 出土遺物実測図 (1) (S=1/4)



第104図 SD10 出土遺物実測図 (2) ($S=1/4$)

第5期

SB01 (SP48)

301は磁器の染付皿。内側面に草文。見込みにも文様あり。
高台内側角を内傾気味の強い削りが施されている。



第105図 SB01 (SP48) 出土遺物実測図 ($S=1/4$)

SK49

302は肥前産の呉器手碗である。



第106図 SK49 出土遺物実測図 ($S=1/4$)

SK50

303と304は磁器の草花文の染付碗である。同固体となる可能性が高い。305は土師質皿である。
306は巴文軒丸瓦で巴文の珠文は大きく尾は細く結合する。連珠文は8個あり間隔は開いている。



第107図 SK50 出土遺物 ($S=1/4$) ・ 瓦 ($S=1/6$) 実測図

SK17

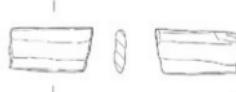
307は磁器の染付丸形碗である。308は備前産の擂鉢である。309は結晶片岩の石斧の破片であり、混ざり込み遺物である。



307



308



309

第108図 SK17 出土遺物実測図 (S=1/4)

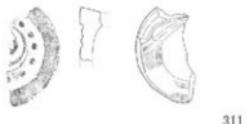
310～315は巴文軒丸瓦である。310はやや小ぶりである。巴文の珠文は大きく尾も長く接続する。連珠文は8個あり、大きく間隔は開く。連珠文には範傷がある。311は、巴文は長く接続する。連珠文は小さく密にある。312の瓦当内での巴文の占める割合は大きく、細くて長く尾は接続する。連珠文は小さく9個ある。間隔は開き、彫りは浅い。313の巴文は細く、尾は接続する。連珠文は小さく間隔は開いている。314はやや大きく、巴文の尾は長い。連珠文は16個あり、小さく密にある。丸瓦部の表面は縦方向の密なヘラ削り痕がある。



310



313



311



314



312

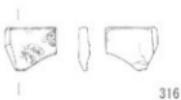


315

第109図 SK17 出土瓦実測図 (S=1/6)

SK52

316は磁器製品である。箱形をしているが器種は不明である。317は栗田焼きで高台内に「錦光山」の銘がある。318～320は写真のみである。318は小壺。319は菊文の碗である。320は磁器の染付の碗。321は蓋付鉢の底部である。



316

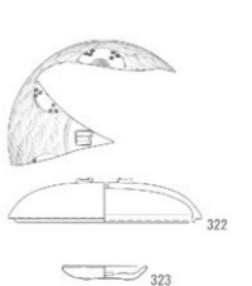


317

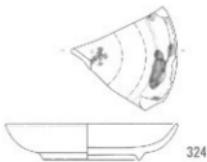
第110図 SK52 出土遺物実測図 (S=1/4) ・ 拓本 (S=1/1)

SK54

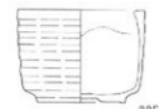
322は磁器の段重の蓋である。323は土師質皿である。324は磁器の染付皿である。見込み釉剥ぎで五弁花がある。325は波佐見の青磁の火入れである。326は備前産擂鉢である。327・328は写真のみである。327は磁器の染付碗で菊文で、328は磁器の碗である。



322



324



325



326

第111図 SK54 出土遺物実測図 (S=1/4)

329と330は瓦である。329は上層出土の巴文軒丸瓦である。彫りは深い。連珠文は8個あり大きく間隔が開く。1箇所範傷が見られる。330は下層出土の巴文軒丸瓦である。小ぶりで巴文の尾は接合する。



329



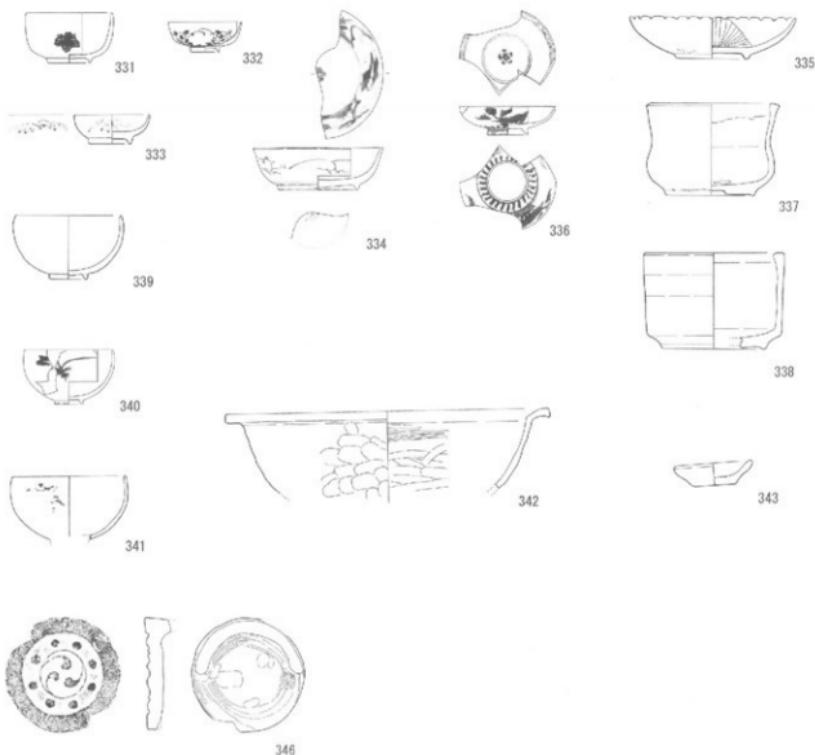
330

第112図 SK54 出土瓦実測図 (S=1/6)

SK53

331は磁器の桐文染付碗である。332～333は磁器の紅皿、332は草花文。333は筆文である。334は磁器の染付皿。335は輪花の青磁皿。336は磁器の染付の蓋。337・338は青磁の火入れである。339～341は肥前系の陶器碗。342は瓦質の焰烙。343は土師質の皿。344～345は写真のみ。344は青磁釉の碗である。345は磁器の染付筒の葉文の紅皿である。

346は巴文軒丸瓦である。小ぶりであり、巴文の尾は接合する。連珠文は8個あり間隔が開いている。連珠文の1箇所に范傷がある。



第113図 SK53 出土遺物 ($S=1/4$) ・瓦 ($S=1/6$) 実測図

SK03

347は磁器の染付小皿である。348は染付小碗。349は猪口。350は京・信楽系の小皿である。351は磁器の色絵小皿である。352は磁器の染付皿である。内側面墨弾き。焼き継ぎをしている。353は肥前産の染付角皿。蛸唐草、見込みに牡丹文。高台内側に富豊長春。354は磁器の色絵製品である。355は源内焼きの皿である。形押し成形であり、色彩は深い緑色を主体としている。

356箱庭の蓋である。357瓦質の製品である。358は備前産の擂鉢である。359・360は凝灰岩の流しか水路の破片であると思われる。



347



348



349



350



354



351



352



353



355



356



357



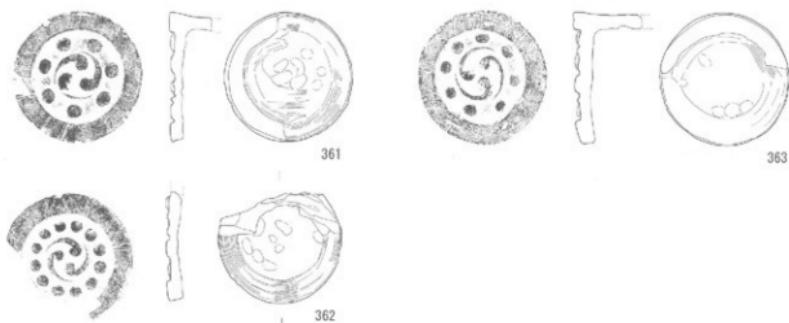
359



360

第114図 SK03 出土遺物 (S=1/4) ・石製品 (S=1/6) 實測図

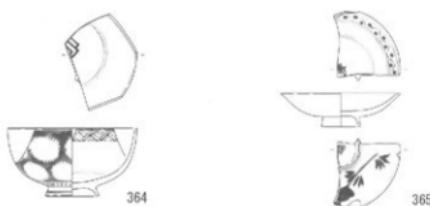
361～363は巴文軒丸瓦である。361の巴文は太く短い。連珠文は7個あり大きく間隔が開く。丸瓦部分の表側は縦方向に密なヘラ削り痕がある。362の巴文は361より太くて小さく短い。連珠文は12個あり大きく密にある。363の巴文は細く長い。連珠文は8個あり大きく間隔が開く。



第115図 SK03 出土瓦実測図 (S=1/6)

SK10

364は磁器の染付碗、365は磁器の染付皿か蓋である。

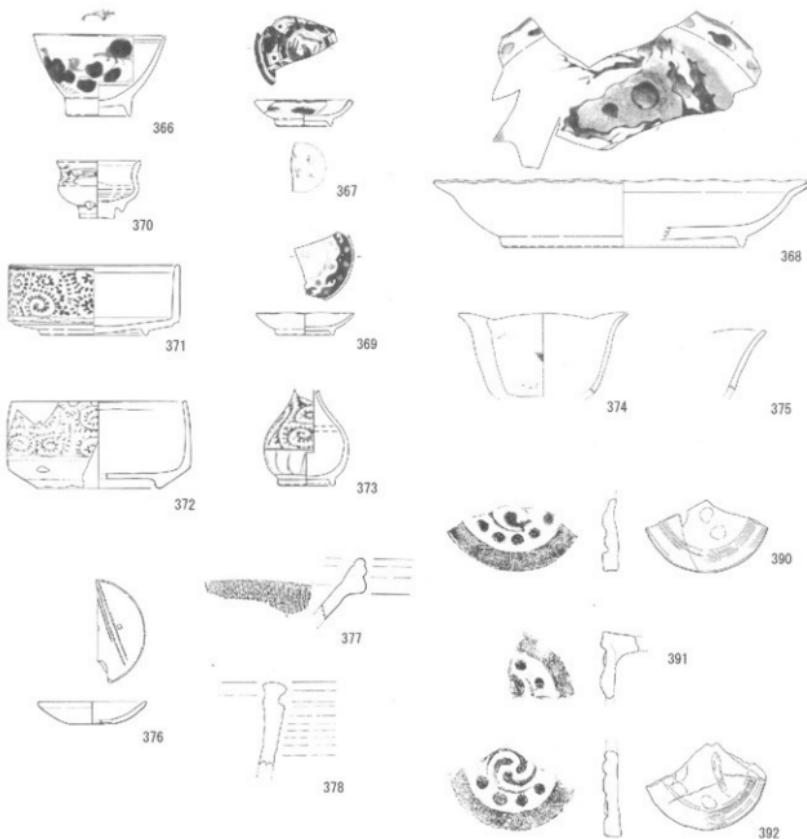


第116図 SK10 出土遺物実測図 (S=1/4)

SK04

366は磁器の染付広東碗である。367は磁器の皿である。368は大型の磁器皿で波状口縁である。369は磁器の色絵の皿。370は磁器の香炉である。371・372は磁器の段重で蛸唐草文である。373は磁器の瓶で蛸唐草文である。374と375は瑠璃釉の碗である。376は京・信楽産の灯明皿である。377は堺・明石産の擂鉢である。378は備前産の甕である。379～389は写真のみである。379は瀬戸美濃産の端反り碗である。380～386は色絵の碗と蓋である。387・388は色絵の皿である。389は彩色の陶器であるが器種は不明である。

390～392は巴文軒丸瓦である。390の巴文は太く短い。連珠文は大きく密である。391の巴文は太く、連珠文はやや間隔が開く。392の巴文は長く、連珠文は大きく密にある。范傷は多く見られる。



第117図 SK04 出土遺物 (S=1/4) ・瓦 (S=1/6) 実測図

SK02

393～402は上層出土遺物である。

393は瀬戸美濃産の磁器碗の端反り碗である。394は肥前産磁器の大型染付の蓋物である。395は磁器の猪口である。396は磁器の水滴である。397は磁器の波状口縁の鉢である。398は陶器の片口鉢である。399は土瓶である。400はおかめを描いた徳利である。401は箱庭で社である。402は土錘である。

403～428は下層出土遺物である。

403は磁器の紅皿である。404は土錘であり、「中」の刻印がある。405～409は瀬戸美濃産磁器の端反り碗である。410・411は肥前産磁器の染付碗である。412は磁器の色絵の碗である。413は磁器の染付蓋である。414は413が蓋となる蓋付碗である。415・416は磁器の染付蓋である。417は磁器の染付小碗である。外面捻子花文描く。418は磁器の小坏である。419は磁器であるが器種は不明である。420は磁器の猪

口である。421は磁器の紅皿である。422は磁器の皿である。423は磁器の染付小皿である。424は磁器の染付皿である。高台内に崩した「成化年製」の銘がある。425は磁器の花器である。426は仏飯具の脚部である。427は磁器の染付大皿である。428は磁器の花瓶である。

429～443は最下層出土遺物である。

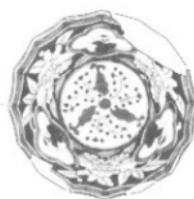
429は萩焼きのビラ掛け碗である。430は京・信楽系の色絵である。431は京・信楽系の土瓶。432は急須である。433は円柱状の陶器であるが器種は不明である。434は火入れである。435は花瓶である。底部に「アイ」「イキ」の墨書がある。436は瀬戸美濃産の馬の目大皿である。高台内に墨書きがある。437は瀬戸美濃産の水鉢と思われる。438は信楽産の壺である。439は陶器の蓋である。440は399の土瓶の蓋である。441は京・信楽系の鳥鉢である。442は灯明皿である。443は羽釜である。444は土師質皿である。445はサナである。446は大谷焼きの鉢である。447と448は堺・信楽産の擂鉢である。449は備前産の擂鉢である。450～452は甕の脚である。453は焜炉で刻印がある。454は般若の顔を描いた泥面子である。455と456は箱庭である。457～460は泥人形である。457は恵比寿である。458は天神で、460は彩色された猪である。461～463は写真のみである。461は磁器の赤絵の碗である。462は磁器の染付小皿である。463は土瓶の破片である。



393



394



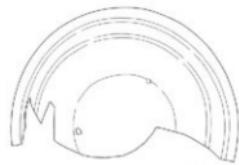
395



396



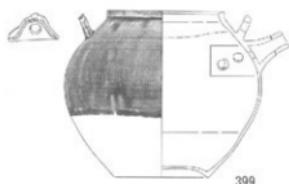
397



398



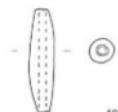
401



399

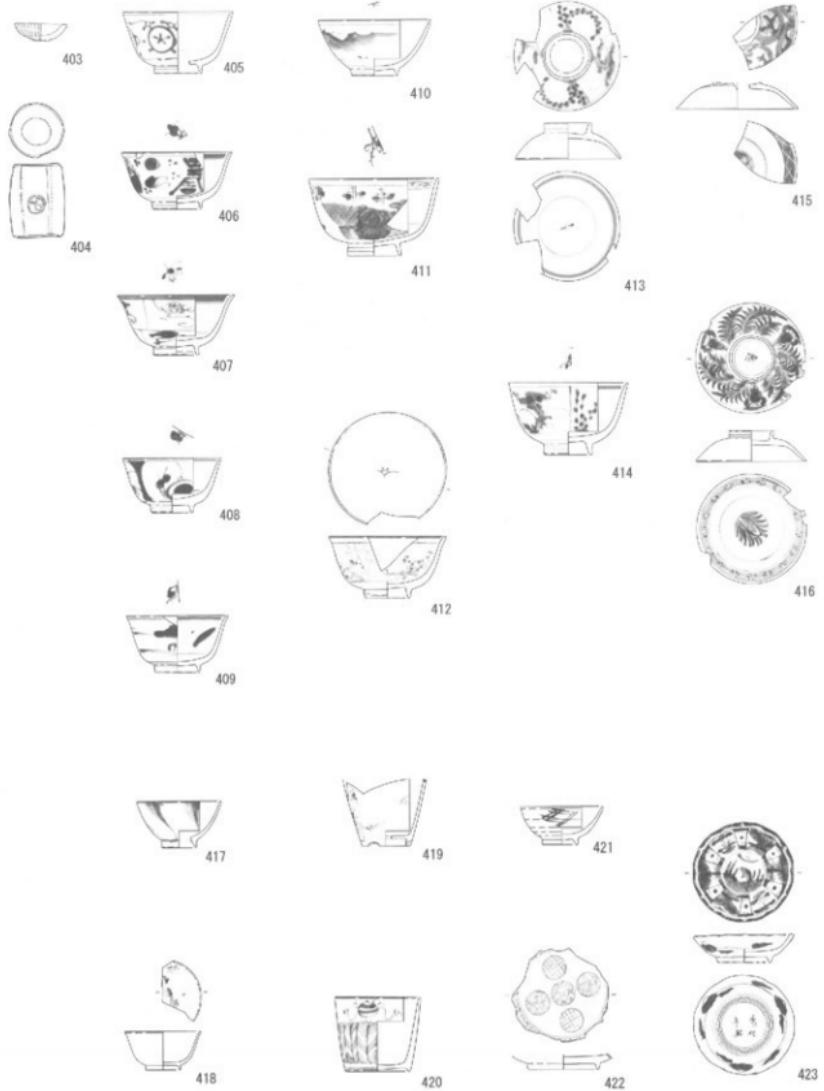


400

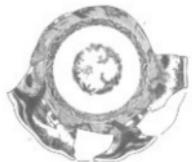


402

第118図 SK02 出土遺物実測図(1) (S=1/4・401 S=1/2・402 S=1/1)



第119図 SK02 出土遺物実測図（2）（S=1/4）



手
鏡

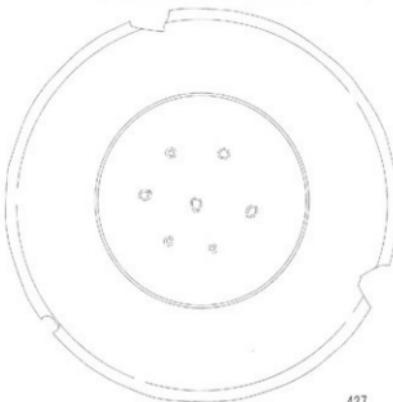
424



425



426



427



428

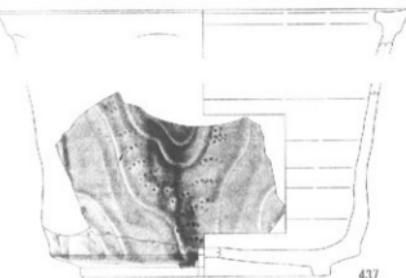
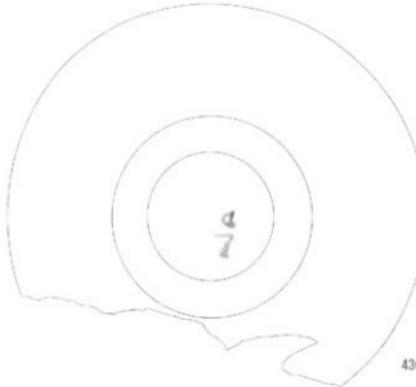
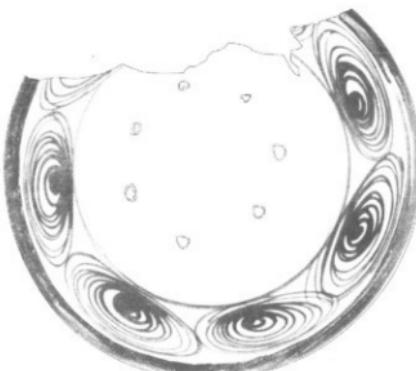
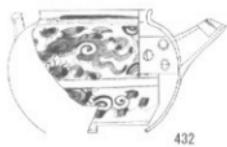
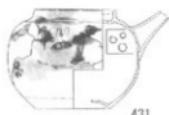


429

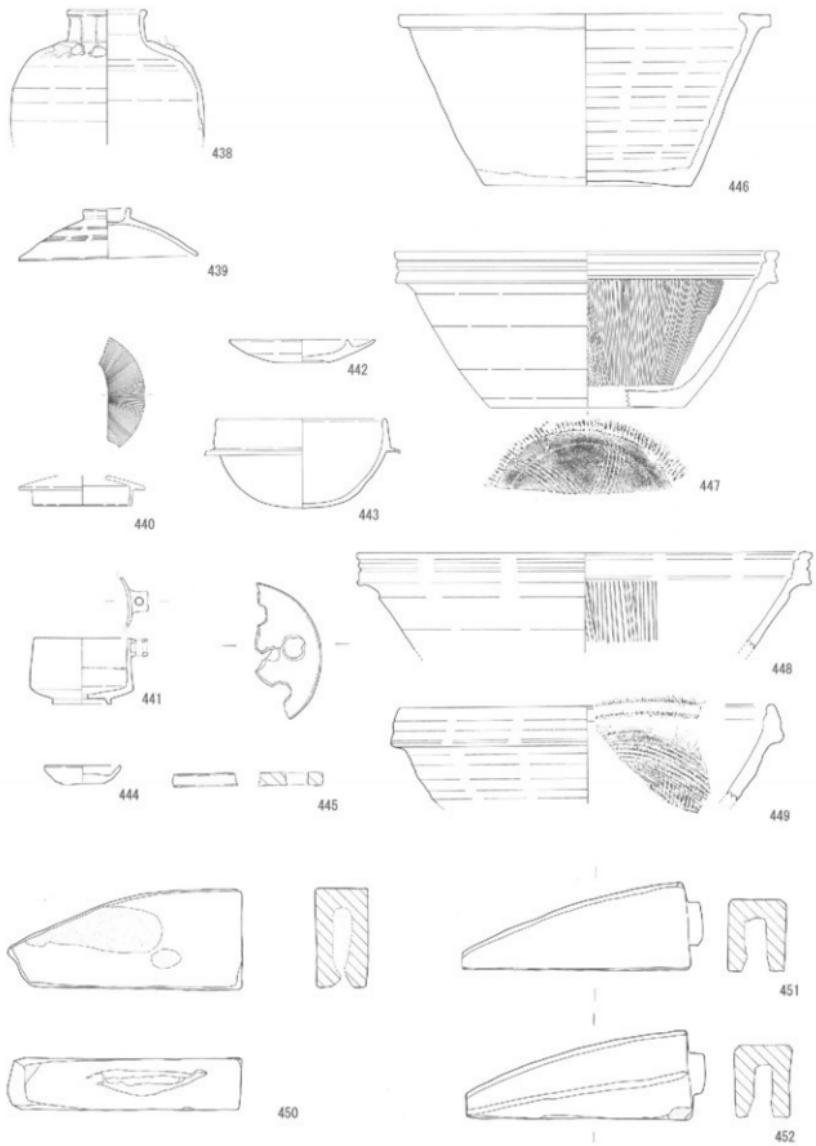


430

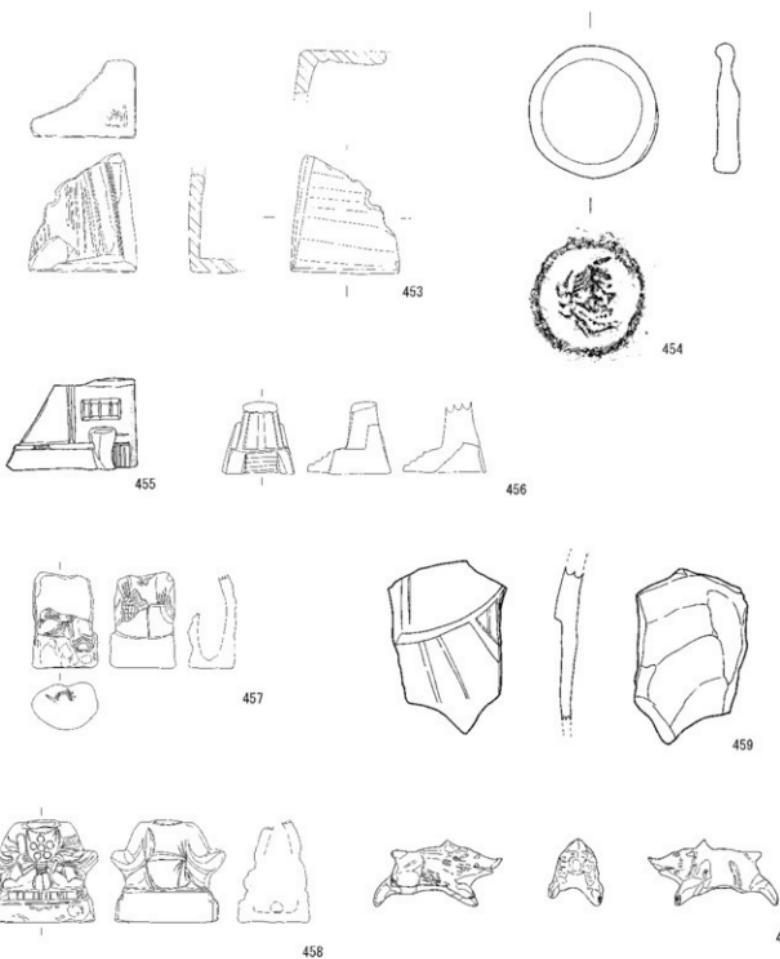
第120図 SK02 出土遺物実測図 (3) (S=1/4)



第121図 SK02 出土遺物実測図 (4) (S=1/4)



第122図 SK02 出土遺物実測図 (5) (S=1/4)



第123図 SK02 出土遺物実測図 (6) (S=1/4・454 S=1/1・455~460 S=1/2)

464~470は瓦である。

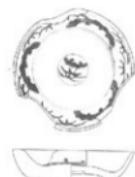
464~469は巴文軒丸瓦である。464の巴文は短い。連珠文は大きく間隔が密である。465の巴文は太く短い。連珠文は大きく、間隔は密である。466の連珠文は大きく、間隔は狭い。467の巴文の間隔は広く短い。連珠文は大きく、間隔は広く8個ある。468の巴文は短く、連珠文は大きく間隔が広い。469の巴文は小さく密である。連珠文は大きく、間隔は密。丸瓦表側は縦方向のヘラ削りが残り、裏側の瓦当側に11箇所の幅約5mmのヘラ削り痕がある。径1.7cmの釘穴がある。470は軒上瓦である。



第124図 SK02 出土瓦実測図 (S=1/6)

SD02

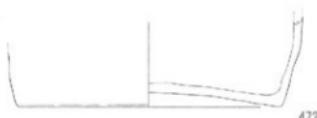
471は肥前産磁器の染付皿である。蛇の目高台で見込み一重圓線内笠文、内側面笠文、外側面唐草文が描かれる。溝の掘削埋土より出土した遺物である。



第125図 SD02 出土遺物実測図 (S=1/4)

SX12

472は素焼きの壺。



第126図 SX12 出土遺物実測図 (S=1/4)

第5章 出土瓦の分類と変遷

出土した巴文軒丸瓦について珠文や巴文を分類し、変遷を試みる。出土遺構からその文様が確実に成立している時期を検討し、巴文軒丸瓦の文様のありかたを見る。第127図に示す第2期から第5期は遺構時期を区分する時期であり、瓦の年代観を示すものでない。これは瓦の廃棄時を示すものであり、実際の使用及び製作年は当然異なるものである。今回の出土資料での編年は限界があり編年文様の傾向を検討し報告するものである。

瓦の分類は、まず連珠文（珠文・連珠）の数により分類した。連珠文は24、19、18、16、15、14、12、9、8あり、下記に示す I 連珠文24個、II 連珠文19・18個、III 連珠文16・15・14個、IV 連珠文12個、V 連珠文9・8個の5つのグループに分類し、検出した遺構の時期ごとに新旧を区分した。そのなかでさらに連珠文の小さいものと大きいもの、さらに大きくなるもの、巴文の接続しないものと巴文の接続するもの、巴文が短く接続するもの、巴文が接続しかけるものに細分した。

I 連珠文24個のグループ

- 1 連珠文が小さく、巴文が接続しない
- 3 連珠文が大きく、巴文が接続しない

II 連珠文19・18個のグループ

- 1 連珠文が小さく、巴文が接続しない
- 2 連珠文が小さく、巴文が接続する
- 3 連珠文が大きく、巴文が接続しない

III 連珠文16・15・14個のグループ

- 1 連珠文が小さく、巴文が接続しない
- 2 連珠文が小さく、巴文が接続する
- 5 連珠文が大きく、巴文が接続する
- 6 連珠文が大きく、巴文が短く接続する

IV 連珠文12個のグループ

- 3 連珠文が大きく、巴文が接続しない
- 4 連珠文が大きく、巴文が接続しかける
- 5 連珠文が大きく、巴文が接続する

V 連珠文9・8個のグループ

- 3 連珠文が大きく、巴文が接続しない
- 5 連珠文が大きく、巴文が接続する
- 6 連珠文が大きく、巴文が短く接続する

例えば、

I の連珠文24個のグループでは連珠文の大小はあるがいずれも巴文は接続しない。

II の連珠文19・18個のグループでは、I の連珠文24個のグループより、珠文が小さく巴文が接続するものが増える。

III の連珠文16・15・14個のグループでは、連珠文が大きく巴文が接続するものが増え、さらに巴文が短く接続するものもある。

IV の連珠文12個のグループでは、連珠文の小さなものがなくなり、連珠文が大きく巴文が接続しかけるものがある。

V の連珠文9・8個のグループでは、連珠文が大きく、巴文が接続しないものとするものがある。

文様の成立時期を決定する基準資料となるものは、第2期ではSK91出土の12、13とSK70出土の20の軒丸瓦であり、17世紀中頃までの造構から出土した瓦である。

第3期前半はSK65、SK31、SK18、SK69、SK21からの出土瓦で18世紀前半頃の造構から出土している。

第3期後半はSK73からの出土瓦で18世紀中頃以前に成立している文様である。

第4期は造成上1、SK28、SK05からの出土瓦で18世紀中頃から19世紀中頃の造構から出土している。

第5期はSK17、SK50、SK53、SK54、SK03、SK02からの出土瓦である。19世紀中ごろから明治7年の家屋取り払いまでの造構から出土している。ただし、SK03、02は近代にも掘り返しを受け、まれであるが近代の瓦が混入している可能性もある。

まとめ

I のグループは、第2期や第3期に集中しており、第2期及びそれ以前の文様で17世紀中頃以前に成立している文様と推定される。

II・III のグループは、I のグループと同様の時期区分であるが、特にIII のグループは文様が多様化し、出土量も多くなる。18世紀前半以前に成立している文様が上段で、下段が18世紀中頃までに成立している文様であり、江戸初期から中頃の主要な文様と思われる。

IV のグループは、II・III グループ同様に江戸初期から中期が主体であるが、第4期、第5期の下段が19世紀中頃までの文様と推定されるものもある。連珠文がさらに大きくなる瓦が第5期に現れる。

V のグループは、連珠文が大きく、巴文が短くするもので第3期に属するものがあり、第3グループにも同時期から出土していることから、巴文が短く接続する文様がこの期が少し前より現れると推定される。V グループは第4期以降の出土量が多く、18世紀中頃以前から主要な文様として使用されたと推定できる。また、19世紀中頃以前にはIV グループ同様に連珠文がさらに大きくなる。連珠文の大型化は江戸後期の特徴といえる。

軒丸瓦の文様の分類・変遷について

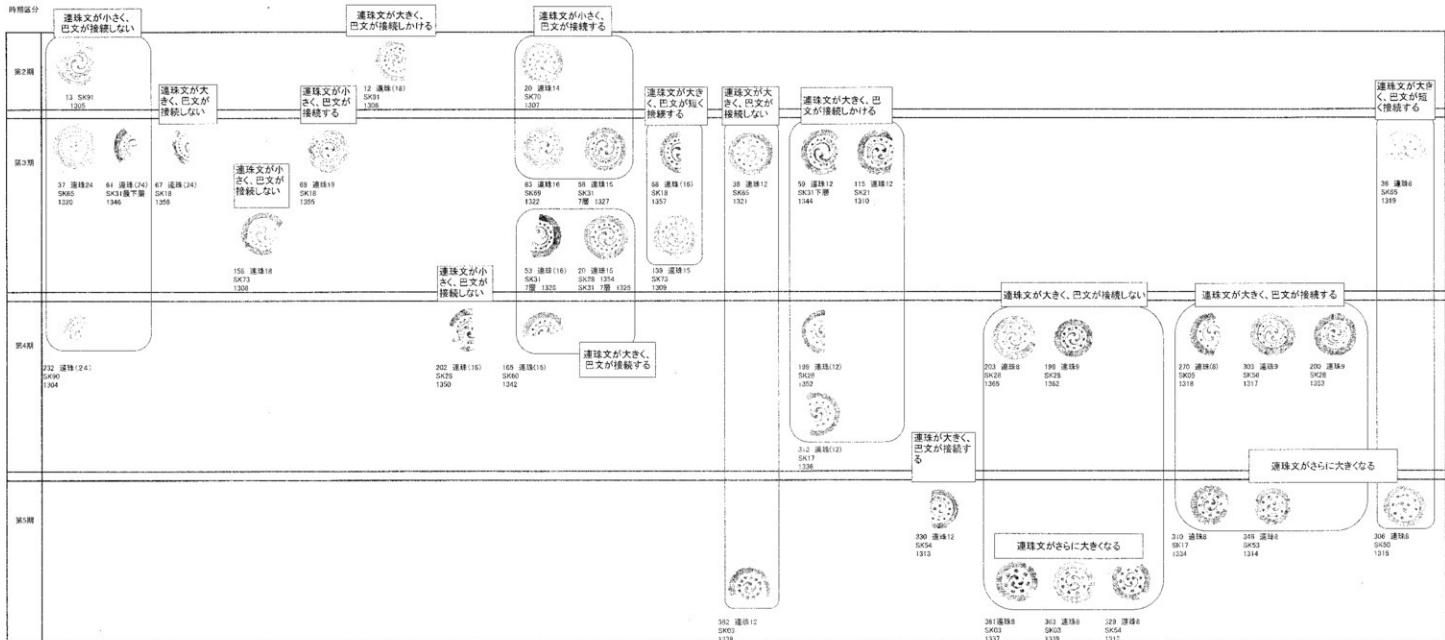
I 連珠文24個

II 連珠文19-18個

III 連珠文16-15+14個

IV 連珠文12個

V 連珠文9+8個



第127図 軒丸瓦の文様の分類・変遷について

第6章 出土遺物の集計について

各遺構から出土した遺物の個体数を集計した。破片数枚のカウントであるため同個体を重複している可能性が高く、実際の数量は少なくなる。また、報告書に掲載していない遺構の遺物については不明なものが多く、報告書掲載遺構だけの数量報告に止めている。このことから出土遺物の実質的な数量と集計データには若干の誤差はあるが、出土遺物の割合や時期的な傾向を検討する素材としては活用できると思われ、集計した結果を報告する。

報告書掲載遺構の出土遺物の総点数は2169点あり、磁器が854点で全体の39%、陶器が646点で30%、土師質土器が630点で29%、瓦質製品が38点で2%である。（第1表出土遺物種類別集計表参照）、磁器が最も多く、陶器や土師質土器がほぼ同じ割合で出土している。

さらに時期別に遺構から出土した遺物を集計し、出土した割合や出土量の変化を見ると（第2表出土遺物時期別集計表参照）第1期が2点、第2期が39点で1%程度、第3期が492点で23%、第4期が641点で30%、第5期が995点で46%ある。遺構時期が新しいほど遺物の出土量は増加している。第5期は、特に廐棄上こうからの出土点数がかなり多い。

次に各時期の種類別遺物の出土状況を見る。

第1期では出土総数が2点のみであり、ともに唐津産の陶器碗と皿である。

第2期は、出土遺物数が39点あり、磁器が10点で26%、陶器が9点で25%、土師質土器が17点で40%、瓦質製品が3点で8%となっている。出土総数は少ないが土師質土器の割合が高い。

第3期は、出土遺物数が492点あり、磁器が142点で29%、陶器が134点で27%、土師質土器が210点で43%、瓦質製品が6点で1%となっている。第2期同様、土師質土器の出土割合が43%と最も高く、磁器や陶器がほぼ同率の出土量である。

第4期は出土遺物数が641点あり、磁器が249点で39%、陶器が188点で29%、土師質土器が199点で31%、瓦質製品が5点で1%となっている。土師質土器も皿や杯は減少し、磁器や陶器の出土量が増加している。

第5期は出土遺物数が、995点あり、磁器が453点で45%、陶器が314点で32%、土師質土器が204点で21%、瓦質製品が24点で2%となっている。土師質土器は第3期や第4期とほぼ同数量を出土しているが、皿や杯は減少している。磁器や陶器の出土量が増加し、特に磁器の出土量が増加したため、土師質土器の割合が減少し、磁器の割合が全体の3分の1以上を占めるようになった。

出土種別で見ると、江戸後期の肥前磁器の増加が増加する。特に碗や皿、蓋の増加が著しい。第5期では瀬戸美濃系の磁器も出現する。擂鉢についても従来指摘されているように堺・明石産の擂鉢が第4期から出現し、第5期に増加している。

| 種類 | 磁器合計 | 陶器合計 | | | | | | | | | | 土師質土器 | 瓦質土器 | 集計 | | | | |
|-----|------|------|-----|------|-------|---------|------|----------|-------|---------|---------|-------|------|------|-------|---------|------|------|
| | | 白磁 | 青磁 | 染付合計 | 肥前系磁器 | 瀬戸美濃系磁器 | 産地不明 | 陶器(産地不明) | 備前系陶器 | 京・信楽系陶器 | 瀬戸美濃系陶器 | 肥前系陶器 | 酒内焼 | 窯田燒 | 唐津系陶器 | 堺・明石系陶器 | | |
| 個体数 | 854 | | | | | | | 646 | | | | | | | 630 | 38 | 2169 | |
| | | 47 | 12 | 795 | | 759 | 21 | 15 | | 563 | 38 | 8 | 4 | 19 | 1 | 1 | 9 | |
| % | 39 | | | | | | | | | 30 | | | | | | 29 | 2 | 100% |
| | | 2 | 0.5 | 36.5 | 35.0 | 0.9 | 0.6 | | 26 | 1.8 | 0.38 | 0.21 | 0.68 | 0.05 | 0.05 | 0.2 | 0.44 | |

第1表 出土遺物種類別集計表

| 種別 | 組合 | 白磁 | 青磁 | 染付 | 陶器 | 碗 | 碟 | 皿 | 鉢 | 擂鉢 | 湯桶系擂鉢 | 壺 | 灯籠 | 箱 | 土瓶 | 瓦 | 土師質小皿・盤・杯 | 火鉢・煙炉 | 要 | その他 | 貢賃出荷品 | |
|-----|----|------|-----|----|----|----|---|-----|----|----|-------|----|----|---|----|----|-----------|-------|----|-----|-------|-----|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 個体数 | | 2199 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第1期 | | 2 | 0 | | | | | 7 | | 1 | 1 | | | | | | 0 | | | 0 | | |
| % | | 0 | | | | | | 100 | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2期 | | 39 | 10 | | | 0 | 2 | 4 | 2 | 0 | 0 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| % | | 1 | 26 | | | | | | 25 | | | | | | | | | 43 | | | 8 | |
| 第3期 | | 492 | 142 | | | 10 | 1 | 64 | 24 | 1 | 0 | 22 | 29 | 2 | 17 | 12 | 17 | 0 | 16 | 1 | 3 | 42 |
| % | | 23 | 29 | | | | | | | | | 27 | | | | | | 43 | | | 1 | |
| 第4期 | | 841 | 249 | | | 22 | 7 | 150 | 35 | 1 | 0 | 34 | 52 | 8 | 16 | 17 | 9 | 2 | 21 | 0 | 8 | 53 |
| % | | 30 | 39 | | | | | | | | | 29 | | | | | | 31 | | | 1 | |
| 第5期 | | 995 | 453 | | | 15 | 2 | 220 | 60 | 41 | 21 | 94 | 41 | 8 | 16 | 28 | 3 | 7 | 23 | 31 | 22 | 135 |
| % | | 46 | 45 | | | | | | | | | 32 | | | | | | 21 | | | 21 | |

第2表 出土遺物時期別集計表

第7章 総括

調査の成果

前述したように丸亀城は生駒、山崎、京極氏三代が入城し、城郭の整備や武家屋敷地、城下町及び港湾の整備を実施し、丸亀の発展に努めた。

生駒氏は慶長2年（1597）～寛永17年（1640）、山崎氏は寛永18年（1641）～明暦3年（1657）、京極氏は万治元年（1658）～幕末まで入封している。明治7年には郭内の民家取り払いが行われ、軍隊の營舎が築かれ近代化を迎える。

丸亀城及び武家屋敷地の画期を考えると

| | | |
|-------|------------------------|---|
| I期 | 慶長元年以前(1596) | 生駒氏丸亀城築城以前 |
| II期-1 | 慶長2年(1597)～元和元年(1615) | 生駒氏の丸亀城築城から丸亀城廢城まで |
| -2 | 元和元年(1615)～寛永17年(1640) | 生駒氏の丸亀城廢城から生駒氏改易まで |
| III期 | 寛永18年(1641)～明暦3年(1657) | 山崎氏時代 |
| IV期-1 | 万治元年(1658)～宝永4年(1707) | 京極氏入封以後 |
| -2 | 宝永4年(1707)～文政12年(1829) | 丸亀で大地震（宝永大地震）から多度津藩関係者が多度津陣屋へ移住した年。（調査地周辺は多度津藩主及び多度津藩家臣が居住し移住後、居住者の変更が見られるため） |
| -3 | 文政12年(1829)～明治7年(1874) | 郭内の民家取り払い |
| V期 | 明治7年(1874)以降 | 陸軍第十二連隊以降 |

である。遺物の出土状況から見るとIV期-2は細分できる。

調査地の遺構面の残りは悪く、虫食い状態でかく乱が深く及ぶところもあり、それぞれの遺構を面で捕らえることは困難であったが、土層の上下関係や出土遺物や画期となる事象等を考慮し、第1～5期に分類し報告している。これを上記の年代にあてはめると、

第1期下層は、屈曲する落ち込みがある。出土遺物もなくI期かII期の判断は今回の調査ではできていない。

第1期上層はII期の時期で17世紀初頭頃の時期と考えている。

調査地東側で検出されたSK82やSK86などの土こうがこの時期のものである。

第2期はII期-2、III～IV期-1の頃で、18世紀初頭まで、主に17世紀中頃の遺構と推定される。調査地東側のSK75、SK67、SK68、SK70、SK91などの土こうがこれにあたる。土こうも整理された一定方向を向く規則性が見られる。また、遺物の出土はないが区画溝である。西側の掘り方は外濠土塁との境界であると思われる。

第3期はIV期-1～IV期-2の時期のなかの時期で、18世紀初頭から18世紀後半の遺構である。土塁との境の場所には廃棄土こうが掘られる。土こうは調査地北側で、弧の字状にSK63、SK31、SK18、SK32、SK65、SK21、SK26、SK69、SK73、SK74、SK56、SK62などの土こうが検出されている。遺物を多く包含する土こうも見られる。東側のSD10の素掘り溝に接して西側にも古い溝跡と考えられる掘り込みがある。これらは道との境界であると考える。また、この時期には石組み井戸（SE01）が造られる。井戸は掘り方内の遺物から17世紀初頭頃に造られている。

第4期はIV期-2の頃の遺構で、18世紀後半～19世紀中頃までの遺構であると考える。調査地南側に大型の土こうが集中する。造成上1により土塁内側の肩口は埋められている。18世紀末～19世紀初頭には屋敷地として利用されているその造成と思われる。SK90、SK88、SK48、SK28、SK05、SK20などの土こうや礎敷き遺構であるSX11などがある。SX11からは宝篋印塔の相輪が出土しており、庭園などがあった可能性もある。SD10は調査地東側で検出された素掘り溝であり、屋敷地と道路の境界をなす。

第5期下層はIV期-3は19世紀中頃～明治7年（1874）まで、上層はV期の頃で明治7年以降の遺構と考える。

5期下層は屋敷地の素掘り溝は縮小され西側に石列が配される。溝のすぐ西側にSB01も確認されている。毀損が著しく遺構の検出は悪い。また、SK02、SK03、SK04、SK10、SK17、SK53、SK54、SK52などの土こうがあるが、これらの土こうからは主に19世紀初～中頃の遺物が主に出土しており、主に幕末から明治初頭頃までの遺構である。多く廃棄されている土こうは、明治7年の武家屋敷地の立ち退きにあたる廃棄土こうと思われ、これらの遺物は幕末に当該地に居住していた網干郡代齊藤氏の生活雑器の可能性が高い。

近現代は軍隊の遺構があり外濠へ排水する溝跡SD02・03・05が確認された。建物跡では調査地の西側の外濠端で建物礎石やコンクリート基礎、地下貯蔵庫のある木枠のある建物SX20や水溜施設と考えられる施設SK40、SX08・09は廐の受け廐と考えられる遺構が検出された。調査地の南側は市営翠山荘アパート建設及び取り壊しによるかく乱を受けていた。

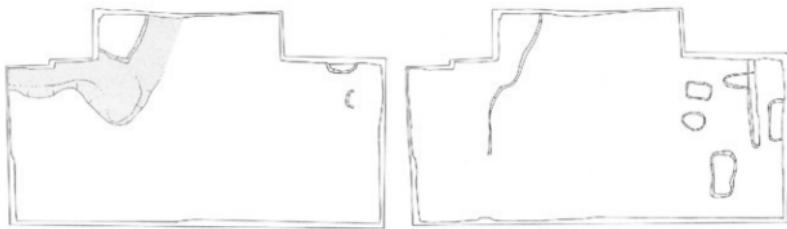
総括

今回の調査は近代以降のかく乱により全体の遺構の残りは悪いが、外濠上墨の境界や屋敷地と道路の境界など絵図資料にあるような17世紀中頃～18世紀、19世紀代の武家屋敷地の土地利用を見ることができた。

当初は土こうなどによるゴミ捨て場から造成され屋敷地へと利用される状況も少なからず絵図資料と対応する年代観が得られたことの意義は大きい。

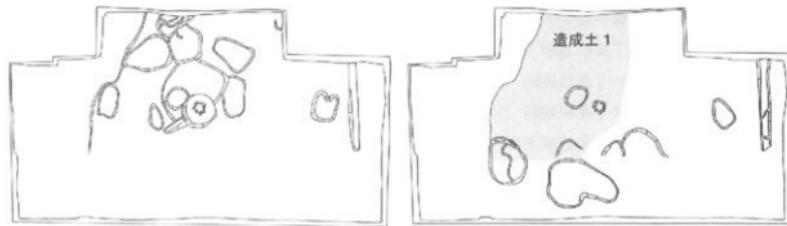
今回、武家屋敷地を発掘調査するにあたり、後世のかく乱や造成につぐ造成など判断が難しく、判断ミスも少なからずあり、文献や絵図資料の事前調査や調査中のこれらの資料収集が大事であることを痛感した。

また、可能な限り文献調査を行い、調査成果を検討すると武家屋敷地の変遷をたどることができる。江戸時代の生活を復元する資料ともなりえ、丸亀城郭内の生活を再現できる重要な資料となる。



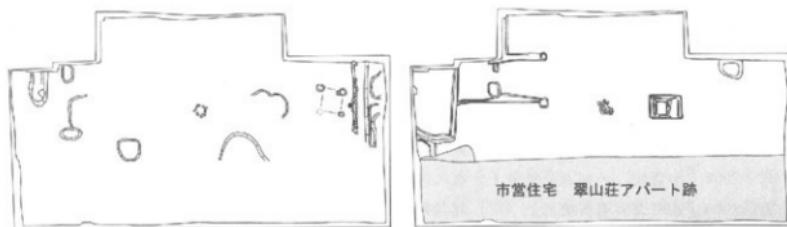
第1期

第2期



第3期

第4期



第5期 下

第5期 上

第128図 出土遺構変遷図 (S=1/400)

参考文献

- 乘岡実2002「近世備前焼擂鉢の編年案」『岡山城三之曲輪跡一表町一丁目地区再開発ビル建設に伴う発掘調査一』岡山市教育委員会
- 乗岡実1997『史跡岡山城跡本丸中の段発掘調査報告書』岡山市教育委員会
- 『木村コレクション 古備前図録』1984. 3 岡山市教育委員会
- 西田宏子・大橋康二1988『別冊 太陽 古伊万里』 株式会社平凡社
- 大橋康二1989『肥前陶磁器』ニュー・サイエンス社
- 大橋康二1994『古伊万里の文様 初期肥前磁器を中心に』理工学社
- 佐藤竜馬2003『高松城跡（西の丸町地区）II』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 松本和彦・陶山仁美2003『高松城跡（西の丸地区）III』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 北山健一郎2006『栗林公園東門周辺再整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 栗林公園』香川県埋蔵文化財センター
- 大嶋和則2002『高松城跡（松平大膳家中屋敷跡）』高松市教育委員会
- 小川賢・片桐節子2004『高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）』高松市教育委員会
- 大嶋和則 中西克也2005『高松城跡（無量壽院跡）』高松市教育委員会
- 大嶋和則 中西克也2007『高松城跡（寺町一丁目）』高松市教育委員会
- 荒木幸治2005『発掘された赤穂城下町－赤穂駅前大石神社線街路整備事業に伴う赤穂城下町跡発掘調査報告書I』赤穂市教育委員会
- 楠正勝 庄田知充2007『石川県金沢市 広坂遺跡（1丁目）IV』金沢市・金沢市埋蔵文化財センター 講訪間順・井上由美子・小林童一1999『小田原城下 櫛干櫛町遺跡第V地点』小田原市教育委員会
- 戸田哲也・小林義典2002『小田原城三の丸藩校集成館跡第III・第IV地点一小田原市立三の丸小学校新校舎建設に伴う発掘調査一』小田原市教育委員会
- 山口剛志・山口由美子2002『平成11年度小田原市緊急発掘調査報告書7 小田原城下 香沼屋敷第IV地点』小田原市教育委員会
- 小林義典2003『小田原城三の丸・城下 城下口向屋敷跡第1地点 三の丸元蔵堀第II地点 三の丸元蔵堀第II・第3地点 三の丸真田口第I・IV地点 三の丸東堀第III地点 三の丸久保羅楽介邸跡第IV地点 三の丸久保弥六郎跡第II地点 三の丸新堀第IV地点』小田原市教育委員会
- 北條ゆうこ・山口剛志2003『小田原城下 本町遺跡第1地点』小田原市教育委員会
- 高山京子2006『小倉城二ノ丸家老屋敷I』北九州市教育委員会
- 川上秀秋2006『宝町遺跡第5地点』（財）北九州市芸術文化振興財團埋蔵文化財調査室
- 川崎義雄・高山優・毎田佳奈子・園村維敏・乾有乃2004『偏中新見藩閑家屋敷跡発掘調査報告書』国際航業株式会社文化財事業部
- 大橋康二2000「九州陶磁概論」『九州磁器の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』
- 盛峰雄2000「肥前（佐賀県）の製品について 陶器の編年 1. 碗・皿』『九州磁器の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』
- 家田淳一2000「肥前（佐賀県）の製品について 陶器の編年 2. 擂鉢・鉢・片口・水指・茶入土瓶・水注・灯火具』『九州磁器の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』

船井向洋2000「肥前（佐賀県）の製品について 南器の編年 3. 火入・瓶」『九州磁器の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』

野上建紀2000「磁器の編年（色絵以外） 1. 瓢・小壺・皿・紅皿・紅猪口」『九州磁器の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』

中野雄二2000「波佐見」『九州磁器の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』

九州近世陶磁学会2000『九州磁器の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』

大橋康二2002「肥前磁器の流通（西日本）」『国内出土の肥前陶磁 西日本の流通をさぐる』九州近世陶磁学会

九州近世陶磁学会2002『国内出土の肥前陶磁 西日本の流通をさぐる』

九州近世陶磁学会2004『受容層の違いによる九州陶磁の様相』

徳島大学総合科学部歴史学研究室・考古フォーラムくらもと2000『四国・淡路の陶磁器—生産と流通』

徳島大学総合科学部歴史学研究室・関西近世考古学研究会・考古フォーラムくらもと2001『四国と周辺の土器—炮烙の生産と流通—』

四国城下町研究会・東洋陶磁学会・宇多津町文化財保護協会2002『四国・淡路の陶磁器II—理兵衛焼と京焼—』

四国城下町研究会・土佐史談会・高知県文化財団埋蔵文化財センター2003『四国と周辺の土器II—火鉢・焜炉類にみる流通と生活形態—』

佐賀県立九州陶磁文化館2004『古伊万里の見方 シリーズ1種類』

佐賀県立九州陶磁文化館2005『古伊万里の見方 シリーズ2成形』

佐賀県立九州陶磁文化館2006『古伊万里の見方 シリーズ3装飾』

世界・森の博覧会波佐見町運営委員会1996『波佐見青磁展・くらわんか展』

波佐見焼400年実行委員会1999『波佐見焼400年の歩み』

出土遺物観察表(1)

| 遺物番号 | 実物番号 | 直欄番号 | 直欄項目 | 種類 | 直地 | 測量(cm) | 既存量 | 施土 |
|------|--------|--------|------|-----|----|----------------------|------------------------|----------------------------|
| 測定規 | | | | | | | | |
| 1 | | なし | SK92 | 陶 | 器 | 唐津 | 口径(12.0)、底(3.6) | 口径1/3 底 |
| 2 | 1147 | SK95 | 陶 | 器 | 唐津 | 底径 | 底(5.6) | 底 |
| 3 | 1119-2 | SK97 | 土師質 | 器 | 器 | 口(8.9)、底(5.8)、高(2.0) | 口径3/4 | 底(10.5mm以下の砂利含む) |
| 4 | | 1115-1 | SK97 | 土師質 | 器 | 口(8.9)、底(3.2)、高(2.3) | 口径5/6 | 底 |
| 5 | | 1083 | SK98 | 陶 | 器 | 小鉢 | 口径(8.0)、底(2.8)、高(4.6) | 口径2/3 破片 |
| 6 | 1227 | SK95 | 陶 | 器 | 器 | — | — | 底 |
| 7 | 1257-1 | SK91 | 陶 | 器 | 器 | 底前 | 底(4.4) | 底台径5/8 |
| 8 | 1257-2 | SK91 | 陶 | 器 | 器 | 底前 | 口径(2.4) | 口径1/2 |
| 9 | 1257-3 | SK91 | 陶 | 器 | 器 | 底前 | 口径(2.0) | 口径1/2 |
| 10 | 1258 | SK91 | 陶 | 器 | 器 | 底前 | 底(5.5) | 底台径5/8 |
| 11 | | 1105 | SK91 | 土師質 | 器 | — | 口径(7.8)、底(2.8)、高(1.8) | 口径2/7 |
| 14 | | 1041 | SK70 | 陶 | 器 | 底前 | 口径(7.7)、底(4.5)、高(1) | 口径1/4 |
| 15 | | 1113 | SK70 | 陶 | 器 | — | 口径(10.7)、底(3.7)、高(2.2) | 口径1/8 底 |
| 16 | | 1111 | SK70 | 土師質 | 器 | — | 底(6.7) | 口径1/3 |
| 17 | | 1112 | SK70 | 灯明皿 | 器 | — | 口径(11.2)、底(3.2)、高(1.9) | 口径5/8 底(1mm以下の砂利を僅かに含む) |
| 18 | 写真のみ | 1110 | SK70 | 灯明皿 | 器 | — | 口径(10.6)、底(2.8)、高(2.2) | 底(8mm以下の砂利を僅かに含む) |
| 21 | 1229 | SK70 | 陶 | 器 | 器 | 底前 | — | 底台径3/8 |
| 22 | 1232 | SK95 | 陶 | 器 | 器 | 底前 | 口径(5.5) | 口径1/3 |
| 23 | 1180 | SK95 | 土師質 | 器 | 器 | 底前 | 底(4.4) | 底台径1/2 |
| 24 | | 1233-2 | SK92 | 陶 | 器 | 底前 | 底(5.0) | 高台径1/4 |
| 25 | | 1235-1 | SK92 | 陶 | 器 | 底前 | 底(5.0) | 高台径3/8 底 |
| 26 | | 1289-1 | SK95 | 陶 | 器 | 底前 | 底(5.2) | 高台径3/4 底 |
| 27 | | 1084 | SK95 | 陶 | 器 | 底前 | 底(5.4) | 高台径3/4 底 |
| 28 | | 1044 | SK95 | 陶 | 器 | 底前 | 底(5.5) | 高台径1/2 底 |
| 29 | | 1094 | SK95 | 陶 | 器 | 底前 | 底(5.6) | 高台光形 底(5mm以下の砂利を含む) |
| 30 | | 1116-4 | SK95 | 土師質 | 器 | — | 口径(7.5)、底(4.7)、高(1.8) | 口径5/6 |
| 31 | | 1116-3 | SK95 | 土師質 | 器 | — | 口径(7.1)、底(4.0)、高(1.8) | 口径3/4 |
| 32 | | 1116-2 | SK95 | 土師質 | 器 | — | 口径(7.5)、底(4.3)、高(1.4) | 充形 底(1~2mmの微砂を僅かに含む) |
| 33 | | 1116-1 | SK95 | 土師質 | 器 | — | 口径(7.3)、底(5.0)、高(1.8) | 口径1/3 底(1~2mmの微砂を僅かに含む) |
| 34 | 写真のみ | 1225 | SK95 | 陶 | 器 | 不規 | 口径(6.5) | 圓形破片 底 |
| 35 | 写真のみ | 1211 | SK95 | 陶 | 器 | 器 | 口径(6.6) | 口径1/8 底(8mm以下の砂利を含む) |
| 40 | | 1265-2 | SK95 | 土師質 | 器 | 底前 | 口径(7.3)、底(3.6)、高(1.4) | 底台径3/8 |
| 41 | | 1188-1 | SK91 | 土師質 | 器 | 底前 | 底(4.4) | 底台径1/2 |
| 42 | | 1269 | SK91 | 陶 | 器 | 底前 | 底(3.2) | 高台径1/4 |
| 43 | | 1269-1 | SK91 | 陶 | 器 | 不規 | 口径(19.4) | 口径1/8 |
| 44 | | 1247-1 | SK91 | 土師質 | 器 | 不規 | 口径(13.0) | 口径1/8 底(1mm以下の長石を含む) |
| 45 | | 1276 | SK91 | 陶 | 器 | 器 | 口径(33.0) | 口径1/2 底(1mm以下の長石を含む) |
| 46 | | 1273 | SK91 | 陶 | 器 | 器 | 口径(32.0) | 口径1/2 底(1mm以下の長石を含む) |
| 47 | | 1282 | SK91 | 陶 | 器 | 器 | 底(7.2)、高(1.0) | 底足底部 |
| 48 | 写真のみ | 1230-4 | SK91 | 陶 | 器 | 底前 | — | 破片 底 |
| 49 | 写真のみ | 1230-5 | SK91 | 陶 | 器 | 底前 | 口径(27.7) | 口径1/8 底 |
| 50 | 写真のみ | 1250-2 | SK91 | 陶 | 器 | 底前 | 口径(24.3) | 口径1/4 底 |
| 51 | 写真のみ | 1250-3 | SK91 | 陶 | 器 | 底前 | 口径(34.1) | 口径3/8 底 |
| 83 | | 1024 | SK18 | 陶 | 器 | 器 | 口径(26.6)、底(5.0) | 口径3/4 底 |
| 64 | | 1093 | SK18 | 陶 | 器 | 器 | 口径(16.0)、底(4.4)、高(7.0) | 底(4mm以下の砂利を含む) 底 |
| 65 | | 1247 | SK18 | 陶 | 器 | 器 | — | 底 |
| 66 | | 1098 | SK18 | 土師質 | 器 | — | 口径(18.5)、底(4.5)、高(1.5) | 口径5/6 底(1mm以下の微砂を含む、露井) |
| 73 | | 1085 | SK93 | 陶 | 器 | 器 | 底(2.5) | 高台光形 底 |
| 74 | | 1059 | SK93 | 陶 | 器 | 底前 | 口径(19.5)、底(5.0)、高(0.9) | 口径5/6 底 |
| 75 | | 1107 | SK93 | 土師質 | 器 | 器 | 口径(8.5)、底(5.8)、高(2.3) | 口径6/7 底(1mm以下の微砂を含む) |
| 76 | | 1106 | SK93 | 土師質 | 器 | 器 | 口径(6.5)、底(3.0)、高(1.5) | 底(8mm以下の砂利を含む) 底 |
| 77 | | 1108 | SK93 | 土師質 | 器 | 器 | 口径(10.5)、底(7.1)、高(2.1) | 充形 底(1mm以下の微砂を含む) |
| 78 | | 1109 | SK93 | 土師質 | 器 | 器 | 口径(11.5)、底(7.5)、高(2.5) | 底(8mm以下の砂利を含む) 底 |
| 79 | | 1222 | SK93 | 土師質 | 器 | 器 | 底(4.6)、底(1.3) | 底 |
| 80 | | 1220 | SK93 | 陶 | 器 | 底前 | 底(2.7) | 底台径1/10 |
| 81 | | 1219 | SK93 | 陶 | 器 | 底前 | 底(3.6) | 底台径1/5 |
| 82 | | 1161 | SK93 | 陶 | 器 | 底前 | 底(3.4)、底(1.7)、高(12.8) | 底台径1/4 |
| 84 | | 1087 | SK91 | 陶 | 器 | 小鉢 | 底前 | 底(10.3)、底(12.0)、高(4.9) |
| 85 | | 1294-2 | SK91 | 陶 | 器 | 底前 | 口径(9.4) | 底砂利破片 底 |
| 86 | | 1140 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | 口径(13.4)、底(3.2)、高(2.8) | 底台径2/3 底 |
| 87 | | 1209-1 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | 底(10.5)、底(3.1) | 底台径2/3 底 |
| 88 | | 1083 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | 底(7.7)、底(2.8) | 底(5mm以下の砂利を含む) 底 |
| 89 | | 1294-3 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | 口径(8.0)、底(3.0)、高(4.25) | 底台径1/2 底 |
| 90 | | 1294-2 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | — | 底砂利破片 底 |
| 91 | | 1294-1 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | — | 底砂利破片 底 |
| 92 | | 1289 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | — | 底砂利破片 底 |
| 93 | | 1177-1 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | 底(2.2)、底(0.1) | 底(5mm以下の砂利を含む) 底 |
| 94 | | 1177-2 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | 底(2.0) | 底 |
| 95 | | 1179-2 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | 底(2.0) | 底 |
| 96 | | 1175-1 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | — | 底 |
| 97 | | 1176 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | — | 底 |
| 98 | | 1169 | SE91 | 陶 | 器 | 器 | — | 底 |

出土遺物観察表 (2)

| 遺物番号 | 写真番号 | 遺物番号 | 遺物種別 | 種類 | 直従 | 法量(cm) | 堆存量 | 形状 |
|------|------|--------|------|-----|--------|--------|--------------------------|--------------------------------|
| 99 | 写真のみ | 1224 | SK91 | 破 | 破 | 肥前 | 底(5.0) | 底部破片 |
| 100 | 写真のみ | 1297-1 | SK91 | 破 | 缺口 | 肥前 | — | 口縁部破片 |
| 101 | 写真のみ | 1297-2 | SK91 | 陶 | 壺 | 肥前 | — | 口径1/2 (赤み、黒色粒含む) |
| 112 | | 1100 | SK91 | 土師質 | 灯明器 | — | 口径2.0、高1.7 | 球 |
| 113 | 写真のみ | 1295-1 | SK91 | 破 | 破 | 肥前 | — | 口径1/2 |
| 114 | 写真のみ | 1295-2 | SK91 | 破 | 破 | 肥前 | — | 口径1/2 |
| 116 | | 1216 | SK94 | 陶 | 壺 | 肥前 | — | 口径1/12 (口縁、1mm以下の砂粒をわずかに含む) |
| 117 | | 1297 | SK94 | 土師質 | 壺 | — | — | 中(赤紅色) |
| 118 | | 1148 | SK92 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(8.0)、底(4.0)、高3.9 | 高台球3/7 |
| 119 | | 1038 | SK92 | 陶 | 片口器 | — | 口径(5.4)、底(5.2)、高6.7 | 球 |
| 120 | | 1215 | SK92 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(6.0) | 口径1/9 (赤味含む) |
| 121 | | 1183 | SK92 | 土師質 | 壺 | — | 口径7.1、底4.2、高1.4 | 球 |
| 122 | | 1182 | SK92 | 土師質 | 壺 | — | 口径8.9、底3.3、高1.3 | 球 |
| 123 | | 1181 | SK92 | 土師質 | 壺 | — | 口径7.3、底4.4、高1.4 | 球 |
| 124 | | 1184 | SK92 | 土師質 | 壺 | — | 口径(7.3)、底(4.4)、高1.5 | 球 |
| 125 | | 1185 | SK92 | 土師質 | 壺 | — | — | 底部のみ |
| 126 | | 1289-3 | SK93 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(11.0) | 球 |
| 127 | | 1265-1 | SK93 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径4.0 | 底部のみ |
| 128 | | 1265-2 | SK93 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(9.0) | 球 |
| 129 | | 1043 | SK93 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(9.0)、底(8.0)、高6.2 | 球 |
| 130 | | 1042 | SK93 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径7.4、底6.8 | 球 |
| 131 | | 1286 | SK93 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径7.4、底6.8 | 球 |
| 132 | | 1289 | SK93 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径7.4、底6.8 | 球 |
| 133 | | 1221-1 | SK93 | 陶 | 小壺 | 肥前 | 口径(8.0) | 口径2.9 球 |
| 134 | | 1221-2 | SK93 | 陶 | 小壺 | 肥前 | — | 口径2.5 球 |
| 135 | | 1287 | SK93 | 陶 | 壺 | 肥前 | — | 口径2.5 球 |
| 136 | | 1288 | SK93 | 陶 | 壺 | 肥前 | — | 口径2.5 球 |
| 137 | | 1287 | SK93 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(30.0) | 口径1/2 球 |
| 138 | | 1295 | SK93 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(34.0)、底(19.2)、高(13.7) | 高台球1/2 球 |
| 142 | | 1055 | 造成土1 | 破 | 破 | 肥前 | 口径(7.2)、底3.8、高5.0 | 口径1/2 球 |
| 143 | | 1090 | 造成土1 | 破 | 壺 | 肥前 | 口径(13.0)、底8.1、高3.1 | 高台球1/2 球 |
| 144 | | 1054 | 造成土1 | 破 | 香炉・火入れ | 肥前 | 口径(11.0)、底8.4、高7.2 | 口径3/7 球 |
| 145 | | 1091 | 造成土1 | 破 | 清水入れ | 肥前 | 口径(3.0)、底3.3 | 口径1/2 球 |
| 146 | | 1176 | 造成土1 | 土師質 | 壺 | — | 口径7.3、底5.3、高1.3 | 球 |
| 147 | | 9512 | 造成土1 | 土師質 | 壺 | — | 口径8.5、底5.4 | 球 |
| 148 | | 1287 | 造成土1 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(8.0) | 口径2/3 球 |
| 149 | | 1280 | 造成土1 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(9.0)、底16.0、高13.5 | 口径1/7 (糊・粗砂含む) |
| 150 | | 1282 | 造成土1 | 陶 | 壺 | 肥前 | — | 口径1/2 (糊・粗砂含む) |
| 151 | 写真のみ | 1052 | 造成土1 | 陶 | 破 | 肥前 | 口径11.0、底14.0、高5.1 | 口径5/9 球 |
| 152 | 写真のみ | 1053 | 造成土1 | 陶 | 破 | 肥前 | — | 口径5/9 球 |
| 153 | | 1045 | 造成土1 | 破 | 破 | 肥前 | 口径10.2、底4.1、高5.9 | 高台球1/2 球 |
| 154 | | 1046 | 造成土1 | 破 | 破 | 肥前 | 口径9.1、底4.4、高5.1 | 高台球2/3 球 |
| 155 | | 1047 | 造成土1 | 破 | 破 | 肥前 | 口径9.8、底4.0、高5.3 | 高台球2/3 球 |
| 156 | | 1048 | 造成土1 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径11.0、底14.0、高5.3 | 口径5/9 球 |
| 157 | | 1049 | 造成土1 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径11.0、底14.0、高5.4 | 口径5/9 球 |
| 158 | | 1048 | 造成土1 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径11.0、底14.0、高5.4 | 口径5/9 球 |
| 159 | | 1152 | 造成土1 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(10.0)、底(10.0)、高(8.0) | 口径2/3 球 |
| 160 | | 1126 | 造成土1 | 土師質 | 土器 | 肥前 | 口径19.2、底16.7、高5.1 | ほぼ完形 中(1mm以下の砂粒を含む) |
| 161 | | 1218 | 造成土1 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(25.0) | 口径(40.0) (糊・粗砂含む) |
| 162 | | 1302 | 造成土1 | 陶 | 残片 | 個前 | 底(11.0) | 底部1/2 (糊の多量に含む) |
| 167 | | 1234-3 | 造成土2 | 破 | 破 | 肥前 | — | 破片 球 |
| 168 | | 1234-2 | 造成土2 | 破 | 小鉢 | 肥前 | 口径(3.0) | 高台球1/3 球 |
| 169 | | 1234-1 | 造成土2 | 破 | 鉢 | 肥前 | 口径(4.0) | 高台球1/3 球 |
| 170 | | 1104 | 造成土2 | 土師質 | 壺 | — | 口径6.4、底5.3、高1.6 | 口径2/3 中(1mm以下の砂粒を含む) |
| 171 | | 1040 | SK26 | 破 | 破 | 肥前 | 口径11.0、底4.0、高4.4 | 口径3/8 球 |
| 172 | | 1037 | SK28 | 破 | 破 | 肥前 | 口径(8.0)、底(5.7)、高6.4 | 口径3/8 球 |
| 173 | | 1062 | SK25 | 破 | 缺口 | 肥前 | 口径(4.5)、底(3.5)、高3.9 | 口径6/3 球 |
| 174 | | 1271 | SK28 | 破 | 壺 | 肥前 | 口径(14.0)、底(11.0)、高3.8 | 口径1/2 球 |
| 175 | | 1089 | SK28 | 破 | 壺 | 肥前 | 口径(13.4)、底(9.2)、高2.8 | 口径1/3 球 |
| 176 | | 1154 | SK26 | 破 | 菜皿 | 肥前系 | 口径(11.2)、底(8.0)、高7.8 | 口径1/6 球 |
| 177 | | 1038 | SK25 | 破 | 破 | 肥前 | 口径(8.0)、底(8.0)、高4.8 | 口径1/2 球 |
| 178 | | 1039 | SK25 | 破 | 破 | 肥前 | 口径(8.0)、底(8.0)、高5.15 | 高台球形 球 |
| 179 | | 1296-2 | SK26 | 破 | 壺 | 肥前 | 口径(7.8) | 底部破片 球 |
| 180 | | 1167 | SK25 | 破 | 大鉢 | 肥前 | 口径(20.0)、底(19.0)、高7.0 | 口径1/2 球 |
| 181 | | 1270-3 | SK25 | 破 | 破 | 肥前 | 口径(15.0)、底(4.5)、高7.1 | 馬糞形1/4 球 |
| 182 | | 1270-4 | SK25 | 破 | 破 | 肥前 | 口径(17.0)、底(15.0)、高7.1 | 馬糞形1/4 球 |
| 183 | | 1270-5 | SK25 | 破 | 破 | 肥前 | 口径(17.0)、底(15.0)、高7.1 | 馬糞形1/4 球 |
| 184 | | 1293 | SK25 | 破 | 壺 | 肥前 | 口径(17.0) | 口径破片 球 |
| 185 | | 1270-7 | SK25 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(14.0) | 高台球1/2 球 |
| 186 | | 1270-8 | SK25 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(15.0) | 底部破片 球 |
| 187 | | 1074 | SK28 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径4.4 | 高台球形 球 |
| 188 | | 1073 | SK28 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径4.0 | 高台球形 球 |
| 189 | | 1153 | SK28 | 陶 | 壺 | 肥前 | 口径(11.0)、底(10.0) | 口径1/2 球 |

出土遺物観察表 (3)

| 遺物番号 | 考証番号 | 地層番号 | 遺物種類 | 基盤 | 底地 | 高さ(cm) | 横幅 | 断面 | |
|------|--------|----------|------|--------|-----|---------------------------|---------|-------------------|---|
| 190 | 1392-1 | SK28 | 陶 | 片口鉢 | 肥前系 | □(21.0) | 口径1/6 | 縦 | |
| 191 | 1392-2 | SK28 | 陶 | 大皿 | 肥前系 | □(30.0) | 口径1/11 | 縦 | |
| 192 | 1164 | SK28 | 陶 | 甕 | 肥前系 | □(34.0), 高(7.5) | 高台径3/4 | 縦 | |
| 193 | 1300 | SK28 | 陶 | 甕 | 肥前系 | □(35.0) | 口径2/9 | 縦(1mm以下の形跡を僅かに含む) | |
| 194 | 1391 | SK28 | 陶 | 鉢 | 肥前系 | □(35.0) | 破片 | 縦 | |
| 195 | 1067 | SK28 | 陶 | 甕 | 肥前系 | □(35.0), 高(4.7) | 高台径1/6 | 縦 | |
| 196 | 1160 | SK28 | 陶 | 罐鉢 | 肥前系 | □(35.0), 高(15.0), 高(13.0) | 口径1/5 | 縦(微妙, 黒色粘土を含む) | |
| 197 | 1158 | SK28 | 土師質 | 蓋 | 肥前系 | □(32.0), 高(5.0) | ほぼ完形 | 縦 | |
| 200 | 1254 | SK11 | 陶 | 甕 | 肥前系 | □(31.0), 高(8.0), 高(4.0) | 高台径1/2 | 縦 | |
| 207 | 1290-1 | SK11 | 陶 | 甕 | 肥前系 | □(11.0) | 口径3/6 | 縦 | |
| 208 | 1290-2 | SK11 | 陶 | 甕 | 肥前系 | — | 高台破片 | 縦 | |
| 209 | 1290-3 | SK11 | 陶 | 甕 | 肥前系 | — | 口径3/8 | 縦 | |
| 210 | 1292-2 | SK11 | 陶 | 甕 | 肥前系 | □(12.0), 高(4.4), 高(3.5) | 口径3/8 | 縦 | |
| 211 | 1223 | SK31 | 土師質 | 甕 | 肥前系 | □(25.0), 高(8.0) | 高台径1/2 | 縦 | |
| 212 | 1162 | SK31 | 石 | 実況印半切槌 | 北朝系 | 高(12.0), 斧太刀(10.2) | 高台径1/2 | 縦 | |
| 213 | 1051 | SK68 | 陶 | 甕 | 肥前系 | □(10.0), 高(6.0), 高(5.1) | 高台完形 | 縦 | |
| 214 | 1251 | SK88 | 縦 | 瓶 | 肥前系 | □(32.0), 高(17.0), 高(13.0) | 口径2/3 | 縦 | |
| 215 | 1264 | SK88 | 陶 | 罐鉢 | 肥前系 | — | 高台破片 | 縦 | |
| 216 | 1263 | SK88 | 陶 | 罐鉢 | 肥前系 | □(36.0), 高(13.0), 高(15.0) | 口径3/4 | 中(微粉多量に含む) | |
| 217 | 1272-5 | SK20 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(20.0) | 口径3/4 | 縦 | |
| 218 | 1072 | SK20 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(13.0), 高(6.0), 高(2.8) | 高台径2/8 | 縦 | |
| 219 | 1079 | SK20 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(14.0) | 高台完形 | 縦 | |
| 220 | 1026 | SK20 | 陶 | 甕 | 肥前系 | □(16.0), 高(5.0), 高(7.4) | 口径1/3 | 縦 | |
| 221 | 1025 | SK20 | 花 | 火入れ | 肥前系 | 道(0) | 高台径2/4 | 縦 | |
| 222 | 1124 | SK20 | 陶 | 甕 | 肥前系 | □(9.0), 高(1.8) | つまみ完形 | 縦 | |
| 223 | 1098 | SK20 | 土師質 | 甕 | 肥前系 | □(7.0), 道(5.0), 高(1.5) | 口径3/4 | 縦 | |
| 224 | 写眞のみ | 1272-4 | SK20 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(10.0) | 口径1/6 | 縦 |
| 225 | 写眞のみ | 1272-1-5 | SK20 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(10.0) | 口径1/4 | 縦 |
| 226 | 写眞のみ | 1272-1 | SK20 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(10.0) | 口径1/5 | 縦 |
| 227 | 写眞のみ | 1272-2 | SK20 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(10.0) | 口径1/5 | 縦 |
| 228 | 写眞のみ | 1272-3 | SK20 | 縦 | 甕 | 肥前系 | — | 口径1/5 | 縦 |
| 229 | 写眞のみ | 1272-3 | SK20 | 縦 | 甕 | 肥前系 | 高(4.0) | 高台径2/5 | 縦 |
| 230 | 写眞-2 | SK90 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(32.0) | 口径1/6 | 縦 | |
| 231 | 1092 | SK90 | 陶 | 甕 | 肥前系 | □(34.0), 道(4.0), 高(2.9) | 口径1/2 | 縦 | |
| 233 | 1070 | SK05 | 縦 | 皿 | 表面 | □(13.0), 高(2.0), 高(1.8) | 口径1/3 | 縦 | |
| 234 | 1179 | SK05 | 土師質 | 皿 | 肥前系 | □(9.0), 道(2.0), 高(2.0) | 口径1/4 | 縦 | |
| 235 | 1019 | SK05 | 陶 | 甕 | 肥前系 | □(2.0), 道(1.0), 高(2.5) | 口径1/2 | 縦 | |
| 236 | 1020 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(1.0) | 高台径1/2 | 縦 | |
| 237 | 1204 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(1.0) | 口径1/3 | 縦 | |
| 238 | 1065 | SK05 | 縦 | 小杯 | 肥前系 | □(2.0), 道(2.0), 高(3.1) | ほぼ完形 | 縦 | |
| 239 | 1205-1 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(2.1) | 残存1/4 | 縦 | |
| 240 | 1205-2 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | — | 破片 | 縦 | |
| 241 | 1212 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(3.0) | 口径1/12 | 縦 | |
| 242 | 写眞のみ | 1264-3 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | — | 残片 | 縦 |
| 243 | 写眞のみ | 1264-4 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(19.0) | 口縁部破片 | 縦 |
| 244 | 写眞のみ | 1264-2 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | — | 口縁部破片 | 縦 |
| 245 | 写眞のみ | 1244-1 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(30.0) | 口径1/18 | 縦 |
| 246 | 1260 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | 道(4.0) | 高台径2/6 | 縦 | |
| 247 | 1243 | SK05 | 石 | 怪石 | 肥前系 | 道(3.0), 道(1.2) | — | — | — |
| 248 | 1135 | SK05 | 土師質 | 甕 | 肥前系 | — | — | — | — |
| 249 | 写眞のみ | 1067 | SK05 | 陶 | 甕 | 肥前系 | 道(3.0) | 高台径1/2 | 縦 |
| 250 | 写眞のみ | 1262-1 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(10.0) | 口径1/5 | 縦 |
| 251 | 写眞のみ | 1262-2 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | — | 口縁部破片 | 縦 |
| 252 | 写眞のみ | 1262-3 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(12.0) | 口径1/15 | 縦 |
| 253 | 写眞のみ | 1262-4 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(12.0) | 口径1/8 | 縦 |
| 254 | 写眞のみ | 1262-5 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(4.0) | 口縁部破片 | 縦 |
| 255 | 写眞のみ | 1246-3 | SK05 | 縦 | 平底 | 肥前系 | □(18.0) | 口径1/9 | 縦 |
| 256 | 1069 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | 道(6.0) | 高台径1/3 | 縦 | |
| 257 | 写眞のみ | 1206-1 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(11.0) | 口径1/10 | 縦 |
| 258 | 写眞のみ | 1253-1 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | — | 破片 | 縦 |
| 259 | 写眞のみ | 1253-2 | SK05 | 縦 | 小杯 | 肥前系 | □(10.0) | 口縁部破片 | 縦 |
| 260 | 写眞のみ | 1253-3 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(10.0) | 口径1/8 | 縦 |
| 261 | 写眞のみ | 1253-4 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | — | 底面2/3 | 縦 |
| 262 | 写眞のみ | 1253-5 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | 道(3.0) | 高台部破片 | 縦 |
| 263 | 写眞のみ | 1264-1 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | — | 破片 | 縦 |
| 264 | 写眞のみ | 1264-2 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | — | 口縁部破片 | 縦 |
| 265 | 写眞のみ | 1066 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | 道(5.0) | 高台径1/4 | 縦 |
| 266 | 写眞のみ | 1202 | SK05 | 縦 | 甕 | 肥前系 | □(11.0) | 口縁部破片 | 縦 |

出土遺物観察表(4)

| 遺物番号 | 名前 | 地質番号 | 遺物種別 | 整理 | 产地 | 法量(cm) | 機器量 | 鉄土 | |
|------|------|--------|------------|------|-----|----------------------|------------------------|--------------------------------------|---|
| 267 | 写真のみ | 1245-1 | SK25 | 塔 | 田 | 肥前 | — | 破片 | |
| 268 | 写真のみ | 1258-2 | SK25 | 陶 | 碗 | 東・信濃系 | — | 破片 | |
| 269 | 写真のみ | 1249-2 | SK26 | 陶 | 瓶 | 東・信濃系(高2.8) | — | 高台段2/3 | |
| 273 | — | 1231 | SK26 | 罐 | 破 | 肥前 | □(11.6) | 口徑1/4 | |
| 274 | — | 1227 | SK26 | 瓦質 | 壺 | 西(2.1) | つば形瓦片 | 破 | |
| 275 | — | 1270 | SK26 | 陶 | 堆錐 | 肥前 | □(30.2) | 口径2/3 | |
| 276 | — | 1271 | SK26 | 陶 | 器体 | 肥前 | □(20.0)、高(12.0) | 口径1/4 | |
| 277 | — | 1278 | SK26 | 陶 | 器体 | 肥前 | □(20.0)、高(12.0) | 口径1/4 | |
| 281 | — | 1229 | SD10 | 石 | 印光 | — | ■(2.2×2.8)、厚(1.6) | 無 | |
| 282 | — | 1255 | SD10 | 陶 | 壺 | — | □(30.4) | 口径1/8 | |
| 283 | — | 1259 | SD10 | 陶 | 不規 | 肥前 | — | 破片 | |
| 284 | 写真のみ | 1294 | SD10 | 陶 | 壺 | 不規 | 種(5.1)、つまり(5.0)、高(5.0) | 口径3/2 | |
| 285 | — | 1291-1 | SD10 | 罐 | 砂 | 肥前 | 口(8.0) | 口絞形破片 | |
| 286 | — | 1291-2 | SD10 | 罐 | 紅色 | 肥前 | 口(6.2)、底(3.6)、高(2.4) | 高台段1/2 | |
| 287 | — | 1291-3 | SD10 | 陶 | 不規 | 不明 | 口(7.4) | 高台段1/3 | |
| 288 | — | 1291-7 | SD10 | 陶 | 豆 | 肥前 | — | 口絞形破片 | |
| 289 | — | 1291-8 | SD10 | 罐 | 火入れ | 肥前 | □(3.4) | 口径1/3 | |
| 290 | 写真のみ | 1291-6 | SD10 | 陶 | 壺 | 肥前 | — | 破片 | |
| 291 | 写真のみ | 1291-5 | SD10 | 陶 | 鉢 | 底津 | — | 破片 | |
| 292 | — | 1088 | SD10 | 罐 | 鋸口 | 肥前 | 底(3.4) | 裏剥皮片 | |
| 293 | 写真のみ | 1292-1 | SD10 | 罐 | 壺 | 肥前 | — | 口絞形破片 | |
| 294 | 写真のみ | 1292-2 | SD10 | 罐 | 壺 | 肥前 | 底(1.0) | 高台段1/4 | |
| 295 | 写真のみ | 1292-3 | SD10 | 罐 | 壺 | 肥前 | 底(1.0) | 高台段1/3 | |
| 296 | — | 1292-3 | SD10 | 罐 | 壺 | 肥前 | 底(1.0) | 口絞形破片 | |
| 297 | — | 1293-5 | SD10 | 陶 | 手口 | 東・信濃系 | □(3.6) | 底存1/3 | |
| 298 | — | 1293-4 | SD10 | 土師質 | 切立瓶 | 不明 | — | 底存1/6 底(石英・長石・黄青・青むし)、1mm以下の微粉を含む | |
| 299 | 写真のみ | 1293-1 | SD10 | 罐 | 壺 | 肥前 | — | 口絞形破片 | |
| 300 | 写真のみ | 1293-2 | SD10 | 罐 | 段重 | 肥前 | — | 口径1/10 | |
| 301 | — | 1149 | SHD10(K46) | 罐 | 壺 | 肥前 | 底(7.8) | 高台段3/10 | |
| 302 | — | 1027 | SK46 | 陶 | 罐 | 肥前 | 底(6.9) | 高台段6/1 | |
| 303 | — | 1226-1 | SK50 | 罐 | 砂 | 肥前 | 底(4.0) | 高台段1/3 | |
| 304 | — | 1226-2 | SK50 | 罐 | 砂 | 肥前 | 底(4.1) | 口径1/6 | |
| 306 | — | 1101 | SK50 | 土師質 | 皿 | — | □(3.5)、底(5.3)、高(2.5) | 口径1/4 | |
| 307 | — | 1022 | SK17 | 罐 | 砂 | 肥前 | □(5.5)、底(3.6)、高(5.5) | 高台完形 | |
| 308 | — | 1212 | SK17 | 陶 | 壺 | 肥前 | □(22.6) | 口径1/3 | |
| 309 | — | 1246 | SK17 | 藤島片堺 | 右舟 | 肥前 | — | 白磁形通片 (黒模・黑色模合) | |
| 316 | — | 1230 | SK32 | 罐 | 不規 | 肥前 | — | 白磁形通片 | |
| 317 | — | 1025 | SK32 | 陶 | 壺 | 肥前 | 底(1.6) | 高台完形 | |
| 318 | 写真のみ | 1248-1 | SK32 | 罐 | 小舟 | 肥前 | 底(3.4) | 高台段1/4 | |
| 319 | 写真のみ | 1249-2 | SK32 | 罐 | 砂 | 肥前 | 底(3.1) | 高台段2/3 | |
| 320 | 写真のみ | 1249-4 | SK32 | 罐 | 壺 | 肥前 | 底(4.0) | 高台段1/3 | |
| 321 | 写真のみ | 1249-3 | SK32 | 罐 | 蓋付鉢 | 肥前 | 底(4.0) | 高台段1/3 | |
| 322 | — | 1125 | SK34 | 罐 | 段重壺 | 肥前 | 径(14.7)、高(3.6) | 口径3/7 | |
| 323 | — | 1103 | SK34 | 土師質 | 皿 | □(7.0)、底(3.8)、高(1) | 口径3/4 | 破 | |
| 324 | — | 1081 | SK34 | 罐 | 皿 | 肥前 | □(14.2)、底(8.0)、高(3.0) | 口径1/4 | 破 |
| 325 | — | 1034 | SK34 | 罐 | 火入れ | 肥前 | □(13.5)、底(7.0)、高(7.6) | 口径1/2 | 破 |
| 326 | — | SK34 | 陶 | 壺 | 盛物 | 肥前 | □(33.9) | 口径1/12 (中・微粉食) | |
| 327 | 写真のみ | 1233-1 | SK34 | 罐 | 壺 | 肥前 | □(10.0) | 口絞形破片 | |
| 328 | 写真のみ | 1233-2 | SK34 | 罐 | 壺 | 肥前 | — | 破 | |
| 329 | — | 1233-3 | SK34 | 罐 | 壺 | 肥前 | □(11.5)、底(4.2) | 口絞形通片 | |
| 332 | — | 1076 | SK53 | 罐 | 紅茶 | 肥前 | □(10.0)、底(2.3)、高(2.5) | 口径2/3 | |
| 333 | — | 1077 | SK53 | 罐 | 紅茶 | 肥前 | □(6.2)、底(2.9)、高(2.4) | ほぼ完形 | |
| 334 | — | 1079 | SK53 | 罐 | 皿 | 肥前 | □(12.4)、底(3.1)、高(4.3) | 口径3/7 | |
| 335 | — | 1080 | SK53 | 罐 | 皿 | 肥前 | □(14.0)、底(4.0)、高(3.3) | 高台段3/5 | |
| 336 | — | 1089 | SK53 | 罐 | 壺 | 肥前 | 底(9.2)、底(4.1)、高(3.0) | 口径1/4 | |
| 337 | — | 1033 | SK53 | 罐 | 火入れ | 肥前 | □(10.0)、底(7.2)、高(7.5) | 口径3/4 | |
| 338 | — | 1028 | SK53 | 罐 | 火入れ | 肥前 | □(11.7)、底(4.0)、高(7.8) | 口径1/3 | |
| 339 | — | 1030 | SK53 | 罐 | 壺 | 肥前 | □(10.7)、底(3.1)、高(5.25) | 高台段3/4 | |
| 340 | — | 1031 | SK53 | 罐 | 砂 | 肥前 | □(9.0)、底(2.1)、高(5.7) | 口径4/5 | |
| 341 | — | 1237 | SK53 | 陶 | 壺 | 肥前 | □(9.4) | 口径1/2 | |
| 342 | — | 1238 | SK53 | 瓦質 | 培壠 | — | □(9.8) | 口径1/5 | |
| 343 | — | 1102 | SK53 | 土師質 | 皿 | □(4.4)、底(1.5)、高(1.8) | 口径1/2 | 破 | |
| 344 | 写真のみ | 1029 | SK53 | 罐 | 砂 | 肥前 | □(9.0)、底(4.0) | 口径1/3 | |
| 345 | 写真のみ | 1076 | SK53 | 罐 | 紅茶 | 肥前 | □(6.6)、底(2.4)、高(2.5) | 口径4/9 | |
| 347 | — | 1242-1 | SK53 | 罐 | 小舟 | 肥前 | □(4.2)、底(2.4)、高(2.6) | 口径1/3 | |
| 348 | — | 1060 | SK53 | 罐 | 小舟 | 肥前 | □(6.0)、底(2.0)、高(2.8) | 高台段2/3 | |
| 349 | — | 1242-2 | SK53 | 罐 | 稚口 | 肥前 | □(1.1)、底(2.1)、高(3.7) | 口径1/3 | |
| 350 | — | 1061 | SK53 | 陶 | 小舟 | 東・信濃系 | □(4.6)、底(2.4)、高(2.7) | 口径1/3 | |
| 351 | — | 1059 | SK53 | 陶 | 目 | 肥前 | □(10.6)、底(8.1)、高(2.3) | 口径2/5 | |
| 352 | — | 1242-3 | SK53 | 罐 | 皿 | 肥前 | □(11.6)、底(2.6)、高(2.7) | 口径1/4 | |

| 種属 | 色類(日本) | 色斑(背面、側面の色) | 色斑(腹面、上顎) | 型別 | 製作年代 | 場所 | 参考書 |
|-----|-----------------------------|--|--------------------------------------|----------------|-------------|-------------------------------------|-----------------------|
| - | NB-0灰白色 | 輪、透明輪 | | | | 青祖皿 | |
| - | 7.5W7/1灰白色 | 内外:150Y7/1灰銀灰色 輪、透明輪、7.5W7/1灰銀灰色 | 7.5W7/2灰リーフ黑色 | | | | |
| - | 8W7/1灰白色 | 輪、透明輪 | | | | | |
| - | 内外:7.5W7/1灰白色、外添:5W8E/4灰銀灰色 | 高台内、輪脚 | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪、透明輪 | 底端:7.5W7/1灰青灰 ~9W6/1灰灰色 | 17c中葉 | | 流水、花の文様 大橋正期 | |
| 魚 | 7.5W7/1灰銀色 | 内外:10H5/4灰銀色 | | | | | |
| - | 10H5/4灰銀色 | 輪、透明輪、10H5/4灰銀灰色 | | | | スリ日1本 東園2期bか | |
| - | 7.5W4/2灰銀色 | 内外:7.5W7/2灰銀色 | | | 17c後半 | スリ日2本 番号2無し | |
| - | 10H5/6灰銀色 | 7.5W4/4灰-5灰白色 | | | 18c前半 | スリ日5本 番号1無し | |
| - | 5W8E/4灰-5灰白色 | 内: 2.5W8/2灰白色 外: 2.5W8/1灰白色 | 文様: 2.5W4/3オリー フ海色 | 外底、輪脚 | | 若重切利 人物の掛印 | |
| - | 10W8/2灰白色 | 内: 7.5W8/3灰黃色 | | | | | |
| - | 2.5W7/4灰系橙色 | 内:2.5W8/4灰リーフ褐色 輪: 10H5/3赤褐色 | 文様: 白色 外面: 回転ナギ | 19c | | 行平攝の蓋 | |
| - | 白色 | 輪: 10H5/7灰銀灰色 | 底端: 10H5/1灰銀灰色 | | | 輪文 鹿文 | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 10H5/7灰銀灰色 | 文様: 7.5W7/1灰銀灰色 リーフ色 | 17c後半-18c中葉 | | 安文 波佐見V-1頃 | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 2.5W7/1灰銀灰色 | | | | | |
| - | 2.5W7/1灰銀色 | 輪: 白銀色 | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 7.5W7/1灰銀色 | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 内外: 10H5/2灰銀色 外: 10H5/4灰銀色 | 底端: 2.5W7/1灰銀色 | 底端: 2.5W8/2灰白色 | 18c前頭-中蓋 | 東込丸舟形 西台済1号』大橋正期 | |
| - | 10H5/3灰-4灰褐色 | 内: 10H5/4灰銀色 外: 10H5/2灰銀色 | 底端: 明暦年號 | | | | |
| - | 白色 | 輪: 10H5/7灰銀灰色 | 底端: 明暦年號 | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 10H5/7灰銀灰色 | 底端: 明暦年號 | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 7.5W7/1灰銀色 | 文様: 波浪青色 | 17c後半-18c中葉 | | 青道 泉文 鶴彌作 | SKE89本と同じ式様 のものが出土 |
| - | 2.5W7/2灰銀色 | 内: 2.5W7/2灰銀色 外: 2.5W7/1灰銀色 | 文様: 波浪青色 | 18c後半 | | 高麗子板 | |
| - | 10H5/2灰白色 | 2.5W7/7灰銀色 外: 10H7/2灰白色 | 文様: 10H7/2灰リーフ | 底也 | 19c半舟跡 | | |
| 魚 | 7.5W7/4灰-5灰褐色 | | | 注口駒付け | | 草花文 | |
| - | NB-0灰白色 | 輪、透明輪 | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 内外: 2.5W7/1灰銀白色 | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 内外: 5W8E/4灰白色 | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 透明輪 内: 7.5W7/1灰銀色 | 底端: 波浪青色 | | | | |
| - | 10H5/7-2灰-3灰褐色 | 内外: 10H5/7-4灰-5灰褐色 | 1820-1840 | | | 太過好瓶 | |
| - | 白色 | | | | | 17c後半 | |
| - | 白色 | | | | | 輪文 大橋正期 | |
| やわ板 | 10W8/4灰銀褐色 | 内: 10H5/4灰銀褐色 外: 轮足孔切付 | 底端: 桜子ナギ | 17c後半-18c | | 17c後半-18c 底三文 大橋正期 | |
| - | 白色 | 輪、透明輪 内: 7.5W7/1灰銀色 外: 7.5W7/1灰銀色 | 底端: 波浪青色 | | 1820-1860 | 草花文 尺母横 太楊V期 | |
| - | 2.5W7/4灰系橙色 | 内外: 10H5/4灰銀色 | | | | スリ日1本 番號4頃。 | |
| - | 白色 | | | | | 片金製の舟形 | |
| - | 5W8E/4灰-5灰褐色 | 2.5W7/7灰銀褐色 | | | | 文様 | |
| - | NB-0灰白色 | 輪、透明輪 | 底端: 波浪青色 | | 18c末-19c初頭 | 美文 大橋V期 | |
| - | NB-0灰白色 | 輪、透明輪 | 底端: 波浪青色 | | 18c | 大橋IV期 | |
| - | NB-0灰白色 | 内外: 5W8E/4灰白色 | 底端: 波浪青色 | | 1880-1890 | 火桶V期 | |
| 魚 | SYR7/4灰-5灰褐色 | | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 内外: 10H7/1灰銀色 | 外底: 扇形ナギ 脚止: 扇形ナギ | 18c中葉-後半 | | 内側墨書き 文: 東込み跡剥ぎコニヤク 脚止五枚文 佐波見V-3 | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 50Y1/1灰銀色、輪脚: SYR7/1灰銀色 | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 内外: 10H3/4灰褐色 | | | 17c後半-18c中葉 | 青道 渡辺見V-1か | |
| - | NB-0灰白色 | 輪、透明輪 | | | | スリ日2本 黑泥4期 | |
| - | 白色 | | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪、透明輪 | 底端: 波浪青色 | | 1780-1810頃 | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪、透明輪 | 底端: 波浪青色 | | 1780-1810頃 | | |
| - | 白色 | | | | 1680-1740 | 渡辺見V-1 青道 口縁内削傷に付着 | |
| - | NB-0灰白色 | 輪、透明輪、内外: 白色 | 底端: 波浪青色 | | | | |
| - | 白色 | | | | 18c末-萬葉 | 文様: 10H7/2灰リーフ 底也 | |
| - | NB-0灰白色 | 輪、透明輪 | 底端: 波浪青色 | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 内外: 10H7/1灰銀灰色 | 底端: 波浪青色 | | 18c中葉-19c初頭 | 渡辺見V-2・三 | |
| - | NB-0灰白色 | 内外: 10H7/1明暦灰色 | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 内外: 5W8E/4灰銀灰色 | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪、透明輪 | 底端: 波浪青色 | | | | |
| - | 白色 | | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 7.5W7/1灰銀灰色 | | | | | |
| - | 白色 | | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 7.5W7/1灰銀灰色 | 外底: 帆船 | | | | |
| - | 2.5W7/2灰白色 | 内外: 5W8E/4灰銀色 | 外底: 波浪青色 | | | | |
| 魚 | 7.5W7/4灰-5灰褐色 | 内外: 10H7/1灰銀色-2.5W7/1 黒褐色 | 内: 内側口縁部、ナギ 脚止: 扇形ナギ 外底: ナギ 外板 | | | 外底: 帆船 | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 10G7/1灰銀灰色 内: 7.5W7/1灰銀灰色 外: 10H7/1灰銀灰色 | 底端: 波浪青色-海青色 | IV期 18c中葉 | | 淡竹青碗 | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 透明輪 | 底端: 波浪青色 | 18c末-嘉慶 | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 透明輪 | 底端: 波浪青色 | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 透明輪 | 底端: 波浪青色 | | | | |
| - | 2.5W7/4灰銀色 | 内: 7.5W7/1灰銀灰色 | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 透明輪 | | | | | |
| - | NB-0灰白色 | 輪: 透明輪 | | | | | |

出土遺物観察表 (5)

| 遺物番号 | 文書番号 | 出土地番号 | 遺物種別 | 西端 | 東端 | 南北(cm) | 測定位置 | 記入 | |
|------|--------|--------|------|-------|----|--------------------------|------------------------|-------------------------|----------------|
| 353 | 1143 | SK03 | 漆 | 漆 | 漆 | — | 口幅4/2 | 無 | |
| 354 | 1197 | SK03 | 磁 | 鉢 | 鉢 | — | 口縁部破片 | 無 | |
| 355 | 1058 | SK03 | 陶 | 壺 | 壺 | 口(19.0), 底(1.9), 高(1.9) | 口径1/2 | 無 | |
| 356 | 1122 | SK03 | 陶 | 壺 | 壺 | 縫(7.8), 高(2.2) | 口縁部破片 | 無 | |
| 357 | | SK03 | 瓦気 | | | — | 口(18.6) | 無 | |
| 358 | 1209 | SK03 | 陶 | 壺 | 壺 | 漆-明吉 | 口径1/6 | 縫(8mm, 6~1cm大の小石を複数に含む) | |
| 359 | 1173 | SK03 | 瓦 | 瓦 | 瓦 | — | — | 無 | |
| 360 | 1174 | SK03 | 瓦 | 瓦 | 瓦 | — | — | 無 | |
| 361 | 1021 | SK10 | 陶 | 壺 | 壺 | 口(16.8), 底(4.4), 高(3.6) | 高台径2/5 | 無 | |
| 362 | 1103 | SK10 | 陶 | 壺 | 壺 | 口(16.8), 底(5.4), 高(6.5) | 口径1/4 | 無 | |
| 363 | 1018 | SK04 | 陶 | 壺 | 壺 | 口(19.0), 底(5.4), 高(6.5) | 高台底部 | 無 | |
| 367 | 1064 | SK04 | 陶 | 壺 | 壺 | 口(17.5), 底(4.5), 高(2.2) | 高台径2/7 | 無 | |
| 368 | 1259 | SK04 | 陶 | 壺 | 壺 | 口(30.0), 底(19.4), 高(5.4) | 高台径1/3 | 無 | |
| 369 | 1066 | SK04 | 陶 | 壺 | 壺 | 口(17.0), 底(4.0), 高(3.0) | 口径1/4 | 無 | |
| 370 | 1062 | SK04 | 陶 | 壺 | 壺 | 口(9.0), 底(2.0), 高(4.7) | 口径2/3 | 無 | |
| 371 | 1145-1 | SK04 | 陶 | 壺 | 壺 | 口(13.0), 底(3.0), 高(?) | 高台径3/4 | 無 | |
| 372 | 1145-2 | SK04 | 陶 | 壺 | 壺 | 口(14.2), 底(10.0), 高(7.1) | 高台径3/4 | 無 | |
| 373 | 1083 | SK04 | 陶 | 壺 | 壺 | 口(14.0) | 高台先端 | 無 | |
| 374 | | SK04 | 陶 | 壺 | 壺 | — | 石1/8. | 無 | |
| 375 | | SK04 | 陶 | 壺 | 壺 | — | 石1/9. | 無 | |
| 376 | 1190-1 | SK04 | 骨 | 臼齒 | 臼齒 | 口(19.0), 底(3.0), 高(1.5) | 口径1/2 | 無 | |
| 377 | (16) | SK04 | 陶 | 壺 | 壺 | — | 口径1/6 | 直(無芯孔) | |
| 378 | 1211 | SK04 | 陶 | 壺 | 壺 | 口(18.0) | 口径1/11 | 魚(1m以下の砂鉄を含む) | |
| 379 | 写眞のみ | 1198 | SK04 | 破 | 破 | 漆戸無品 | 口(3.0) | 無 | |
| 380 | 写眞のみ | 1241-1 | SK04 | 破 | 破 | 口(11.0) | 口径1/6 | 無 | |
| 381 | 写眞のみ | 1241-2 | SK04 | 破 | 破 | — | 破片 | 無 | |
| 382 | 写眞のみ | 1241-2 | SK04 | 破 | 破 | — | 口易部破片 | 無 | |
| 383 | 写眞のみ | 1250-1 | SK04 | 破 | 破 | つまみかけ | つまみかけ3/4 | 無 | |
| 384 | 写眞のみ | 1260-2 | SK04 | 破 | 破 | 地(9) | 高台ほば形 | 無 | |
| 385 | 写眞のみ | 1250-3 | SK04 | 破 | 破 | 地(9) | 高台径1/2 | 無 | |
| 386 | 写眞のみ | 1250-4 | SK04 | 破 | 破 | 地(4.0) | 高台径1/3 | 無 | |
| 387 | 写眞のみ | 1201 | SK04 | 破 | 破 | 口(9.0), 底(5.0), 高(1.8) | 口径1/5 | 無 | |
| 388 | 写眞のみ | 1242 | SK04 | 破 | 破 | 口(19.0), 底(16.0), 高(5.0) | 口縁部破片 | 無 | |
| 389 | 写眞のみ | 1199-7 | SK04 | 漆 | 漆 | 漆戸無品 | 漆戸 | 無 | |
| 393 | 1069 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸表面 | 漆戸変形 | 無 | |
| 394 | 1014 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 口(12.0), 底(1.0), 高(3.0) | 漆戸変形 | 無 | |
| 395 | 1010 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 口(12.0), 底(4.0), 高(6.0) | 口径2/3 | 無 | |
| 396 | 1133 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸 | 残1/2 | 無 | |
| 397 | 1144 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 口(15.0), 底(7.0), 高(7.5) | 漆戸変形 | 無 | |
| 398 | 1158 | SK02 | 漆 | (汚口)漆 | 漆 | 漆戸表面 | 口径3/7 | 無 | |
| 399 | 1395 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 口(9.0), 底(7.0), 高(13.5) | 漆戸変形 | — | |
| 400 | 1130 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸表面 | 口(9.0), 底(7.0), 高(5.1) | 口径1/3 | |
| 401 | 1134 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸表面 | 口(9.0), 底(3.0), 高(4.0) | 口径1/3 | |
| 402 | 1195 | SK02 | 土總 | 土總 | 土總 | 漆戸表面 | 口(9.0), 底(2.0), 高(4.0) | 口径1/4. | |
| 403 | 1123 | SK02 | 土總 | 土總 | 土總 | 漆戸表面 | 口(9.0), 底(4.0), 高(4.0) | 口径3/4. | |
| 404 | 1117 | SK02 | 土總 | 土總 | 土總 | 漆戸表面 | 口(9.0), 底(4.0) | 漆戸変形 | 中(3.0大の石抜孔を含む) |
| 405 | 1015 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸表面 | 口(9.0), 底(7.0), 高(4.5) | 口径1/2 | |
| 406 | 1011 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸表面 | 口(9.0), 底(3.0), 高(4.0) | 口径1/3 | |
| 407 | 1002 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸表面 | 口(9.0), 底(2.0), 高(4.0) | 口径1/4. | |
| 408 | 1008 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸表面 | 口(9.0), 底(2.0), 高(4.0) | 口径2/7 | |
| 409 | 1001 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸表面 | 口(9.0), 底(3.0), 高(4.0) | 口径1/2 | |
| 410 | 1002 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸 | 口(2.0), 底(1.0), 高(1.5) | 口径1/2 | |
| 411 | 1015 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸 | 口(1.5), 底(1.0), 高(1.5) | 口径1/2 | |
| 412 | 1012 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸 | 口(1.5), 底(1.0), 高(1.5) | 口径1/2 | |
| 413 | 1119 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸 | 口(2.0), つまみかけ, 高(2.0) | 口径3/4 | |
| 414 | 1013 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸 | 口(9.0), 底(4.0), 高(5.0) | 漆戸変形 | |
| 415 | 1168 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸 | 口(9.0), 底(7.0), 高(5.0) | 口径1/10 | |
| 416 | 1118 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸 | 口(9.0), 底(5.0), 高(5.0) | 漆戸変形 | |
| 417 | 1151 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸 | 口(9.0), 底(2.0), 高(4.0) | 口径3/8 | |
| 418 | 1128 | SK02 | 漆 | 小井 | 漆 | 漆戸 | 口(7.0), 深(2.0), 高(3.0) | 口径1/3 | |
| 419 | 1006 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸 | 口(9.0), 底(5.0), 高(5.0) | 漆戸変形 | |
| 420 | 1006 | SK02 | 漆 | 漆 | 漆 | 漆戸 | 口(9.0), 底(5.0), 高(5.0) | 漆戸変形 | |
| 421 | 1005 | SK02 | 漆 | 紅漆 | 漆 | 漆戸 | 口(9.0), 底(5.0), 高(5.0) | 漆戸変形 | |

出土遺物観察表（6）

| 遺物番号 | 写真番号 | 法規番号 | 遺物種別 | 直径 | 底面 | 高さ(cm) | 既往歴 | 出土 |
|----------|--------|------|------|------|-------|-------------------|-----------|-------------------|
| 422 | 1190 | SK02 | 磁 | 三 | 肥前 | 約5.7 | 高台完形 | 板 |
| 423 | 1056 | SK02 | 磁 | 小皿 | 肥前 | 口7.7、底4.2、高2.3 | 質軒 | 板 |
| 424 | 1142 | SK02 | 磁 | 皿 | 肥前 | 口14.7、底9.1、高4.3 | 高台完形 | 板 |
| 425 | 1141 | SK02 | 磁 | 花器 | 肥前 | 口8.1 | 口輪部元形 | 板 |
| 426 | | SK02 | 磁 | 伝馬鉢 | 肥前 | 底5.0 | 底部元形 | 板 |
| 427 | 1168 | SK02 | 磁 | 大皿 | 肥前 | 口32.3、底17.9、高5.0 | 深津完形 | 板 |
| 428 | 1171 | SK02 | 磁 | 花瓶 | 肥前 | 口12.5、底12.4、高30.4 | 日復元形 | 板 |
| 429 | 1004 | SK02 | 陶 | 碗 | 灰 | 口7.7、底3.5、高3.5 | 口径2/5 | 板 |
| 430 | 1187 | SK02 | 陶 | 不規 | 直・俊徳系 | — | 破片 | 板 |
| 431 | 1131 | SK02 | 陶 | 土瓶 | 直・俊徳系 | 口6.6、底8.2、高8.2 | 残存1/2 | 板 |
| 432 | | SK02 | 陶 | 急須 | — | 口5.5 | 残存4/5 | 板 |
| 433 | | SK02 | 陶 | 不規 | — | — | — | 板 |
| 434 | 1146 | SK02 | 陶 | 火入れ | — | 口11.6、底11.6、高9.4 | 深津完形 | 板 |
| 435 | 1170 | SK02 | 陶 | 花瓶 | — | 口9.3、底9.4、高24.3 | 底部元形 | 板 |
| 436 | 1169 | SK02 | 陶 | 大皿 | 沼戸美濃 | 口22.8、底16.0、高6.4 | 口径3/4 | 板 |
| 437 | | SK02 | 陶 | 水鉢 | 沼戸美濃 | 口20.6 | 高台径1/3 | 板 |
| 438 | 1239 | SK02 | 陶 | 壺 | 信濃 | 口6.7 | 口径3/4 | 中(砂炒含む) |
| 439 | 1192 | SK02 | 陶 | 壺 | — | 口15.0、底14.6、高4.0 | つまみ足残 | 板 |
| 440 | 1120 | SK02 | 陶 | 土瓶 | — | 口9.3、底大径10.5、高2.5 | 口径1/3 | 板 |
| 441 | 1017 | SK02 | 陶 | 鳥群 | 直・俊徳系 | 口10.0、底5.0、高5.4 | 口径5/9 | 板 |
| 442 | —1096 | SK02 | 陶 | 灯明皿 | 直・俊徳系 | 口12.0、底4.5、高1.3 | 口径3/4 | 板 |
| 443 | 1187 | SK02 | 瓦質 | 瓦質 | — | 口13.9、底3.3 | 口徑元形 | 中 |
| 444 | 1114 | SK02 | 土師質 | 小皿 | — | 口6.4、底5.6、高1.6 | 完形 | 中 |
| 445 | 1194 | SK02 | 土師質 | サナ | — | 口径12.0、厚1.0 | 口径1/3 | 中 |
| 446 | 1165 | SK02 | 陶 | 鉢 | — | 口31.0、底17.0、高14.0 | 底部ほぼ完形 | 板 |
| 447 | 1159 | SK02 | 陶 | 唐津 | 明石 里 | 口31.0、底20.0、高12.8 | 口径3/7 | 板 |
| 448 | 1208 | SK02 | 陶 | 唐津 | 明石 里 | 口38.0 | 口径1/6 | 板 |
| 449 | 1207 | SK02 | 陶 | 唐津 | 保前 | 口31.0 | 口径1/9 | 板(砂炒含む) |
| 450 | 1172-3 | SK02 | 土師質 | 桶の前 | — | 高19.5 | ほぼ完形 | 中(1~2mmの小石を覆かに含む) |
| 451 | 1172-2 | SK02 | 土師質 | 桶の前 | — | 高20.0 | 口3/4 | 板 |
| 452 | 1172-1 | SK02 | 土師質 | 桶の前 | — | 高19.0 | ほぼ完形 | 板 |
| 453 | 1156 | SK02 | 瓦質 | 煎餅 | — | — | — | 中 |
| 454 | 1165 | SK02 | 土師質 | 泥裏子 | — | 口径27.5、厚0.6 | 完形 | 板 |
| 455 | 1181 | SK02 | 陶 | 器豆 | — | — | — | 板 |
| 456 | 1135 | SK02 | 陶 | 鶴瓶 | — | 口径3.0 | — | 板 |
| 457 | 1136 | SK02 | 土師質 | 人形 | — | 口径2.7 | — | 板 |
| 458 | 1394 | SK02 | 土師質 | 人形 | — | 口径2.7、高4.2 | 人形の頭部以外完形 | 板 |
| 459 | 1189 | SK02 | 土師質 | 人形 | — | — | 破片 | 板(裏面多く含む) |
| 460 | 1137 | SK02 | 土師質 | いのしし | — | 幅18.、長53.、高5.7 | ほぼ完形 | 板 |
| 461 写真のみ | 1193 | SK02 | 磁 | 磁 | — | 口17.0 | 口縁部破片 | 板 |
| 462 写真のみ | 1057 | SK02 | 磁 | 小皿 | 肥前 | 口径10.0、底4.5、高1.4 | 口径1/3 | 板 |
| 463 写真のみ | 1192 | SK02 | 陶 | 土瓶 | — | — | 破片 | 板 |
| 471 | 1071 | SK02 | 磁 | 三 | 肥前 | 口13.8、底8.0、高3.6 | 口径7/12 | 板 |
| 472 | 1153 | SK12 | 土師質 | 壺 | — | 底21.6 | 底部4/5 | 細(砂炒含む) |

| 構成 | 色調(動詞) | 色調の割合、内色色調 | 色調の属性、上級 | 範例 | 製作年代 | 保存 | 現存場所 |
|-----|--------------------|---|--|------|------------|--|------|
| - | 白色 | 薄・透明感 内:SGY/1/皮白色 外:透明感 | 淡黄・淡青色 | | | 東洋のみに幾何学文 | |
| - | | 透・透明感 内:SGY/1/皮白色 外:透明感 | 淡青・暗青色 | | 16世紀後半 | 高台内(或セ年製) | |
| - | NB/0区白色 | 内:SGY/1/皮白色 外:透明感 | 淡黄・明黄色 | | 18世紀後半 | 高台内(或セ年製)、松の目彫刻高台 大袖羽根 | |
| - | NB/0区白色 | 内:SGY/1/皮白色 外:透明感 | 上級・厚・無地 | | | 赤船の花器の口盤裏 | |
| - | NB/0区白色 | 内:SGY/1/皮白色 外:透明感 | 上級・厚・無地 | | 19世紀 | 細かい模様 | |
| - | NB/0区白色 | 内:SGY/1/皮白色 外:透明感 | 淡青・暗青色 | | 19世紀 | 筆記文 | |
| - | NB/0区白色 | 内:SGY/1/皮白色 外:透明感 | ビラ咲け・白・淡茶色 | | 19世紀前葉 | 赤地きのビラ咲け紙帳。高台内に妙付書 | |
| - | NB/0区白色 | 内:SGY/1/皮白色 外:透明感 | 上級・薄・無地 | | | 京焼きの赤茶 | |
| - | 7SVR/4/褐色灰色 | 薄・透明感 内:7SYR/4/褐色 外:5G5/1/皮白色 | 淡青・淡青色 | | | | |
| - | 7SVR/7/3/ない褐色 | 薄・透明感 内:7SYR/7/3/皮白色 外:5G5/1/皮白色 | 淡青・淡・薄・茶色 | | | | |
| - | 7SVR/7/3/ない褐色 | 薄・透明感 内:7SYR/7/3/皮白色 外:5G5/1/皮白色 | 淡青・淡・薄・茶 外底・無地 | | 15世紀後半 | 色絵丸形 | |
| - | 25GY/7/1/明るいオーバー反毛 | 薄・透明感 内:SYR/7/1/皮白色 外:白羅織・7SY/2/皮白色 | 淡・薄・茶 外底・無地 | | | 透彫「イキ」アの墨書き | |
| - | 7SVR/7/3/ない褐色 | 薄・透明感 内:SYR/7/3/皮白色 外:白羅織・7SY/2/皮白色 | 外底・無地 | | | 馬の目大皿 墨書き | |
| - | NB/0区白色 | 薄・透明感 内:SGY/1/皮白色 外:透明感 | 文様・墨褐色 | 底・無地 | 19世紀前半 | | |
| - | 7SYR/1/皮白色 | 薄・7SYR/2/淡黄色 | 外底・無地 | | 18世紀 | 床跡地に輪郭を毫メカニカルに大きく強いつらぎで曲線や點状文による底落文 が描かれる富田桜の可能性もある | |
| - | 10YR/8/2/灰白色 | 外:SVR/3/緑茶褐色 | 外・透明感・若手の方 向に付く・内・ロクロ 底 | | | | |
| やや板 | 3YR/9/褐色 | 内:SGY/9/皮赤褐色 外:7SYR/3/褐色 | | | | 300の土程の墨 | |
| - | 25Y/7/1/皮白色 | 内:SGY/7/1/皮白色 外:25Y/7/1/皮白色 | | | | | |
| - | NB/0区白色 | 薄・7SY/1/皮白色 | 文様・紅茶色・柄輪子 字 | | | | |
| - | 7SYR/7/3/皮白色 | 薄・7SY/7/2/皮白色 | 外・ナデ | | | 赤・無地 | |
| やや板 | NB/0区白色 | 内:25Y/7/1/皮白色 外:25Y/7/1/皮白色 | 内:透明感・ナデ・赤 外:ナデ | | | 瓦絵背景 | |
| 良 | 7SYR/8/1/透青褐色 | 10YR/8/2/透青褐色～ 7SYR/8/褐色 | 内:ナデ | | | | |
| - | 10H/4/4赤褐色 | 内:25YR/2/褐増青褐色 | 内・ナデ・元代状の 底落文・外・口縁 部ナデ・無地・底・横 方向のナデ | | | 透ね跡 | |
| - | 10H/8/6赤色 | 内:7SYR/2/皮赤色 | | | 16世紀半～18世紀 | | |
| - | 10R/8/6赤色 | 内:6・7SR/3/1皮赤褐色 | 内:ナデ・ナデ 底上部・ウラ部分 | | 18世紀半～19世紀 | スリ目12本 | |
| やや板 | 25Y/7/3/明るい反毛 | 内:25Y/7/4/に赤褐色 口縁部・7SYR/2/皮黄色 | | | 17世紀前半 | スリ目 曲脚1脚 | |
| 良 | 25Y/7/3/明るい反毛 | 内:25Y/7/4/皮白色～ 7SYR/4/4赤褐色 | | | | | |
| - | 7SYR/8/4/透青褐色 | 外:7SYR/2/1皮褐色 | 内・工具痕・外・打 牛 | | | 刻印あり | |
| 良 | 7SYR/7/3/ない褐色 | 内:白色系・10YR/4/6褐色 外:7SYR/4/4赤褐色 | 表・いいねいなナデ | | | 墨書きの文様 | |
| やや板 | 25YR/4/1/こじり褐色 | 45・SYR/4/4/こじり褐色 | 白 | | | 赤 | |
| 良 | 10YR/8/2/透青褐色 | 10YR/8/2/透青褐色 | 表・赤・底・墨書きあり 表面にキツコ付見 | | | | |
| - | 10YR/8/2/透青褐色 | 薄・透明感 | 表・工具による 表 指圧痕 | | | | |
| やや板 | 5YR/4/4/こじり褐色 | 外・5YR/4/透青褐色 内:透明感・内:5・白色 | 白・墨色 | | | 墨書きの他かった猪 | |
| - | 10YR/8/2/透青褐色 | 薄・透明感 | 上級・薄・茶 | | | 赤絵 | |
| - | 白色 | 内:6・7SYE/1/皮白色 | 乳渕・暗青色 | | | | |
| - | 10YR/7/3/2/ない黄褐色 | 薄・透明感・内:6・7SYE/2/2/分 い黄褐色・外:5・白色・ 内:透明感 | 底・墨・青・茶・緑色 | | | | |
| - | NB/0区白色 | 内:6・7SYE/1/皮白色 | 底・淡・暗青色 | | 19世紀～中 | 蛇の目高台 | |
| 良 | 10YR/8/2/透青褐色 | | 内・底ナデ・外体・墨 ナデを斜マサテです 内底・中央部は不定 | | | | |

出土瓦観察表 (1)

| 遺物番号 | 出土地名 | 不規則度 | 遺物種別 | 西(西) | 東(東) | 北(北) | 南(南) | 上位部 | 下位部 | 最大長 | 最大幅 | 高さ | 法量(単) | | | 地土 | 色 | | |
|------|------|------|------|-----------|---------|-------|------|-----|-----|-----|-----|----|------------|-----|----------|---------|--------|-----------|-----------|
| | | | | | | | | | | | | | 丸柱頭 角柱頭 | 厚さ | 底面存 在 | 孟底長さ | 高さ | | |
| 12 | SK03 | 1306 | 軒丸瓦 | 13.3 | 8.5 | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 13 | SK01 | 1305 | 軒丸瓦 | 12.8 | 10.0 | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 20 | SK10 | 1307 | 軒丸瓦 | 12.9 | 9.8 | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 36 | SK02 | 1310 | 軒丸瓦 | 12.8 | 9.5 | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 37 | SK05 | 1305 | 軒丸瓦 | 13.6~14.2 | 9.2~9.7 | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 38 | SK05 | 1321 | 軒丸瓦 | 14.0 | 10.0 | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 52 | SK01 | 1306 | 軒丸瓦 | 13.8 | 9.0 | 22 | | | | | | | | 1.7 | | | | 500g/2枚白色 | |
| 53 | SK01 | 1305 | 軒丸瓦 | 13.7 | 8.9 | 22 | | | | | | | | | 12~17 | | | 350g/2枚白色 | |
| 54 | SK01 | 1307 | 軒丸瓦 | 13.5~14.0 | 10.0 | 18~20 | | | | | | | | | 1.7 | | | 350g/1枚白色 | |
| 55 | SK01 | 1310 | 軒丸瓦 | 14.2 | 9.9 | 12 | 10 | 7.9 | 7.8 | | | | | | | | | 500g/2枚白色 | |
| 56 | SK01 | 1346 | 軒丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 57 | SK01 | 1347 | 軒丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 58 | SK01 | 1343 | 軒丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 59 | SK01 | 1343 | 軒丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 60 | SK01 | 1346 | 軒丸瓦 | 13.7 | 10.2 | 18~20 | | | | | | | | | 1.5 | | | 350g/1枚白色 | |
| 61 | SK01 | 1345 | 軒丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 62 | SK01 | 1346 | 軒丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | | 500g/1枚白色 | |
| 67 | SK18 | 1298 | 軒丸瓦 | | | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 68 | SK18 | 1295 | 軒丸瓦 | 13.4~17.3 | 9.7 | 2.8 | | | | | | | | | 1.4~1.8 | | | 350g/1枚白色 | |
| 69 | SK18 | 1307 | 軒丸瓦 | 14.0 | 10.1 | 2.0 | | | | | | | | | 1.5~1.9 | | | 350g/1枚白色 | |
| 70 | SK18 | 1368 | 軒平瓦 | 3.8 | | | | 1.0 | 0.8 | | | | | | 1.0~1.5 | | | 350g/1枚白色 | |
| 71 | SK18 | 1313 | 斜平瓦 | 3.0 | | | | | | | | | | | 1.0~1.5 | | | 350g/1枚白色 | |
| 72 | SK18 | 1369 | 斜平瓦 | 3.1 | 1.6 | | 1.2 | 0.7 | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 83 | SK09 | 1332 | 軒丸瓦 | 14.0 | 9.1 | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 102 | SK01 | 1344 | 軒丸瓦 | | | | | | | | | | | | 12.3 | 12.0 | 5.4 | 350g/1枚白色 | |
| 103 | SK01 | 1351 | 軒丸瓦 | 13.0 | 7.8 | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 | |
| 104 | SK01 | 1373 | 斜平瓦 | | | | | | | | | | | | 17.8 | 1.3~1.5 | 17.8 | 350g/1枚白色 | |
| 105 | SK01 | 1276 | 斜平瓦 | | | | | | | | | | | | | 24.4 | 0.13.0 | | 350g/1枚白色 |
| 106 | SK01 | 1377 | 斜平瓦 | | | | | | | | | | | | | 25.0 | 1.5 | 22.0 | 350g/1枚白色 |
| 107 | SK01 | 1385 | 丸瓦 | | | | | | | | | | | | | 21.7 | 1.5 | 12.2 | 350g/1枚白色 |
| 108 | SK01 | 1367 | 丸瓦 | | | | | | | | | | | | | 23.1 | 1.7 | 11.8 | 350g/1枚白色 |
| 109 | SK01 | 1361 | 丸瓦 | | | | | | | | | | | | | 22.8 | 1.7 | 6.8 | 350g/1枚白色 |
| 110 | SK01 | 1383 | 丸瓦 | | | | | | | | | | | | | 23.8 | 1.2 | 12.4 | 350g/1枚白色 |
| 111 | SK01 | 1379 | 軒平瓦 | | | | | | | | | | | | | 0.06 | 2.2 | (23.0) | 350g/1枚白色 |
| 115 | SK21 | 1310 | 軒丸瓦 | 14.8 | 10.0 | 2.6 | | | | | | | | | | 1.7~2.1 | | | 350g/1枚白色 |
| 128 | SK73 | 1308 | 軒丸瓦 | 14.0 | 10.2 | | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 |
| 140 | SK73 | 1308 | 軒丸瓦 | 13.7~14.2 | 10.0 | | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 |
| 141 | SK73 | 1387 | 斜平瓦 | | | | | | | | | | | | | | | | 350g/1枚白色 |
| 143 | SK01 | 1340 | 軒丸瓦 | | | | | | | | | | | | | 5.8 | 0.3 | 14~1.9 | 350g/1枚白色 |
| 164 | SK01 | 1341 | 軒丸瓦 | | | | | | | | | | | | | 6.6 | 13.0 | 10~1.5 | 350g/1枚白色 |
| 165 | SK01 | 1342 | 軒丸瓦 | | | | | | | | | | | | | 13.8 | 1.2 | | 350g/1枚白色 |

| 課 | 英語部分の体裁 | 説成 | 文様構成 | 備考 |
|--|------------------|-------------------------|------------------------|---|
| 表題 | 内面 | 外葉 | | |
| 内 2.97/1/床白色 外 3.98/2/床白色 | | 甘い | 連珠文(推定4) 斜存16個 巴文 3条 | 巴文の葉は高い、連珠文も高い。葉は深い。 |
| 内 N2/床白色～N2/床白色 外 N2/床白色 | | 良 | 連珠文(推定3以上) 斜存15個 巴文 3条 | 巴文の葉が低い、葉は斜めに高い。巴文の葉は開閉が頗る、葉も高い。(いい)、連珠文は小さい。 |
| 内 N2/床白色～N2/床白色 外 N2/床白色 | | 良好 | 連珠文 14個 巴文 3条 | 上2.97の葉に合わせた低い高い、葉は広くて長い。連珠文は大きい。 |
| 内 N2/床白色 | | 甘い | 連珠文 9個 巴文 3条 | 巴文は高く、葉は複数する。連珠文は開いている。 |
| 内 2.97/1/床白色 外 3.98/2/床白色 | | 良 | 連珠文 24個 巴文 3条 | 葉が大きい。巴文の葉には止め割合が低い。巴文は細くて長く葉は深い。連珠文は2列ある。小くて高い。 |
| 内 2.97/1/床白色～N2/床白色 外 1.57/1/床白色～N2/床白色 | | 良 | 連珠文 12個 巴文 2条 | 巴文の葉は複数で大きい、葉は深い。連珠文は2種類、開閉が傾く。1列所で葉が開まれる。 |
| N2/床白色 | | やや良 | 連珠文(推定16) 斜存9個 巴文 2条 | 巴文は深く、葉は複数する。連珠文はやや大きめにある。辺りは良い。 |
| 7.91/1/床白色 | | 甘い | 連珠文(推定15) 斜存9個 巴文 3条 | 葉は深く、葉も開閉が間に、連珠文は密にあります。葉先で葉集が認められる。 |
| 7.91/1/床白色 | | やや不良 | 連珠文 15個 巴文 3条 | 葉の先の生のため割合は高く、葉も複数する。連珠文は小ぶりで複数ある。 |
| 5.91/2/床白色 | | やや不良 | 三つ連珠文 | |
| N2/床白色～N2/床白色 | 3ビキモと有田銀。 | 不良 | 瀬波文 装存7個 巴文 | 巴文の葉は長い、瀬波文は密にある。 |
| 巴文・裏葉: N2/床白色 蓝色系 3ビキモ/床白色 | | やや不良 | 連珠文 球形5個 巴文 | 巴文、文様は割れが深い、連珠文は開閉がC。 |
| N2/床白色～7.91/1/床白色 | | 良 | 連珠文 斜存7個 巴文 2条 | 巴文は太く(直角)に止め割合がない。葉も大く複数する。連珠文はほとんどなく、巴文の葉が細く、葉縁が鋸歯状。 |
| N2/床白色～7.91/1/床白色 | | やや良 | 連珠文 斜存7個 巴文 | 巴文の葉は複数ある割合が低い。連珠文は小ぶりで密である。 |
| 7.91/1/床白色 | | 甘い | 連珠文 12個 巴文 3条 | 巴文の葉が非常に多く複数ある。葉は複数する。連珠文は細かい。 |
| 7.91/1/床白色 | | やや不良 | 連珠文(推定15) 斜存9個 巴文 3条 | 葉は深く、葉も開閉が間に、連珠文は密にあります。葉先で葉集が認められる。 |
| 7.91/1/床白色 | | やや不良 | 三つ連珠文 | |
| N2/床白色～N2/床白色 | 3ビキモと有田銀。 | 悪 | 瀬波文 装存9個 巴文 | 巴文の葉は長い、瀬波文は密にある。 |
| 7.91/1/床白色 | | 不良 | 連珠文(推定16) 斜存8個 巴文 3条 | 巴文、巴文は小ぶりで密にあります。丸葉の東西だけ位置は互換あります。 |
| 内 N2/床白色～N2/床白色 | 有田銀。 | 悪 | 連珠文(推定24) 斜存5個 巴文 | 巴文の葉が密にあります。葉は斜めに高い。連珠文は密です。 |
| 7.91/1/床白色 | | 不良 | 連珠文(推定24) 斜存10個 巴文 | 巴文の葉が密にあります。葉は斜めに高い。連珠文は密です。 |
| 7.91/1/床白色 | | やや不良 | 連珠文 10個 巴文 3条 | 巴文の葉は複数ある割合が低い。巴文は広く長い葉が複数する。連珠文は1列並んで、小ぶりである。 |
| N2/床白色～N2/床白色 | | 良 | 連珠文(推定16) 斜存8個 巴文 3条 | 巴文の葉は太く高い。連珠文は密にあります。 |
| 7.91/1/床白色 | | 不良 | 三つ連珠文 | |
| N2/床白色～N2/床白色 | | やや不良 | 下り三つ連珠文 | 表葉の葉は中央から外側へ下上で向く。 |
| N2/床白色～N2/床白色 | | 良好 | 打ち出の小環連珠文 | 繋ぎり付け。 |
| 内 N2/1/床白色～N2/1/床白色 | | 良 | 連珠文(推定11) 斜存5個 巴文 3条 | 巴文の葉は複数する。連珠文は16個ある。小葉にあります。 |
| 内 N2/1/床白色 | 3ビキモと有田銀。 | 程方向のへらけり | 程(やや重い) | 連珠文、横幅 巴文 3条 |
| 内 N2/1/床白色 | 3ビキモと有田銀。 | 程方向のへらけり | 程(やや重い) | 巴文の葉は複数する。連珠文は16個ある。小葉にあります。 |
| 内 N2/1/床白色 | 3ビキモと有田銀。 | 程方向に斜めのへらけり | 程 | 巴文は太く高い。連珠文は大きめにあります。径1.8～2.0の程 |
| 内 N2/0床白色 并 N2/0床白色 | 3ビキモと有田銀方向へ1ten保 | 程方向へへらけりの後複雜程 め方向に斜め | 程好 | 巴文の葉は大きめに止め割合が多い。連珠文は大きめである。 |
| 表 1.57/2/床白色 内 N2/0床白色 | | 良好 | 横幅 | 横幅り付け、葉は次の葉は中心から左へ下へ向き。 |
| 表 1.57/2/床白色 内 N2/0床白色 | | 良好 | 横幅連珠文 | 104と同形。繋ぎり付け。 |
| 内 N2/0床白色 | | 良好 | 横幅連珠文 | |
| 内 N2/0床白色 并 N2/0床白色 | 当所で7mのへらけり區。 | 横 橫方向にナデ。 | 良好 | — |
| 内 N2/0床白色 并 N2/0床白色 | 当所で7mのへらけり區。 | 横 橫方向にナデ。 | 良好 | — |
| 内 N2/0床白色 并 N2/0床白色 | 3ビキモと有田銀のへらけり。 | 横 橫方向へへらけりの後にナデ。 | 良好 | — |
| 内 N2/0床白色 并 N2/0床白色 | 當所で7mのへらけり區。 | 横方向にナデ。 | 良好 | — |
| 内 N2/0床白色 | コザ刺頭。 | 横方向にへらけり。 | 良好 | — |
| 表 N2/0床白色～N2/0床白色 表 N2/0床白色 | | 良好 | — | 連珠文 |
| N2/0床白色 | | やや重い | 連珠文 12個 巴文 3条 | 巴文は高い。 |
| 内 N2/0床白色 | | 良 | 連珠文 16個 巴文 3条 | 巴文の葉は密にあります。繋ぎり付け。 |
| 内 N2/0床白色 | | 不良 | 連珠文 16個 巴文 3条 | 巴文は太く葉は開いている。連珠文は16個あり小ぶりで密にあります。 |
| 内 N2/0床白色 外 2.97/1/床白色～N2/0床白色 | | 良 | 紅梅連珠文 | 葉は後で繋ぎり付けている。 |
| 内 N2/0床白色 外 2.97/1/床白色 | | 不良 | 連珠文 装存4個 巴文 | 巴文の葉は密にあります。連珠文は大きい。 |
| N2/0床白色 | | 良 | 連珠文 装存10個 巴文 3条 | 巴文の葉は複数ある。連珠文は密にあります。 |
| N2/0床白色 | 綿いコピキモ。 | 縱方向にまなへらけり。 | 良好 | 連珠文(推定16個) 装存9個 巴文 3条 |

出土瓦観察表 (2)

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|------|-----|----------|------|---------|------|-----|-------|-----------|-----|------|--|--|---------------------------------|-----------|
| 165 | SK40 | 1271 | 軒平瓦 | 3.5 | 2.0 | | 0.8 | 0.6 | | 1.8 | | | | | 中や暗(1cm以下の黒色粘子、石粒 を多く含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 166 | SK42 | 1262 | 軒丸瓦 | 3.8 | 3.0 | | | | | 1.2~1.5 | | | | | 中や暗(1cm以下の石粒を含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 168 | SK42 | 1252 | 軒丸瓦 | 4.0 | 1.9 | | | | | 1.5~1.8 | | | | | 中や暗(1cm以下の石粒を含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 169 | SK42 | 1253 | 軒丸瓦 | 3.7 | 5.8 | 2.0~2.3 | | | | 1.8~1.9 | | | | | 中や暗(1cm以下の石粒 を含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 201 | SK28 | 1254 | 軒丸瓦 | 4.1 | 1.6 | 1.8~2.4 | | | | 1.7~1.9 | | | | | 中や暗(1cm以下の石瓦、石粒を 含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 202 | SK28 | 1256 | 軒丸瓦 | 4.0 | 1.0 | 2.3 | | | | 1.7 | | | | | 中や暗(1cm以下の石瓦、石粒を 含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 203 | SK28 | 1265 | 軒丸瓦 | 3.4~1.4 | 9.2 | 1.8 | | | | 1.4 | | | | | 中や暗(1cm以下の黒色粘子、石 粒を含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 204 | SK28 | 1272 | 軒平瓦 | 3.8 | | | 1.4 | 0.7 | 0.2 | 15.7 | 1.7 | | | | 中や暗 | 7.5V/1灰白色 |
| 205 | SK28 | 1274 | 軒平瓦 | 3.3 | 1.9 | | 0.65 | 0.6 | | 1.0 | | | | | 中や暗(1cm以下の石瓦、石粒、 赤色粘子を多く含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 222 | SK40 | 1304 | 軒丸瓦 | | | | | | | | | | | | 赤褐色、小石を僅かに含む | 7.5V/1灰白色 |
| 270 | SK25 | 1348 | 軒丸瓦 | 4.0 | 9.3 | 2.9 | | | | 1.7 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 271 | SK25 | 1361 | 軒丸瓦 | 12.0 | 0.3 | 1.2 | | | | 1.4 | | | | | 中や暗(1cm以下の石瓦を非常に含 む) | 7.5V/1灰白色 |
| 272 | SK25 | 1366 | 軒平瓦 | 3.8 | 2.2 | | | | | 1.4~1.6 | | | | | 中や暗(1cm以下の赤色粘子を 多く含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 278 | SK38 | 1311 | 軒丸瓦 | 3.7 | 9.8 | 2.6 | | | | 1.4~1.6 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 279 | SK38 | 1316 | 軒丸瓦 | | | | | 7.1 | 13.0 | 1.7 | | | | | 中や暗(1cm以下の黒色粘子、赤色粘子 を含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 280 | SK38 | 1317 | 軒丸瓦 | 7.4~13.7 | 8.8 | 2.3 | | | | 1.3 | | | | | 中や暗(1cm以下の赤色粘子、 直角粘子、直角瓦を含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 306 | SK40 | 1315 | 軒丸瓦 | 15.1 | 0.2 | 1.8 | | | | 1.8~1.6 | | | | | 中や暗(1cm以下の石瓦、石粒、 黒色粘子を多く含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 310 | SK47 | 1324 | 軒丸瓦 | 12.4 | 4.6 | 1.7~2.0 | | | | 1.7 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 311 | SK47 | 1321 | 軒丸瓦 | | | | | 8.8 | 10.3 | 1.5 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 312 | SK47 | 1323 | 軒丸瓦 | 13.7 | 4.8 | 2.9 | | | | 1.5 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 313 | SK47 | 1326 | 軒丸瓦 | 14.0 | 19.4 | 1.8 | | | | 1.4~1.6 | | | | | 中や暗(1cm以下の石粒を僅かに含 む) | 7.5V/1灰白色 |
| 314 | SK47 | 1325 | 軒丸瓦 | 14.7 | 9.8 | 2.3~2.6 | | | | 1.7~2.2 | | | | | 中や暗(1cm以下の黒色粘子、石 粒を僅かに含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 315 | SK47 | 1322 | 軒丸瓦 | | | | | | 8.0 | 9.2 | 1.4 | | | | 中や暗(1cm以下の石瓦、石粒を 含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 329 | SK54 | 1312 | 軒丸瓦 | 15.1 | 9.2 | 2.6~2.8 | | | | 1.9 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 330 | SK54 | 1313 | 軒丸瓦 | 12.2 | 4.7 | 1.7 | | | | 1.3 | | | | | 中や暗(1cm以下の石瓦、赤色粘子 を含む) | 2.5V/2灰白色 |
| 346 | SK53 | 1314 | 軒丸瓦 | 7.1~11.8 | 4.0 | 1.8 | | | | 1.5 | | | | | 中や暗(1cm以下の黒色粘子を 含む) | 7.5V/1灰白色 |
| 361 | SK40 | 1327 | 軒丸瓦 | 13.0 | 9.2 | 2.0 | | | | 1.2 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 362 | SK40 | 1328 | 軒丸瓦 | 12.8 | 4.8 | 2.1 | | | | 1.5 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 363 | SK40 | 1330 | 軒丸瓦 | 13.5 | 8.0 | 1.8~2.0 | | | | 1.1 | | | | | 留 | 5V/1灰白色 |
| 366 | SK40 | 1330 | 軒丸瓦 | | | | | 7.4 | 12.5 | 1.6 | | | | | | 7.5V/1灰白色 |
| 391 | SK42 | 1329 | 軒丸瓦 | | | | | | 6.8 | 9.2 | 1.5 | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 402 | SK42 | 1328 | 軒丸瓦 | | | | | | 8.9 | 12.3 | 1.7 | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 404 | SK42 | 1324 | 軒丸瓦 | 13.0 | 4.0 | 2.0 | | | | 1.4 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 415 | SK42 | 1330 | 軒丸瓦 | 12.6 | 8.8 | 2.0 | | | | 1.4 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 446 | SK42 | 1356 | 軒丸瓦 | | | | | | (8.8) | 1.4 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 447 | SK42 | 1360 | 軒丸瓦 | 13.0 | 9.1 | 1.9 | | | | 1.4 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 469 | SK42 | 1329 | 軒丸瓦 | 12.6 | 9.4 | 1.8~1.7 | | | | 1.4 (0.8) | 1.3 | | | | 中や暗 | 深灰色 |
| 469 | SK42 | 1364 | 軒丸瓦 | 13.0 | 8.8 | 2.0 | | | | 1.8 | | | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |
| 470 | SK42 | 1370 | 軒上瓦 | | | | | | | 24.8 | 17 | 34.8 | | | 留 | 7.5V/1灰白色 |

| NLの肌色 | | | やや良 | 悪草次 | 弱弱りけ |
|---------------------------------------|-------------------------|--------------|------|----------------------|---|
| T9Vb/1脚白色 | ゴサ状態。 | 縦方向にへう割り直。 | やや不良 | 連株文 9回 巴文 3枚 | 巴文の深は長い。連株文は1脚ある。 |
| 青角筋 T9Vb/1脚白色 黒葉 N9/9脚白くない | | | 不良 | 連株文 確保4回 巴文 3枚 | 巴文の深は浅すぎる。巴文や連株文は明暗である。 |
| 瓦指向 T9Vb/1脚白色 白葉 N9/9脚白くない | | | 不良 | 連株文 9回 巴文 3枚 | 巴文の深は浅すぎる。巴文や連株文は明暗である。 |
| 瓦指向 T9Vb/1脚白色 白葉 N9/9脚白くない | コビキのとを目底。 | 延方向にへう割り直。 | 苦い | 連株文 19回 巴文 3枚 | 瓦指向に古めの巴文の表現は広く、尾も長く連続する。連株文は25 番が少く、隠れは弱。 |
| N9/9脚白色 | 布目底。 | 板方向にへう割り直。 | 苦い | 連株文 19回 巴文 3枚 | 瓦指向に古めの巴文の表現は広く、尾も長く連続する。連株文は25 番が少く、隠れは弱。 |
| 瓦指向・裏葉 T9Vb/1脚白色 | コビキのとを目底。 | 縦方向にへう割り直。 | やや不良 | 連株文 8回 巴文 3枚 | 瓦指向に古めの巴文の表現は広く、尾も長く連続する。連株文は25 番が少く、隠れは弱。 |
| N9/9脚白色～N9/9脚白色 | | | 良 | 三つ三葉接ぎ式 | 唐草の茎は中央から側へ下へ凸く。 |
| 瓦指向 T9Vb/1脚白色 N9/9脚白色 白葉 N9/9脚白くない | | | やや不良 | 三つ麻葉寄草文 | 弱弱りけ。 |
| 内肉 NA9脚白色 | | | 良 | 連株文 (錦定12)確保4回 巴文 | 巴文の落書きは古めで、落書きは密である。 |
| 瓦指向 T9Vb/1脚白色 N9/9脚白色 白葉 N9/9脚白くない | | | やや不良 | 連株文 (黒走12)確保4回 巴文 3枚 | 巴文は薄くて、尾が潜る。連株文は小さく、間隔が狭く。 |
| 瓦指向・白葉 N9/9脚白色 | | 縦方向に些かへう割り直。 | やや良 | 連株文 確保4回 巴文 | 巴文は薄くて、尾が潜る。連株文は小さく、間隔が狭く。 |
| N9/9脚白色～N9/9脚白色 | | | 良好 | 連草文 | 唐草文斜瓦、強弱け付け。 |
| NA9脚白色 | | | やや良 | 連株文 24回 巴文 3枚 | 巴文は互に古めで、合せは底く、縫ぐで長い。連株文も24脚あり少くない。 |
| N9/9脚白色 | | | やや不良 | 連株文 6回 巴文 3枚 | 巴文は互に古めで、合せは底く、縫ぐで長い。連株文も24脚あり少くない。 |
| N9/9脚白色～N9/9脚白色 | | | 良好 | 連株文 6回 巴文 3枚 | 巴文は互に古めで、合せは底く、縫ぐで長い。連株文も24脚あり少くない。 |
| N9/9脚白色～N9/9脚白色 | | | 良好 | 連株文 4回 巴文 | 巴文は互に古めで、合せは底く、縫ぐで長い。連株文も24脚あり少くない。 |
| 23Vf/1脚白～N9/9脚白色 | | | 中や良好 | 連株文 (錦定12)確保4回 巴文 3枚 | 巴文は薄く、尾は潜る。連株文は小さく間隔は開いている。 |
| 23Vf/1脚白～N9/9脚白色 | | 縦方向の茎のへう割り直。 | やや不良 | 連株文 16回 巴文 3枚 | 巴文は深は長い。連株文は16回あり、小さく筋がある。 |
| N9/9脚白色～N9/9脚白色 | | | やや良 | 連株文 確保4回 巴文 | 巴文は薄く長い。連株文は小さく筋がある。 |
| N9/9脚白色～N9/9脚白色 | | | 良好 | 連株文 8回 巴文 3枚 | 筋には深い。連株文は幅があり大脚で隠れが弱く、隠れ筋が弱がみられる。 |
| N9/9脚白色 | | | 良 | 連株文 確保4回 巴文 3枚 | 巴文の尾は複合する。 |
| NS9脚白色 | | | 良好 | 連株文 8回 巴文 3枚 | 巴文の尾は複合する。連株文は幅があり隠れが弱いていて、連株文の筋には筋がある。 |
| N9/9脚白色 | | 縦方向に茎のへう割り直。 | 良好 | 連株文 8回 巴文 3枚 | 巴文は互に古めで、合せは底く、縫ぐで長い。連株文も24脚あり少くない。 |
| N9/9脚白色 | | | 良好 | 連株文 4回 巴文 3枚 | 巴文は互に古めで、合せは底く、縫ぐで長い。連株文も24脚あり少くない。 |
| N9/9脚白色～N9/9脚白色 | | | 不良 | 連株文 確保4回 巴文 | 巴文は薄く長い。連株文は大きめで隠れが弱く、隠れ筋が弱がみられる。 |
| N9/9脚白色～N9/9脚白色 | | | 良好 | 連株文 確保4回 巴文 3枚 | 巴文は細長い。連株文は大きめで隠れが弱く、隠れ筋が弱がみられる。 |
| 瓦指向・裏葉 N9/9脚白色 | | | 良好 | 連株文 8回 巴文 3枚 | 巴文は細長い。連株文は大きめで隠れが弱く、隠れ筋が弱がみられる。 |
| 瓦指向・裏葉 N9/9脚白色 | | | 良好 | 連株文 8回 巴文 3枚 | 巴文は細長い。連株文は大きめで隠れが弱く、隠れ筋が弱がみられる。 |
| 瓦指向・裏葉 N9/9脚白色 | | | 良好 | 連株文 8回 巴文 3枚 | 巴文は細長い。連株文は大きめで隠れが弱く、隠れ筋が弱がみられる。 |
| 瓦指向・裏葉 N9/9脚白色 | | | 良好 | 連株文 8回 巴文 3枚 | 巴文は細長い。連株文は大きめで隠れが弱く、隠れ筋が弱がみられる。 |
| N9/9脚白色～N9/9脚白色 | 瓦合側に11茎葉の縦割れの へう割り直。 | 縦方向のへう割り直。 | 良好 | 連株文 確保4回 巴文 3枚 | 連株文は大きく隠れは弱い。 |
| N9/9脚白色 | | | 良好 | 連株文 8回 巴文 3枚 | 巴文の隠れは底く長い。連株文は大きく隠れは弱くある。 |
| SP9d/1脚青葉 | | | 良好 | — | 巴文は細かい。連株文は大きめで隠れが弱く、隠れ筋が弱がみられる。 |

<写真図版>

遺構写真図版 1 ~ 9

出土遺物図版 1 ~ 22

※遺構番号右側の 4 衔の数字は写真（整理）番号



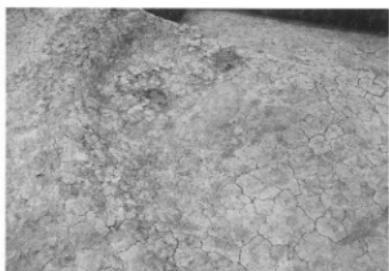
1 調査前



2 下層 西区 完堀



3 下層 西区 石検出



4 下層 西区 石取り除き完堀 東から



5 航空写真 調査地西側



6 航空写真 調査地東側



7 完堀西区1 北から1



8 完堀西区2 東から

遺構写真図版 2



9 完堀西区3 南から2



10 下層 東区 完堀全景 西から



11 SK82 完堀 北から



12 SK86・75・76・77・69 完堀 北から



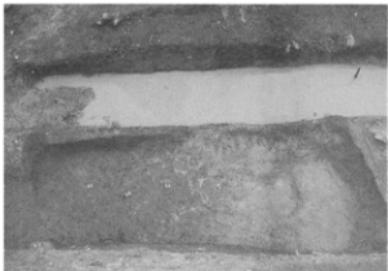
13 SK67 完堀 北から



14 SK68 完堀 南から



15 SK91 完堀 北から



16 SK70 完堀 東から



17 SK71・70 完堀 北から



18 SK70 出土遺物 箋



19 SK26 完堀 北から



20 SK59・62・60・65・73・74 完堀 北から



21 SK31 完堀 西から



22 SK18 完堀 南から

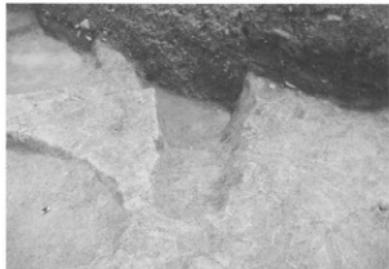


23 SK63手前左側とSK72 東上から

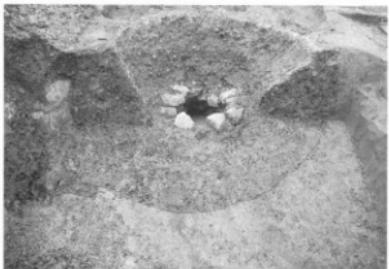


24 SE01航空写真

遺構写真図版 4



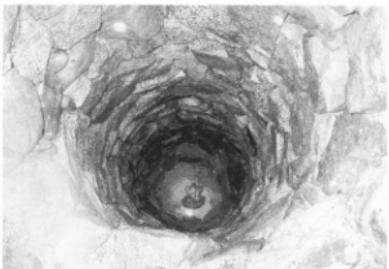
25 SK21 完堀 西から



26 SE01 井戸掘り方



27 SE01 井戸上から



28 SE01 井戸完堀 2



29 SE01 井戸半さい



30 SE01 井戸底



31 SX10井戸の埋められた状況 南から



32 SX10井戸の埋められた状況 西から



33 SK74 検出作業



34 SK32 完堀 西南から



35 SK33・65・SK32 完堀 南から



36 SK73 西南から



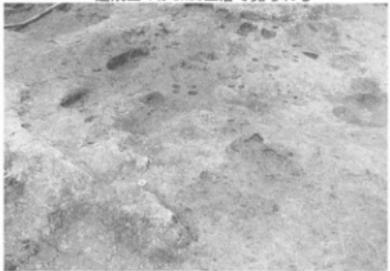
37 SK28 完堀 西から



38 SK33・SK28土層 中央部やや左よりは試掘トレンチ造成土 1がSK33上層で見られる



39 SX11 南から



40 SX11 南西から

遺構写真図版 6



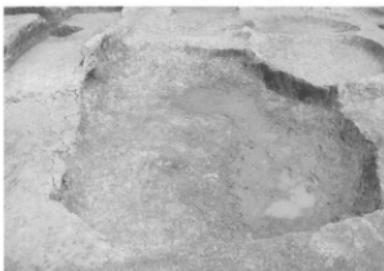
41 SK87・88 完掘 南から



42 SK20土層 西から



43 SK90 完掘 東から



44 SK05 完堀 南から



45 SK56完堀



46 SD10・SX04 完堀北から



47 SD10 北から遺物散布状況



48 SD10・SK52 検出 東から



49 SD10・SK52 検出 北から



50 SD10 石列取外し 北から



51 SK56・SP11・SP12 完堀 北から



52 SP12西から



53 SK49・50 (SX20の周囲) 南から



54 SK17 完堀 南から



55 SK53・54西から



56 SK03 完堀 東から

遺構写真図版 8



57 SK10 完堀 東から



58 SK04他遺構検出状況 南から



59 SK02東西土層 南から



60 SX12検出状況



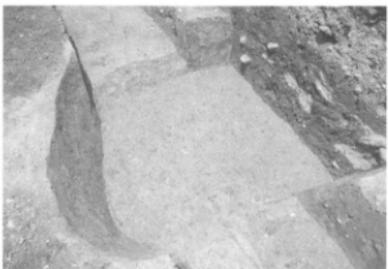
61 SD02 完堀 東南から



62 SD03 完堀 東から



63 SX20検出東から 2



64 SK40 完堀 東から